

平成22年度

平成23年度

業務年報／業務計画

(第55号)



八戸市農業経営振興センター

表紙写真解説 ～八戸市農業経営振興センター～

農業経営に関する支援業務を一元化するため、旧農政課及び旧農業振興課の業務の一部を旧農業交流研修センターに移管・集約し、平成 23 年 4 月 1 日から旧農業交流研修センターの名称を農業経営振興センターに変更いたしました。

農業経営振興センターは、農業者の経営基盤強化や担い手育成等の経営支援、ならびに、栽培技術の高度化・多様化に対応するための新技術の普及等、地域と密着した産地づくりに資するための拠点施設です。

また、市民農園や農業体験学習の場を市民の皆様にご利用いただくことにより、市民生活へうるおいの場を提供するとともに、農業に関する知識の普及や農業に対して親しみや理解を深めていただくことに積極的に取り組んでいます。

皆様方におかれましては、引き続き、御理解と御協力を賜りますようお願い申し上げます。

目次

第1施設の概要及び機構	1
第2業務報告	
2-1 気象	5
2-2 調査成績（施設野菜）	
1 いちごの促成栽培（夜冷短日処理）調査（継続 H18～22）	8
2 いちごの促成栽培（短日処理）調査（継続 H18～22）	10
3 いちごの半促成栽培における品種比較調査（継続 H17～22）	12
4 夏秋どりいちごの品種比較調査（新規 H22～24）	14
5 夏秋どりいちごの栽培管理別比較調査（新規 H22～24）	16
6 きゅうりの半促成栽培における品種比較調査（新規 H22～24）	18
7 きゅうりの抑制栽培における品種比較調査（新規 H22～24）	20
8 冬期間の施設利用によるこまつなの品種比較調査（新規 H22～24）	22
9 トマトの促成栽培における品種比較調査（新規 H22～24）	24
10 トマトの夏秋栽培における品種比較調査（新規 H22～24）	27
11 トマトの抑制栽培における品種比較調査（継続 H21～23）	30
12 ミニトマトの促成栽培における品種比較調査（新規 H22～24）	33
13 ミニトマトの夏秋栽培における品種比較調査（継続 H19～24）	35
14 ミニトマトの抑制栽培における品種比較調査（継続 H14～24）	37
2-3 調査成績（露地野菜）	
1-1 ねぎの品種比較調査（新規 H22～24）	40
1-2 ねぎの品種比較調査（新規 H22～24）	42
2 養液土耕によるピーマンの品種比較調査（新規 H22～24）	43
3 ながいもの追肥省略型肥料における施肥効果の調査（新規 H22～24）	46
4 ながいも年子の違いによる内部品質調査（継続 H21～23）	49
5 ながいもの品種比較調査（継続 H18～22）	51
6 にんにくの品種・種子重量別調査（継続 H18～22）	56
2-4 調査成績（花き）	
1 エラータム系デルフィニウムの周年栽培調査（新規 H22～23）	58
2 アルストロメリアの周年栽培調査（継続 H20～22）	61
3 秋菊の栽培調査（季咲き）（継続 H20～22）	64
4 秋菊の栽培調査（11月出荷）（継続 H20～22）	67
5 ハボタン（切花）栽培調査（継続 H20～22）	69
6 トルコギキョウの品種比較調査（8月出荷）（継続 H7～26）	71
7 トルコギキョウの品種比較調査（9月出荷）（継続 H7～26）	74
2-5 土壌分析	77
2-6 植物組織培養	81
2-7 市民農園設置事業	81
2-8 農業体験学習	82
2-9 農業講座開催実績	83
2-10 施設利用実績	83

第3 業務計画

3-1 調査計画（施設野菜）

1 いちごの促成栽培（短日夜冷処理）調査（新規 H23）	85
2 いちごの促成栽培（短日処理）調査（新規 H23）	86
3 いちごの半促成栽培における品種比較調査（新規 H23～24）	86
4 夏秋どりいちごの品種比較調査（継続 H22～24）	87
5 夏秋どりいちごの栽培管理別比較調査（継続 H22～24）	87
6 きゅうりの半促成栽培における品種比較調査（継続 H22～24）	88
7 きゅうりの抑制栽培における品種比較調査（継続 H22～24）	88
8 冬期間の施設利用によるこまつなの品種比較調査（継続 H22～24）	89
9 トマトの促成栽培における品種比較調査（継続 H22～24）	89
10 トマトの夏秋栽培における品種比較調査（継続 H22～24）	90
11 トマトの抑制栽培における品種比較調査（継続 H22～24）	90
12 ミニトマトの促成栽培における品種比較調査（継続 H22～24）	91
13 ミニトマトの夏秋栽培における品種比較調査（継続 H19～24）	91
14 ミニトマトの抑制栽培における品種比較調査（継続 H22～24）	92
15 きゅうりのつる下げ栽培に関する調査（新規 H23～25）	92
16 ミニトマトの作型比較調査（新規 H23～25）	93

3-2 調査計画（露地野菜）

1 ねぎの品種比較調査（継続 H22～24）	94
2 ピーマンの品種比較調査（新規 H23～24）	94
3 ピーマンの肥効調整型肥料における施肥効果の調査（新規 H23～24）	95
4 ながいもの追肥省略型肥料における施肥効果の調査（継続 H22～24）	96
5 ながいもの品種比較調査（新規 H23～24）	97
6 にんにくの栽植距離別収量調査（新規 H23～24）	97

3-3 調査計画（花き）

1 エラータム系デルフィニウムの周年栽培調査（継続 H22～23）	98
2 秋菊の栽培調査（11月出荷）（継続 H20～23）	99
3 ラークスパーの栽培調査（6月出荷）（新規 H23～25）	100
4 トルコギキョウの品種比較調査（8月出荷）（継続 H7～26）	101
5 トルコギキョウの品種比較調査（9月出荷）（継続 H12～26）	102

3-4 土壌分析	103
----------	-----

3-5 植物組織培養	104
------------	-----

3-6 市民農園設置事業	104
--------------	-----

3-7 農業体験学習	104
------------	-----

3-8 栽培展示計画表	105
-------------	-----

第 1 施設の概要及び機構

目的

八戸市農業経営振興センターは、農業経営に関する支援業務を一元化するため、担い手育成業務・融資関連業務・補助関連業務・生産技術指導関連業務等を集約し、平成23年4月1日から『農業交流研修センター』の名称を『農業経営振興センター』に変更いたしました。

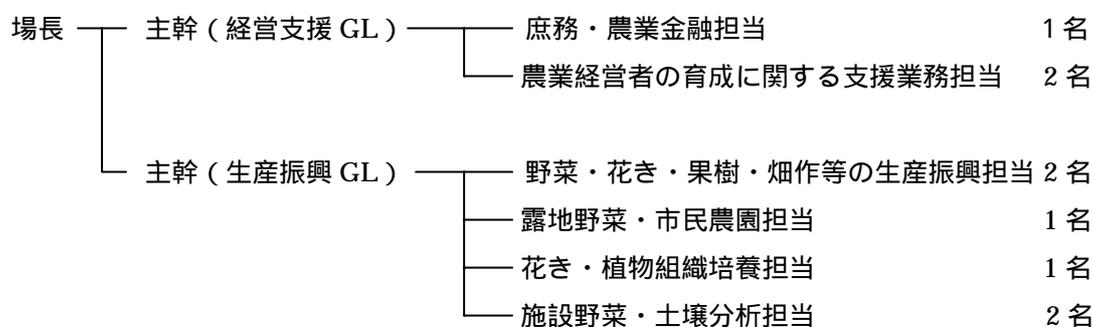
当センターは、農業者の経営基盤強化や担い手育成等の経営支援ならびに農業振興への先進的な役割を担う技術拠点施設として、技術の高度化・多様化等に対応するため、新技術の普及や地域に密着した産地づくり等に資するとともに、自然に親しみ潤いのある市民生活を推進するため市民農園等を併設し、農業体験学習として農業を体験する機会を市民に提供しながら、農業生産の仕組みや農業の果たしている役割等、農業知識の普及啓発を図ることを目的としています。

事業の概要

- 1 農業経営者の育成に関する支援業務
- 2 野菜・花き・果樹等の生産振興に関する補助業務
- 3 栽培技術指導
 - (1) 施設・露地野菜や花き及び地域特産作物の栽培調査及び技術指導
 - (2) 新しい作型・作物・品種・資材の比較調査及び普及指導
 - (3) 植物組織培養によるウイルスフリー苗の育成及び調査
 - (4) 土壌分析及び土壌改良指導
 - (5) 農業講座、野菜・花き現地検討会の開催や農産物の調理実習の実施
- 4 市民農園設置と利用者への栽培指導や農作業体験学習、家庭菜園栽培講習会の開催

組織図及び職員数 (平成23年度)

組織図及び職員数 <12名>



施設の概要

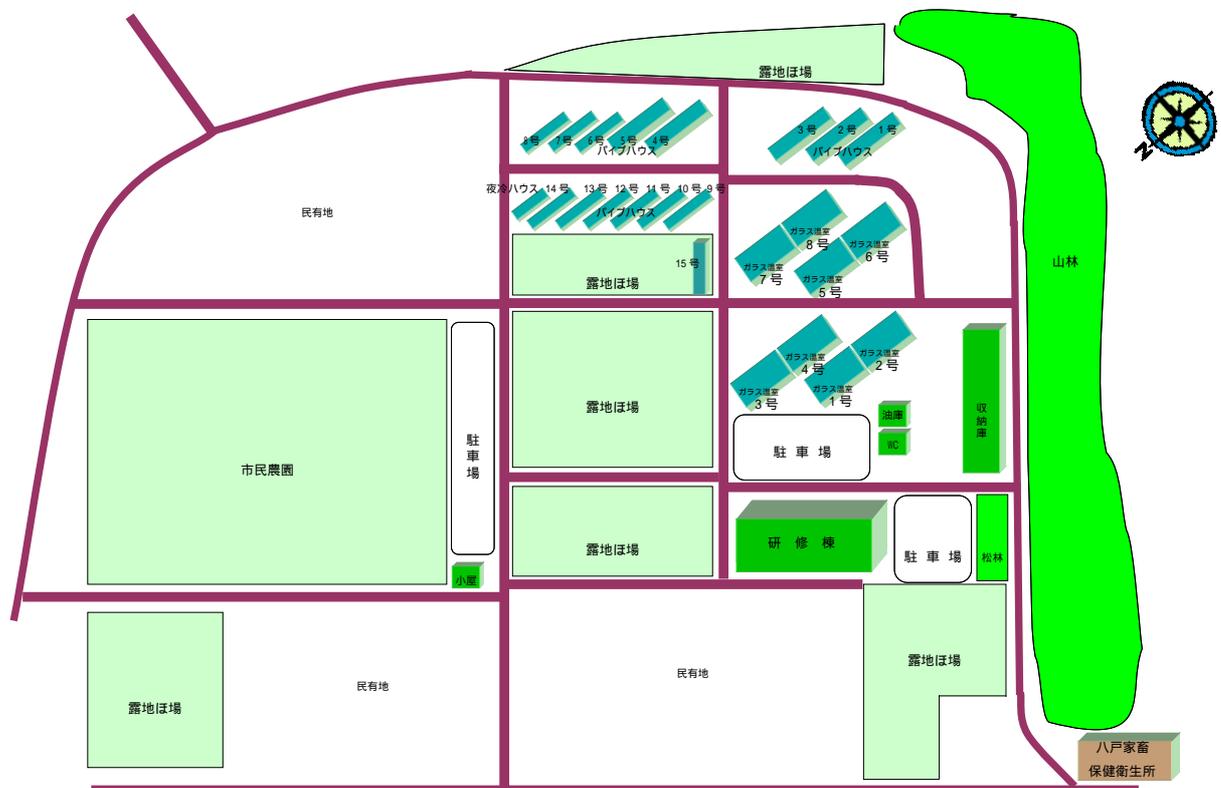
土地利用区分

総面積	115,334 m ²
管理施設用地	
建物等	1,471
駐車場・通路等	5,958
ほ場	
施設	14,842
ガラス温室	
パイプハウス	
露地	24,235
市民農園	18,237
山林	46,075
原野他	4,516

主要施設

研修棟<鉄骨造平家建>	1棟	713 m ²
多目的研修室 調理実習室 会議室 土づくり相談室 バイオ体験室		
ガラス温室(鉄骨造)	4棟(8室)	1,498 m ²
パイプハウス	15棟	1,927 m ²
収納庫<鉄骨造平家建>	1棟	450 m ²
屋外トイレ	1棟	28 m ²
油庫	1棟	10 m ²
農業用水施設	1式	
気象観測施設	1式	

場内案内図



沿革

- 昭和 30.5 青森県農事試験場南部支場委託蔬菜展示農場として三戸郡大館村(新井田常光田地区)に発足
- 昭和 32.4 三戸郡大館村に移管し、大館村蔬菜展示農場に改称
- 昭和 33.9 合併により八戸市立そ菜展示農場に改称
- 昭和 36.1 八戸市農村青年研修所を併設
- 昭和 36.4 八戸市立園芸指導農場に改称
- 昭和 45.1 十日市天摩地区に移転し、八戸市農業センターに改組
- 昭和 57.4 八戸市都市緑化植物公園(現八戸公園)開設により、尻内町毛合清水地内に移転し、八戸市農業研修センターに改称
- 昭和 63.4 花き(切花)部門・植物組織培養(バイオテク)設置
- 平成 2.4 市民農園開設
- 平成 12.1 高規格道路等建設計画により現在地に移転し、八戸市農業交流研修センターに改称
- 平成 23.4 機構改革により農業経営に関する支援業務を一元化し、八戸市農業経営振興センターに改称

業務成績

【平成 22 年度】

場	長	大久保	聡一郎
主	幹	石丸	隆典
(研修業務グループリーダー)			
技	査	久保	昌広
主	事	佐藤	靖代
技	師	菊谷	武夫
技	師	福田	悠紀
技	師	田茂	竜児

第2 業務報告

2 1 気象

表1 平成22年 平均気温・日照時間・降水量 旬表

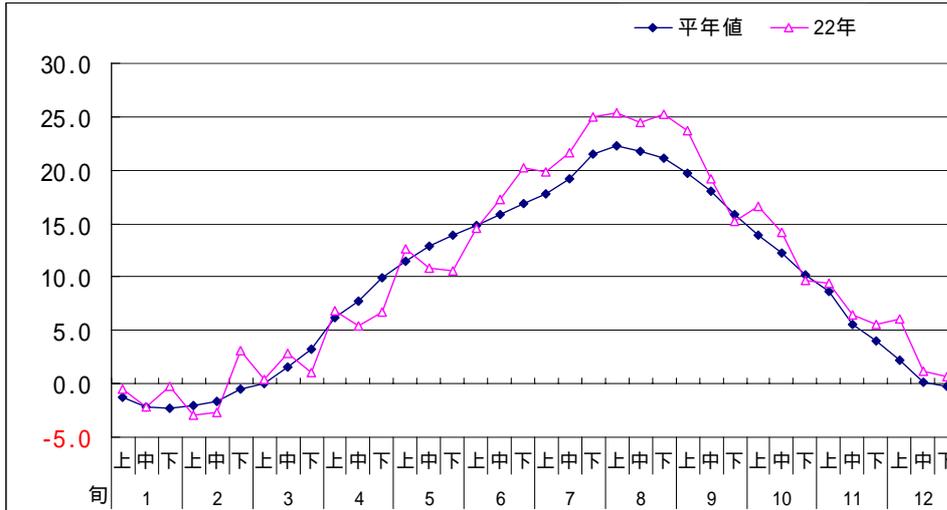
月	旬	平均気温 ()				日照時間 (h)				降水量 (mm)			
		平年値	22年	差	八戸特別 地域気象 観測所 22年	平年値	22年	差	八戸特別 地域気象 観測所 22年	平年値	22年	差	八戸特別 地域気象 観測所 22年
1	上旬	-1.3	-0.5	0.8	0.3	42.9	38.9	-4.0	34.3	13.7	26.5	12.8	41.0
	中旬	-2.1	-2.2	-0.1	-1.6	42.4	40.0	-2.4	37.0	8.3	45.0	36.7	39.0
	下旬	-2.3	-0.3	2.1	0.5	52.7	49.5	-3.2	52.6	11.4	8.0	-3.4	5.5
	平均・計	-1.9	-0.9	1.0	-0.3	138.0	128.4	-9.6	123.9	33.4	79.5	46.1	85.5
2	上旬	-2.1	-2.9	-0.8	-2.2	51.5	44.3	-7.2	38.2	12.0	3.0	-9.0	3.5
	中旬	-1.6	-2.7	-1.0	-1.9	53.5	52.7	-0.8	40.4	10.8	3.5	-7.3	4.0
	下旬	-0.5	3.2	3.7	3.9	46.1	54.0	7.9	49.7	9.6	2.5	-7.1	1.5
	平均・計	-1.4	-1.1	0.3	-0.3	151.1	151.0	-0.1	128.3	32.5	9.0	-23.5	9.0
3	上旬	-0.0	0.4	0.4	1.1	60.3	37.5	-22.8	25.1	10.7	33.0	22.3	50.0
	中旬	1.6	2.9	1.3	3.4	58.7	67.7	9.0	63.0	14.9	4.0	-10.9	1.0
	下旬	3.3	1.1	-2.2	1.9	71.0	67.1	-3.9	57.7	16.2	17.5	1.3	16.5
	平均・計	1.6	1.4	-0.2	2.1	189.9	172.3	-17.6	145.8	41.8	54.5	12.7	67.5
4	上旬	6.1	6.9	0.7	7.7	67.1	67.0	-0.1	59.8	15.2	5.0	-10.2	3.5
	中旬	7.8	5.4	-2.4	6.0	65.4	41.2	-24.2	39.9	19.5	10.0	-9.5	7.5
	下旬	9.9	6.7	-3.2	7.2	68.7	53.1	-15.6	47.4	23.7	14.0	-9.7	10.5
	平均・計	8.1	6.3	-1.8	7.0	201.3	161.3	-40.0	147.1	58.4	29.0	-29.4	21.5
5	上旬	11.4	12.6	1.1	12.9	69.1	59.5	-9.6	58.3	23.9	4.5	-19.4	2.0
	中旬	12.9	10.8	-2.0	11.2	65.4	43.4	-22.0	44.0	22.9	61.5	38.6	73.0
	下旬	13.9	10.5	-3.4	10.7	74.8	55.8	-19.0	56.7	28.4	76.5	48.1	65.5
	平均・計	12.8	11.3	-1.5	11.5	209.3	158.7	-50.6	159.0	75.3	142.5	67.2	140.5
6	上旬	14.8	14.5	-0.3	14.7	64.5	89.6	25.1	89.2	22.0	0.0	-22.0	0.0
	中旬	15.9	17.2	1.3	17.5	59.3	55.6	-3.7	47.1	35.0	50.0	15.0	54.5
	下旬	16.9	20.2	3.3	20.5	60.7	43.2	-17.5	44.9	30.8	64.0	33.2	69.5
	平均・計	15.9	17.3	1.4	17.6	184.5	188.4	3.9	181.2	87.9	114.0	26.1	124.0
7	上旬	17.7	19.8	2.1	19.7	50.1	28.0	-22.1	19.0	58.2	49.0	-9.2	33.5
	中旬	19.2	21.7	2.5	22.1	48.8	43.2	-5.6	41.7	43.4	27.0	-16.4	24.0
	下旬	21.5	25.0	3.5	25.6	64.8	56.2	-8.6	52.9	39.2	106.0	66.8	73.5
	平均・計	19.4	22.2	2.8	22.6	163.7	127.4	-36.3	113.6	140.8	182.0	41.2	131.0
8	上旬	22.2	25.3	3.1	25.7	64.1	68.0	3.9	64.3	38.7	8.0	-30.7	8.0
	中旬	21.7	24.5	2.7	25.1	57.4	65.4	8.0	64.6	35.7	41.0	5.3	56.5
	下旬	21.2	25.2	4.0	26.0	64.5	69.4	4.9	65.8	54.6	8.5	-46.1	5.5
	平均・計	21.6	25.0	3.4	25.6	186.1	202.8	16.7	194.7	129.1	57.5	-71.6	70.0
9	上旬	19.8	23.7	4.0	24.4	51.7	82.7	31.0	77.9	54.0	13.0	-41.0	14.0
	中旬	18.1	19.2	1.1	19.9	51.6	40.9	-10.7	41.9	77.9	152.0	74.1	138.5
	下旬	15.9	15.2	-0.7	16.3	53.4	52.3	-1.1	48.1	37.2	21.0	-16.2	22.5
	平均・計	18.0	19.4	1.4	20.2	156.8	175.9	19.1	167.9	169.1	186.0	16.9	175.0
10	上旬	14.0	16.6	2.6	17.4	52.5	49.3	-3.2	46.6	42.1	50.0	7.9	55.0
	中旬	12.3	14.1	1.8	15.0	55.3	52.0	-3.3	45.3	17.2	19.5	2.3	22.5
	下旬	10.2	9.7	-0.5	10.5	59.3	44.0	-15.3	37.9	27.4	36.0	8.6	43.0
	平均・計	12.1	13.3	1.2	14.2	167.1	145.3	-21.8	129.8	86.7	105.5	18.8	120.5
11	上旬	8.6	9.5	0.9	10.2	49.9	46.9	-3.0	42.7	22.8	89.5	66.7	74.0
	中旬	5.6	6.5	0.8	7.0	41.7	40.5	-1.2	40.4	20.1	25.0	4.9	2.5
	下旬	4.0	5.5	1.6	5.9	41.2	45.1	3.9	45.3	18.1	6.0	-12.1	4.5
	平均・計	5.9	7.2	1.3	7.7	132.8	132.5	-0.3	128.4	61.0	102.0	41.0	81.0
12	上旬	2.3	6.0	3.8	6.7	38.9	27.6	-11.3	28.5	14.8	20.0	5.2	22.5
	中旬	0.1	1.2	1.1	1.9	38.2	46.2	8.0	43.6	10.8	25.0	14.2	24.5
	下旬	-0.2	0.6	0.8	1.5	41.8	32.2	-9.6	32.7	15.1	115.5	100.4	106.5
	平均・計	0.7	2.6	1.9	3.3	118.9	106.0	-12.9	104.8	40.7	160.5	119.8	153.5
年平均・計		9.4	10.4	1.0	10.9	1,999.4	1,850.0	-149.4	1,724.5	956.6	1,222.0	265.4	1179.0

八戸特別地域気象観測所 観測数値(斜字)は気象庁ホームページから引用

平年値は昭和58年から平成21年度までの当センター観測数値による

四捨五入により端数処理

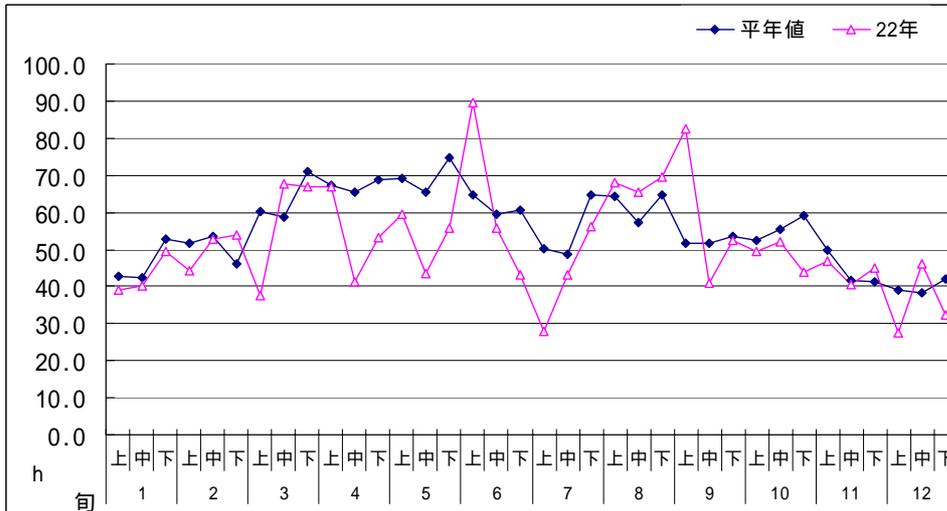
(1) 平均気温



平年値との比較

- ・1 を上回る月
1月(+1.0)
6月(+1.4)
7月(+2.8)
8月(+3.4)
9月(+1.4)
10月(+1.2)
11月(+1.3)
- ・1 以上低い月
4月(-1.8)
5月(-1.5)
- ・年平均気温
10.3 (+0.9)

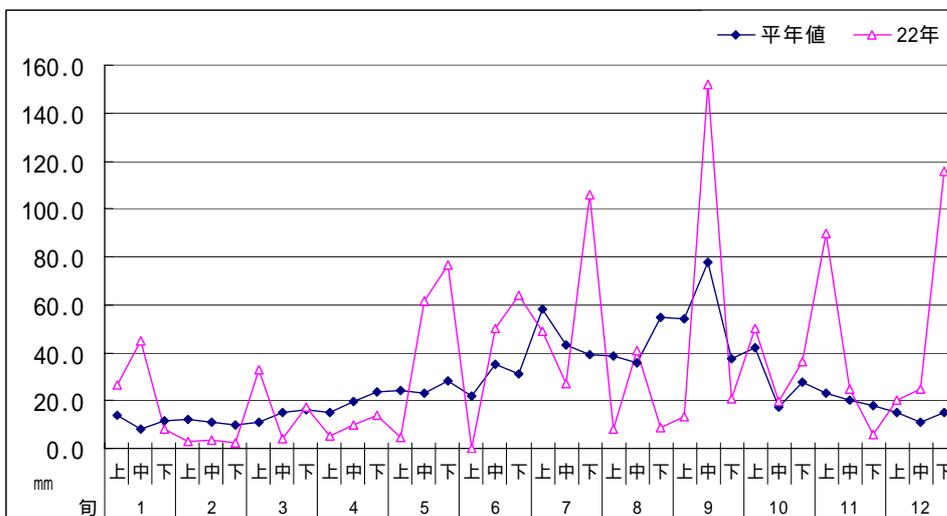
(2) 日照時間



平年値との比較

- ・1 時間/日を上回る月...無し
- ・1 時間/日を下回る月
4月(-40.0時間)
5月(-50.6時間)
7月(-36.3時間)
- ・年間日照時間
1,850.0時間
(-149.4時間)

(3) 降水量



平年値との比較

- ・1mm/日を上回る月
1月(+46.1mm)
5月(+67.2mm)
7月(+41.2mm)
11月(+41.0mm)
12月(+119.8mm)
- ・1mm/日を下回る月
8月(-71.6mm)
- ・年間降水量
1,220mm(+265.4mm)

表2 平成22年 気象観測数値 旬表

農業交流研修センター観測

月	旬	平均気温 ()	最高気温 ()	最低気温 ()	日照時間 (h)	降水量 (mm)	平均湿度 (%)	平均地温()		
								0cm	10cm	20cm
1	上旬	-0.5	4.7	-4.5	38.9	26.5	77.2	0.9	1.4	2.3
	中旬	-2.2	9.5	-9.0	40.0	45.0	77.1	0.7	1.2	1.9
	下旬	-0.3	6.6	-6.4	49.5	8.0	67.9	0.6	1.1	1.7
	平均・極値・計	-0.9	9.5	-9.0	128.4	79.5	73.8	0.7	1.2	2.0
2	上旬	-2.9	7.0	-10.7	44.3	3.0	67.0	0.4	0.9	1.5
	中旬	-2.7	4.0	-8.6	52.7	3.5	73.4	0.3	0.8	1.4
	下旬	3.2	16.6	-6.2	54.0	2.5	65.6	0.4	0.6	1.2
	平均・極値・計	-1.1	16.6	-10.7	151.0	9.0	68.9	0.3	0.8	1.4
3	上旬	0.4	8.1	-5.7	37.5	33.0	74.5	1.0	1.5	1.7
	中旬	2.9	15.2	-4.2	67.7	4.0	63.2	1.0	1.8	2.0
	下旬	1.1	15.1	-5.9	67.1	17.5	67.9	2.1	2.5	2.8
	平均・極値・計	1.4	15.2	-5.9	172.3	54.5	68.5	1.4	2.0	2.2
4	上旬	6.9	17.9	-0.5	67.0	5.0	67.1	5.4	5.2	4.6
	中旬	5.4	16.6	-0.9	41.2	10.0	65.8	6.4	6.7	6.5
	下旬	6.7	20.4	-0.9	53.1	14.0	76.5	7.2	7.4	7.1
	平均・極値・計	6.3	20.4	-0.9	161.3	29.0	69.8	6.4	6.4	6.1
5	上旬	12.6	24.0	3.5	59.5	4.5	68.8	10.8	10.5	9.7
	中旬	10.8	24.4	4.7	43.4	61.5	83.5	11.1	11.1	10.5
	下旬	10.5	23.3	3.6	55.8	76.5	89.7	12.4	12.9	12.4
	平均・極値・計	11.3	24.4	3.5	158.7	142.5	81.0	11.5	11.6	10.9
6	上旬	14.5	24.1	6.7	89.6	0.0	78.3	15.7	15.8	14.7
	中旬	17.2	26.6	10.6	55.6	50.0	89.5	18.0	18.1	17.0
	下旬	20.2	32.5	14.5	43.2	64.0	84.5	20.6	20.7	19.6
	平均・極値・計	17.3	32.5	6.7	188.4	114.0	84.1	18.1	18.2	17.1
7	上旬	19.8	26.1	16.2	28.0	49.0	95.5	21.4	21.8	20.9
	中旬	21.7	32.7	16.1	43.2	27.0	83.8	21.8	22.0	21.4
	下旬	25.0	33.3	19.4	56.2	106.0	83.2	24.4	24.5	23.6
	平均・極値・計	22.2	33.3	16.1	127.4	182.0	87.4	22.6	22.8	22.0
8	上旬	25.3	35.7	18.6	68.0	8.0	85.7	25.1	25.2	24.4
	中旬	24.5	32.3	17.5	65.4	41.0	83.4	25.1	25.1	24.6
	下旬	25.2	33.4	20.0	69.4	8.5	82.8	25.1	25.4	24.8
	平均・極値・計	25.0	35.7	17.5	202.8	57.5	84.0	25.1	25.2	24.6
9	上旬	23.7	34.4	13.5	82.7	13.0	80.2	24.4	25.0	24.7
	中旬	19.2	26.3	13.9	40.9	152.0	91.6	21.0	21.8	22.1
	下旬	15.2	25.3	9.2	52.3	21.0	80.4	18.0	19.1	19.8
	平均・極値・計	19.4	34.4	9.2	175.9	186.0	84.1	21.1	22.0	22.2
10	上旬	16.6	23.3	10.9	49.3	50.0	88.0	17.7	18.3	18.5
	中旬	14.1	24.2	3.8	52.0	19.5	82.9	16.5	18.3	17.9
	下旬	9.7	21.3	1.4	44.0	36.0	81.0	12.6	13.8	14.8
	平均・極値・計	13.3	24.2	1.4	145.3	105.5	83.9	15.5	16.7	17.0
11	上旬	9.5	17.8	2.8	46.9	89.5	77.7	10.5	11.2	11.9
	中旬	6.5	16.9	-0.6	40.5	25.0	75.9	8.4	9.3	10.2
	下旬	5.5	18.0	-2.3	45.1	6.0	72.5	7.3	8.2	9.1
	平均・極値・計	7.2	18.0	-2.3	132.5	102.0	75.4	8.7	9.6	10.4
12	上旬	6.0	13.8	-1.9	27.6	20.0	76.5	6.6	7.1	7.7
	中旬	1.2	11.1	-6.0	46.2	25.0	73.3	3.3	4.2	5.3
	下旬	0.6	9.0	-6.2	32.2	115.5	80.3	2.2	2.8	3.7
	平均・極値・計	2.6	13.8	-6.2	106.0	160.5	76.8	4.0	4.6	5.5
年平均・極値・計		10.4	35.7	-10.7	1,850.0	1,222.0	78.2	11.4	11.8	11.8

四捨五入により端数処理

2 2 調査成績（施設野菜）

施設野菜の部 1

調査名：いちごの促成栽培（夜冷短日処理）調査（平成 18 年度～平成 22 年度）

1 目的 いちごの促成栽培について調査し、栽培上の資料とする。

2 調査方法

- (1) 調査場所 パイプハウス 4 号（132 m²：約 40 坪）
- (2) 耕種概要
- 1) 栽培方法 養液土耕栽培
 - 2) ポット受期 平成 21 年 7 月 1 日～
 - 3) 夜冷処理期間 平成 21 年 8 月 3 日～9 月 8 日
 - 4) 夜冷処理日数 37 日
 - 5) 夜冷処理方法 短日処理 8 時間日長（16 時 30 分～翌 8 時 30 分遮光）
低温処理 13～15（16 時 30 分～翌 8 時 30 分）
 - 6) 育苗日数 71 日
 - 7) 定植年月日 平成 21 年 9 月 10 日
 - 8) 栽植距離 ベッド幅 110 cm、株間 15,18 cm、2 条植え
 - 9) 定植株数 1,060 株/棟（株間 15 cm）、880 株/棟（株間 18 cm）
 - 10) 施肥量（kg/a） N-P-K=3.15 - 1.99 - 16（土壌分析結果による）
 - 11) 使用資材（kg/a） バーク堆肥：197kg、ハイフミンデルマ：23kg、
LP コート S100：3kg、珪酸加里：26kg、畑のカルシウム：14kg、
ハイクド 40:7kg
大塚養液土耕 5 号、6 号
- 12) 収穫期間 平成 21 年 11 月 30 日～平成 22 年 6 月 21 日
- 13) 薬剤散布 38 回
ラノーテープ剤を、うね毎に 1 本、作物の触れない株上に設置。
- 14) 保温・加温 平成 21 年 10 月 19 日～平成 22 年 6 月 3 日（12 設定、内カーテン、トンネル使用）
- (3) 調査区の構成 4 区（1 区 10 株、1 区制）
さちのか、とちおとめ（各品種：株間 15 cm、18 cm）
- (4) 調査項目 生育、収量

3 結果の概要

(1) 生育

収穫開始は「とちおとめ」が「さちのか」に比べ 1 週間程度早かった。

収穫時の草丈・展開葉数は「さちのか」が「とちおとめ」を上回っていた。「とちおとめ 18 cm」については草丈が 9.7 cm と他の約 7 割程度であった。

(2) 収量

品種別にみると 10a 換算収量では、「さちのか」が 2t 以上で「とちおとめ」のそれに比較し多かった。

株間別にみると 10a 換算収量で「さちのか」「とちおとめ」とも、「15 cm」が「18 cm」を約 2 割程度上回っていた。これは、株当たり換算収量がほぼ同程度であることから、定植株数の多少による収量増の違いと思われる。

今回の調査結果から、品種別では「さちのか」、株間別では「15 cm」が有望と思われる。

表1 生育調査

調査区名		草丈	展開葉数	クラウンの太さ	調査月日 (収穫開始日)
品種名	株間	cm	枚	mm	
さちのか	15cm	14.5	5.9	14.4	12月7日
さちのか	18cm	14.6	6.0	14.8	12月11日
とちおとめ	15cm	12.6	5.8	14.7	11月30日
とちおとめ	18cm	9.7	5.3	13.2	11月30日

表2 収量調査(10株当たり)

(単位:個、g、)

調査区	株間	3L		2L		L		M		S		小果・奇形果		合計	
		個数	収量	個数	収量	個数	収量	個数	収量	個数	収量	個数	収量	個数	収量
さちのか	15cm	0	0	10	277	70	1,363	40	503	60	489	69	393	249	3,025
さちのか	18cm	0	0	17	458	64	1,218	38	471	71	530	66	385	256	3,062
とちおとめ	15cm	0	0	5	134	52	961	35	422	55	433	63	396	210	2,346
とちおとめ	18cm	0	0	5	134	34	628	51	635	60	497	84	524	234	2,418

表2つづき

調査区	株間	等級割合(%:個数ベース)						平均果重(g)	株当り換算収量(g)	10a当り換算収量(t)
		3L	2L	L	M	S	小果・奇形果			
さちのか	15cm	0.0	4.0	28.1	16.1	24.1	27.7	12.1	302.5	2.4
さちのか	18cm	0.0	6.6	25.0	14.8	27.7	25.8	12.0	306.2	2.0
とちおとめ	15cm	0.0	2.4	24.8	16.7	26.2	30.0	11.2	234.6	1.9
とちおとめ	18cm	0.0	2.1	14.5	21.8	25.6	35.9	10.3	241.8	1.6

施設野菜の部 2

調査名：いちごの促成栽培（短日処理）調査（平成 18 年度～平成 22 年度）

1 目的 いちごの促成栽培（短日処理）について調査し、栽培上の資料とする。

2 調査方法

- (1) 調査場所 パイプハウス 6 号 (99 m²: 約 30 坪)
- (2) 耕種概要
- 1) 栽培方法 養液土耕栽培
 - 2) ポット受期 平成 21 年 7 月 1 日～
 - 3) 短日処理期間 平成 21 年 8 月 3 日～9 月 15 日
 - 4) 短日処理日数 44 日
 - 5) 短日処理方法 短日処理 8 時間日長 (16 時 30 分～翌 8 時 30 分遮光)
 - 6) 育苗日数 78 日
 - 7) 定植年月日 平成 21 年 9 月 17 日
 - 8) 栽植距離 うね幅 110 cm、株間 15, 18 cm、2 条植え
 - 9) 定植株数 848 株/棟(株間 15 cm)、704 株/棟 (株間 18 cm)
 - 10) 施肥量 (kg/a) N-P-K=3.31 - 1.95 - 15.78 (土壌分析結果による)
 - 11) 使用資材 (kg/a) パーク堆肥: 200kg、ハイフミンデルマ: 30kg、LP コート S100: 3.8kg、珪酸加里: 26kg、畑のカルシウム: 14kg、大塚養液土耕 5 号、6 号
- 12) 収穫期間 平成 22 年 1 月 22 日～平成 22 年 6 月 21 日
- 13) 薬剤散布 38 回
ラノーテープ剤を、うね毎に 1 本、作物の触れない株上に設置。
- 14) 保温・加温 平成 21 年 11 月 2 日～平成 22 年 6 月 3 日 (12 設定、内カーテン、トンネル使用)
- (3) 調査区の構成 4 区 (1 区 10 株、1 区制)
さちのか、とちおとめ (各品種: 株間 15 cm、18 cm)
- (4) 調査項目 生育、収量

3 結果の概要

- (1) 生育
収穫開始は「さちのか」が「とちおとめ」に比べ約 10 日程度早かった。
草丈、展開葉数については違いがほとんど見られなかったが、クラウンの太さについては、「さちのか 15 cm」が若干細かった。
- (2) 収量
10a 当たり換算収量を品種別でみると「さちのか」が「とちおとめ」をやや上回っていた。(株間 18 cm「さちのか」と株間 15 cm「とちおとめ」同収量の 2.5t/10a であるが。)
同じく、10a 当たり換算収量を株間別でみると「さちのか」、「とちおとめ」ともに、「15 cm」が「18 cm」を上回り、特に「とちおとめ」については 25% 収量増と差がみられた。
今回の調査から、品種別では「さちのか」が、株間別では「15 cm」が有望と思われる。

表1 生育調査

調査区名		草丈	展開葉数	クラウン太さ	調査月日 (収穫開始日)
品種名	株間	cm	枚	mm	
さちのか	15cm	16.7	8.0	15.9	1月25日
さちのか	18cm	17.6	8.9	17.4	1月29日
とちおとめ	15cm	16.2	8.2	17.3	2月5日
とちおとめ	18cm	17.2	8.7	17.2	2月8日

表2 収量調査(10株当たり)

(単位:g、個)

調査区	株間	3L		2L		L		M		S		小果・奇形果		合計	
		個数	収量	個数	収量	個数	収量	個数	収量	個数	収量	個数	収量	個数	収量
さちのか	15cm	4	149	14	395	59	1060	53	655	80	703	27	175	237	3,137
さちのか	18cm	4	148	19	538	68	1,250	63	753	75	645	30	213	259	3,547
とちおとめ	15cm	6	222	19	530	61	1,050	45	556	56	485	22	153	209	2,996
とちおとめ	18cm	4	157	13	380	50	879	50	626	56	468	42	401	215	2,911

表2つづき

調査区	株間	等級割合(%:個数ベース)						平均 果重 (g)	株当り 換算収量 (g)	10a当り換算収量 (t)
		3 L	2 L	L	M	S	小果・ 奇形果			
さちのか	15cm	1.7	5.9	24.9	22.4	33.8	11.4	13.2	313.7	2.7
さちのか	18cm	1.5	7.3	26.3	24.3	29.0	11.6	13.7	354.7	2.5
とちおとめ	15cm	2.9	9.1	29.2	21.5	26.8	10.5	14.3	299.6	2.5
とちおとめ	18cm	1.9	6.0	23.3	23.3	26.0	19.5	13.5	291.1	2.0

施設野菜の部 3

調査名：いちごの半促成栽培における品種比較調査（平成 17 年度～平成 22 年度）

1 目的 近年、当地域で栽培されている「麗紅」の収量・品質が低下し、それに替わる半促成栽培に適した品種が望まれていることから、品種比較し、栽培上の資料とする。

2 調査方法

- (1) 調査場所 パイプハウス 14 号（99 m²：約 30 坪）
- (2) 耕種概要
- 1) 栽培方法 養液土耕栽培
 - 2) ポット受期 平成 21 年 7 月 1 日～
 - 3) 育苗日数 57 日
 - 4) 定植年月日 平成 21 年 8 月 27 日
 - 5) 栽植距離 うね幅 110 cm、株間 18 cm、2 条植え
 - 6) 定植株数 704 株/棟（株間 18 cm）
 - 7) 施肥量（kg/a） N-P-K=2.22-1.05-17.1（土壌分析結果による）
 - 8) 使用資材（kg/a） パーク堆肥：200kg、ハイフミンデルマ：30kg、LP コート S100：2kg、有機アグレット 666 特号：5kg、珪酸加里：30kg、畑のカルシウム：14kg、大塚養液土耕 5 号、6 号
 - 9) 収穫期間 平成 22 年 3 月 3 日～平成 22 年 6 月 21 日
 - 10) 薬剤散布 38 回
ラノーテープ剤を、うね毎に 1 本、作物の触れない株上に設置。
 - 11) 保温 内カーテン、トンネルによる
- (3) 調査区の構成 5 区（1 区 10 株、1 区制）
さちのか、とちおとめ、栃の峰、紅ほっぺ、麗紅
- (4) 調査項目 生育、収量

3 結果の概要

- (1) 生育
草丈については、「さちのか」「とちおとめ」「栃の峰」は 20 cm 程度、「紅ほっぺ」については 29 cm で最も高かった。「麗紅」は極端に低い草姿となったが、低温不足（低温要求 200～400 時間）の影響によると推測される。
- (2) 収量
10a 当たり換算収量をみれば、「さちのか」「紅ほっぺ」「とちおとめ」が約 2.9～2.8t で収量が多く、次いで「栃の峰」の順で、「麗紅」については、休眠打破のための低温が不足したためかなりの減収となった。
等級割合では、L 以上が約 5 割を占めている「栃の峰」「紅ほっぺ」が平均 1 果重も重くそれぞれ 15.8g、16.3g であった。

表1 生育調査

調査区名 品種名	草丈 cm	展開葉数 枚	クラウン太さ mm
さちのか	22.7	12.8	16.0
とちおとめ	23.2	12.1	18.1
栃の峰	19.5	12.5	17.6
紅ほっぺ	29.3	12.0	20.1
麗紅	7.3	7.9	13.9

調査月日（収穫開始日）

平成22年3月1日（さちのか）、3月3日（栃の峰、紅ほっぺ、麗紅）、3月19日（とちおとめ）

表2 収量調査（10株当たり）

品種名	3L		2L		L		M		S		小果・奇形果		合計	
	個数	収量	個数	収量	個数	収量	個数	収量	個数	収量	個数	収量	個数	収量
さちのか	12	489	24	661	61	1,092	66	780	88	750	48	297	299	4,069
とちおとめ	6	258	26	716	63	1,189	59	710	81	691	49	344	284	3,908
栃の峰	7	260	15	449	77	1,403	44	547	34	285	20	162	197	3,106
紅ほっぺ	12	506	27	732	90	1,662	45	559	43	373	40	348	257	4,180
麗紅	0	0	0	0	8	141	35	404	79	649	69	344	191	1,538

表2つづき

品種名	等級割合(%:個数ベース)						平均 果重 (g)	株当り 換算収量 (g)	10a当り換算収量 (t)
	3L	2L	L	M	S	小果・ 奇形果			
さちのか	4.0	8.0	20.4	22.1	29.4	16.1	13.6	406.9	2.9
とちおとめ	2.1	9.2	22.2	20.8	28.5	17.3	13.8	390.8	2.8
栃の峰	3.6	7.6	39.1	22.3	17.3	10.2	15.8	310.6	2.2
紅ほっぺ	4.7	10.5	35.0	17.5	16.7	15.6	16.3	418.0	2.9
麗紅	0.0	0.0	4.2	18.3	41.4	36.1	8.1	153.8	1.1

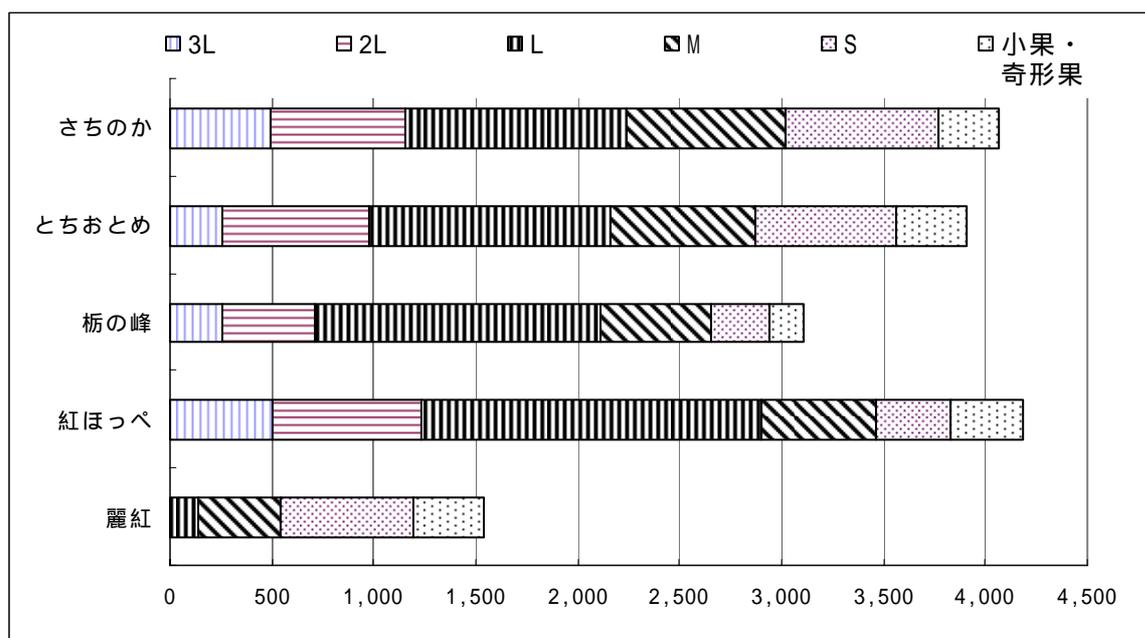


図1 調査区別収量調査(10株当たり)

施設野菜の部 4

調査名：夏秋どりいちごの品種比較調査（平成 22 年度～平成 24 年度）

1 目的 夏秋いちご生産の主体である四季成り性いちごについて品種比較し、栽培上の資料とする。

2 調査方法

- (1) 調査場所 パイプハウス 15 号 (99 m² : 約 30 坪)
- (2) 耕種概要
- 1) 栽培方法 養液土耕栽培
 - 2) 定植年月日 平成 22 年 4 月 30 日
 - 3) 栽植距離 ベッド幅 110 cm、株間 25 cm、2 条植え
 - 4) 定植株数 512 株/棟
 - 5) 施肥量 (kg/a) N-P-K=1.11-0.984-4.57 (ペチカサンタのみ=0.86-0.84-4.28)
土壌分析結果による施肥量
 - 6) 使用資材 (kg/a) バーク堆肥：200kg、ハイフミンデルマ：30kg、
スーパーロング 424：2kg、有機アグレット 666 特号：3kg、
硫酸加里：6.8kg
大塚養液土耕 5 号、6 号
 - 7) 遮光・遮熱 (7～10 月) 遮熱ネット (クールホワイト遮光率 45～50%)
光反射熱資材 (タイベック)
 - 8) 収穫期間 平成 22 年 6 月 21 日～11 月 29 日
 - 9) 薬剤散布 20 回
ラノーテープ剤を畦毎 1 本、作物の触れない株上の位置に設置。
- (3) 調査区の構成 4 区(1 区 10 株、1 区制)
サマールビー、すずあかね、なつあかり、ペチカサンタ
- (4) 調査項目 生育、収量、果実品質

3 結果の概要

- (1) 生育
7～9 月にかけて、遮光等の高温対策をしたものの、猛暑の影響により花粉稔性の低下等、草勢も劣り生育は良くなかった。
また、病害虫については、7 月にうどん粉、灰色カビ病が散見され、8 月上旬には炭疽病が発症したが、蔓延することなく一部の株を撤去する程度で済んだ。
- (2) 収量
10a 当たり収量は収穫個数が多い「ペチカサンタ」が最も多く 3.6t、次いで「すずあかね」2.0t、「サマールビー」1.5t の順であった。
市場価値のある 24～30 玉規格個数が最も多かった品種は「ペチカサンタ」(収量の約 25%程度)、割合が最も高かった品種は、「サマールビー」であり収量の約 4 割であった。
平均 1 果重については、「なつあかり」が 11.0g で最も重かったが、他の品種についても 10g 程度でほとんど差は見られなかった。
小果・奇形果が最も少なかった品種は「サマールビー」「なつあかり」で全収量の 18.9%であった。
- (3) 果実品質
硬度については、全品種とも 0.7～0.8kg で、酸度は「サマールビー」が 4.4%で高かった。糖度 (Brix%) については「なつあかり」が 11.1、次いで「サマールビー」が 9.5 であり、「サマールビー」については、糖度・酸度ともに高い傾向であった。

表1 生育調査

調査区	調査 月日	草高 cm	芽数 ヶ	花房数 本
サマールビー	7/20	23.4	1.0	1.8
すずあかね	7/14	13.1	1.2	0.8
なつあかり	7/14	16.3	1.2	0.2
ペチカサンタ	6/21	21.2	1.9	1.0

各品種の収穫開始日を調査月日とした。

表2 収量調査(10株当たり)

調査区	15玉・大 (25g以上)		15玉・小 (21~25g未満)		20玉 (17~21g未満)		24玉 (14~17g未満)		30玉 (10~14g未満)	
	個数	収量	個数	収量	個数	収量	個数	収量	個数	収量
サマールビー	2	68	6	131	9	168	28	420	104	1,158
すずあかね	7	198	4	90	16	302	21	319	104	1,157
なつあかり	2	72	1	21	0	0	1	14	7	80
ペチカサンタ	10	261	8	178	30	548	52	786	186	2,095

表2 つづき

調査区	35玉 (8~10g未満)		42玉 (6~8g未満)		小果・ 奇形果		商品果合計 (15~42玉)		合計	
	個数	収量	個数	収量	個数	収量	個数	収量	個数	収量
サマールビー	81	688	54	361	66	478	284	2,994	350	3,472
すずあかね	115	948	122	836	187	939	389	3,850	576	4,789
なつあかり	8	70	11	72	7	59	30	329	37	388
ペチカサンタ	208	1,769	224	1,452	196	1,013	718	7,089	914	8,102

表2 つづき

調査区	等級割合(%:個数ベース)								平均 果重 (g)	10a当り 換算収量 (t/10a)
	15玉・大	15玉・小	20玉	24玉	30玉	35玉	42玉	小果・ 奇形果		
サマールビー	0.6	1.7	2.6	8.0	29.7	23.1	15.4	18.9	10.5	1.5
すずあかね	1.2	0.7	2.8	3.6	18.1	20.0	21.2	32.5	9.9	2.0
なつあかり	5.4	2.7	0.0	2.7	18.9	21.6	29.7	18.9	11.0	0.2
ペチカサンタ	1.1	0.9	3.3	5.7	20.4	22.8	24.5	21.4	9.9	3.6

表3 果実品質調査(h22.9.22)

調査区	糖度 (Brix)	酸度 (%)	硬度 (kg)
サマールビー	9.5	4.4	0.7
すずあかね	7.3	3.9	0.8
なつあかり	11.1	4.1	0.7
ペチカサンタ	8.3	3.8	0.7

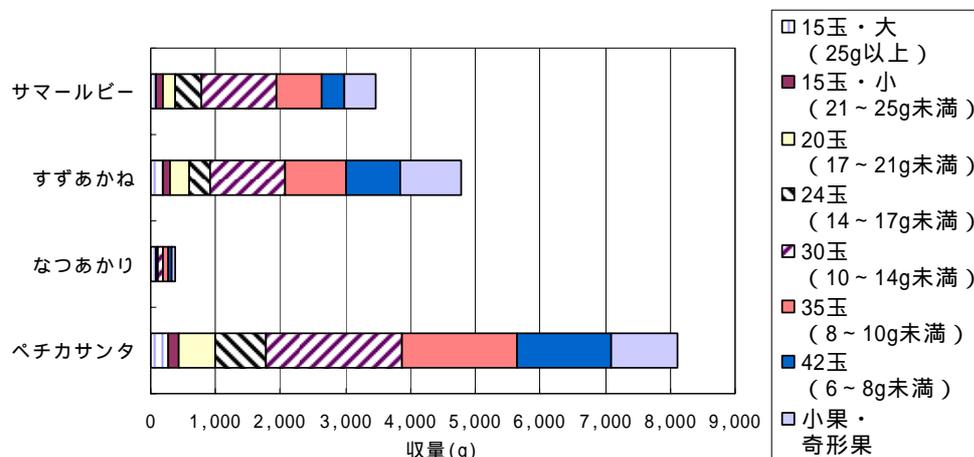


図1 調査区別収量調査(10株当たり)

調査名：夏秋どりいちごの栽培管理別比較調査（平成 22 年度～平成 24 年度）

1 目的 夏秋いちご生産の主体である四季成り性品種の、摘葉、摘花・摘果の違いによる収量や品質等への影響を把握し、栽培上の資料とする。

2 調査方法

(1) 調査場所 パイプハウス 15 号 (99 m² : 約 30 坪)

(2) 耕種概要

- 1) 栽培方法 養液土耕栽培
- 2) 定植年月日 平成 22 年 4 月 30 日
- 3) 栽植距離 ベッド幅 110 cm、株間 25 cm、2 条植え
- 4) 定植株数 512 株/棟
- 5) 施肥量 (kg/a) N-P-K=1.11-0.984-4.57 (土壌分析結果による施肥量)
- 6) 使用資材 (kg/a) バーク堆肥：200kg、ハイフミンデルマ：30kg、スーパーロング 424：2kg、有機アグレット 666 特号：3kg、硫酸加里：6.8kg、大塚養液土耕 6 号

7) 収穫期間 平成 22 年 6 月 23 日～11 月 29 日

8) 薬剤散布 20 回

ラノータブ剤を畦毎 1 本、作物の触れない株上の位置に設置。

9) 遮光・遮熱 (7～10 月設置) 遮熱ネット (クールホワイト遮光率 45～50%)

光反射熱資材 (タイベック)

(3) 調査区の構成 3 区 (栽培管理別) 1 区 10 株 1 区制

(品種：サマールビー)

区	<芽数>	<摘葉>	<摘花(果)>
1	1 芽	1～2 枚/週	頂花房 5～6 果 以降 8～9 果
2	2～3 芽	1～2 枚/週	頂花房 5～6 果 以降 8～9 果
3	放任	8 月中旬に一度に 5～6 枚。 以降古葉のみ。	頂花房 5～6 果 以降放任

(4) 調査項目 生育、収量

3 結果の概要

(1) 生育

7～9 月にかけて、遮光等の高温対策をしたものの、猛暑の影響により花粉稔性の低下等、草勢も劣り生育は良くなかった。

また、病害虫については、7 月にうどん粉、灰色カビ病が散見され、8 月上旬には炭疽病が発症したが、蔓延することなく一部の株を撤去する程度で済んだ。

(2) 収量

10a 当たり収量は「調査区 3 (放任)」が最も多く 2.6t、次いで「調査区 2 (2～3 芽)」2.5t、「調査区 1 (1 芽)」2.4t の順でほとんど差が無かった。

等級割合については 42 玉が多い「調査区 2」や小果・奇形果が多い「調査区 1」及び「調査区 3」等、総じて小玉・奇形果の発生が多かった。

平均 1 果重については、「調査区 1」が 12.0g で最も重かったが、他の区についても 11g 程度でほとんど差は見られなかった。

小果・奇形果が最も少なかった区は「調査区 2」で全収量の 18%であったが、42 玉も最も多く発生した。

総括して、商品果 (15～42 玉) と収量から「調査区 3」が良い結果であった。

表1 生育調査

調査区	調査月日	草高 cm	芽数 ヶ	花房数 本
1		25.3	1.0	1.8
2	6/23	22.1	2.0	1.4
3		22.4	1.8	1.6

収穫開始日を調査月日とした。

表2 収量調査(10株当たり)

調査区	15玉・大 (25g以上)		15玉・小 (21~25g未満)		20玉 (17~21g未満)		24玉 (14~17g未満)		30玉 (10~14g未満)	
	個数	収量	個数	収量	個数	収量	個数	収量	個数	収量
1	22	666	14	311	27	535	40	597	101	1,152
2	18	535	22	476	31	561	31	468	112	1,245
3	21	619	13	298	40	746	34	510	112	1,278

表2 つづき

調査区	35玉 (8~10g未満)		42玉 (6~8g未満)		小果・ 奇形果		商品果合計 (15~42玉)		合計	
	個数	収量	個数	収量	個数	収量	個数	収量	個数	収量
1	91	777	100	687	128	850	395	4,725	523	5,575
2	98	842	117	785	94	861	429	4,912	523	5,773
3	110	954	95	619	136	970	425	5,024	561	5,994

表2 つづき

調査区	等級割合(%:個数ベース)								平均 果重 (g)	10a当り 換算収量 (t/10a)
	15玉・大	15玉・小	20玉	24玉	30玉	35玉	42玉	小果・ 奇形果		
1	4.2	2.7	5.2	7.6	19.3	17.4	19.1	24.5	12.0	2.4
2	3.4	4.2	5.9	5.9	21.4	18.7	22.4	18.0	11.4	2.5
3	3.7	2.3	7.1	6.1	20.0	19.6	16.9	24.2	11.8	2.6

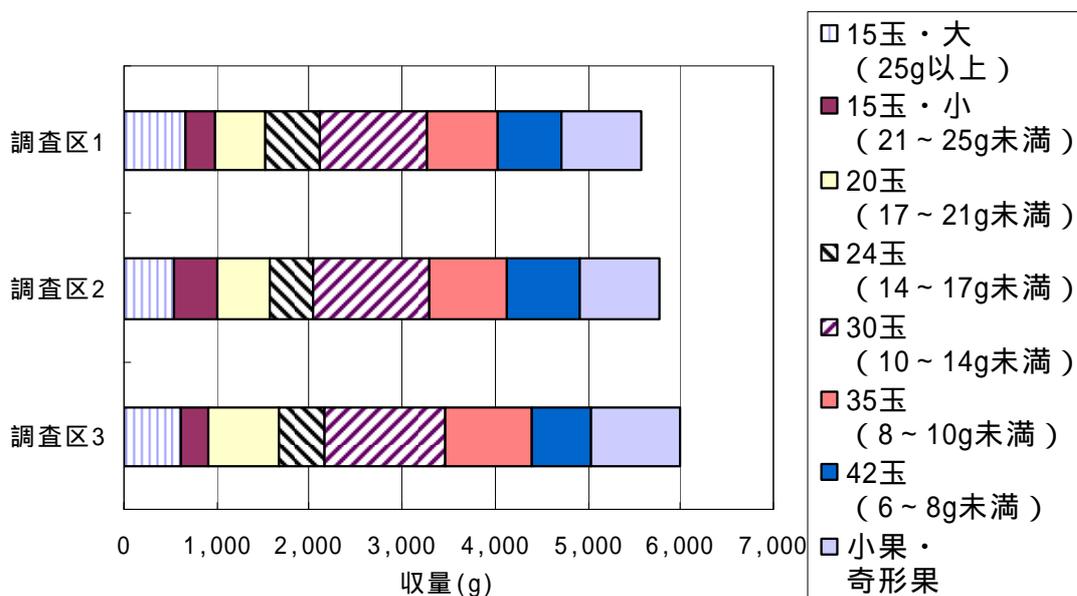


図1 調査区別収量調査(10株当たり)

調査名：きゅうりの半促成栽培における品種比較調査（平成 22 年度～平成 24 年度）

1 目的 当地域におけるきゅうりの半促成栽培について比較調査し、栽培上の資料とする。

2 調査方法

- (1) 調査場所 パイプハウス 7 号 (99 m²: 約 30 坪)
- (2) 耕種概要
- 1) 栽培方法 養液土耕栽培
 - 2) は種月日(穂木) 平成 22 年 2 月 16 日
 - 3) は種月日(台木) 平成 22 年 2 月 18 日
 - 4) 接木・移植月日 平成 22 年 2 月 25 日 (15 cmポット)
 - 5) 仕立方法
 - 1 本仕立
 - ～ 7 節 側枝除去
 - 8～9 節 子づる 1 節、孫づる 1 節止め
 - 10 節 子づる放任、孫づる 1 節止め
 - 11～22 節 子づる 2 節、孫づる 1 節止め
 - 23～24 節 子づる放任、孫づる 1 節止め
 - 25 節 摘心
 - 6) 定植年月日 平成 22 年 3 月 23 日
 - 7) 育苗日数 35 日
 - 8) 栽植距離 うね幅 150 cm、株間 45 cm、2 条植え 144 株/棟
 - 9) 施肥量 (kg/a) N-P-K=0.9 - 0.81 - 1.58
使用資材 (kg/a) バーク堆肥: 300kg
大塚養液土耕 5 号 (～収穫前)、2 号 (収穫開始～)
 - 10) 収穫期間 平成 22 年 5 月 5 日～7 月 23 日
 - 11) 薬剤散布 10 回
 - 12) 保温・加温 内カーテン、温風暖房機 (12 設定) 定植後～6 月 3 日
- (3) 調査区の構成 4 区 (1 区 5 株、1 区制)
- (1) エクセレント節成 2 号 (埼) × ゆうゆう一輝黒 (埼)
 - (2) グリーンラックス 2 (埼) × ゆうゆう一輝黒 (埼)
 - (3) シャープ 1 (埼) × ゆうゆう一輝黒 (埼)
 - (4) プロジェクト X (と) × ときわパワー Z2 (と)
- (埼): ㈱埼玉原種育成会、(と): ㈱ときわ研究所
- (4) 調査項目 生育、収量

3 結果の概要

- (1) 生育
収穫時調査において、草丈・葉数ともに最も多かった「プロジェクト X」は、最も草丈の小さかった「グリーンラックス 2」に比べ約 20 cm 程度の差があった。
- (2) 収量
最も本数が穫れた品種は「エクセレント節成 2 号」で 361 本。上物率が最も良かった品種は「プロジェクト X」で 77%。10a 当たり換算収量は「プロジェクト X」, 「エクセレント節成 2 号」, 「グリーンラックス 2」の順で多かった。
本調査から、「プロジェクト X」が有望と思われる。

表1 生育調査 (10株当たり)

(単位: cm、枚)

品種名	最大葉			
	草丈	葉数	縦径	横径
エクセレント節成2号	35.3	4.7	16.3	14.5
	114.5	22.3	20.6	28.2
グリーンラックス2	25.8	4.0	14.6	13.7
	93.6	23.2	17.9	24.5
シャープ1	28.8	4.0	14.8	13.4
	98.0	21.2	18.2	23.5
プロジェクトX	35.3	5.0	15.3	14.5
	115.7	25.7	18.9	25.7

上段 3/23 (定植時) 下段 5/4 (収穫時) 調査

表2 収量調査

品種名	上物		下物		合計		平均 1本重(g)	上物率	1棟当 り収量 (kg)	10a当 り換算収 量(t)
	収量(g)	本数	収量(g)	本数	収量(g)	本数				
エクセレント節成2号	22,150	251	9,671	110	31,821	361	88.1	70%	916	9.2
グリーンラックス2	22,167	247	9,374	109	31,541	356	88.6	70%	908	9.1
シャープ1	20,301	233	9,384	96	29,685	329	90.2	68%	855	8.5
プロジェクトX	27,015	270	7,964	87	34,979	357	98.0	77%	1,007	10.1

調査 5株当たり

上物率は収量ベースによる

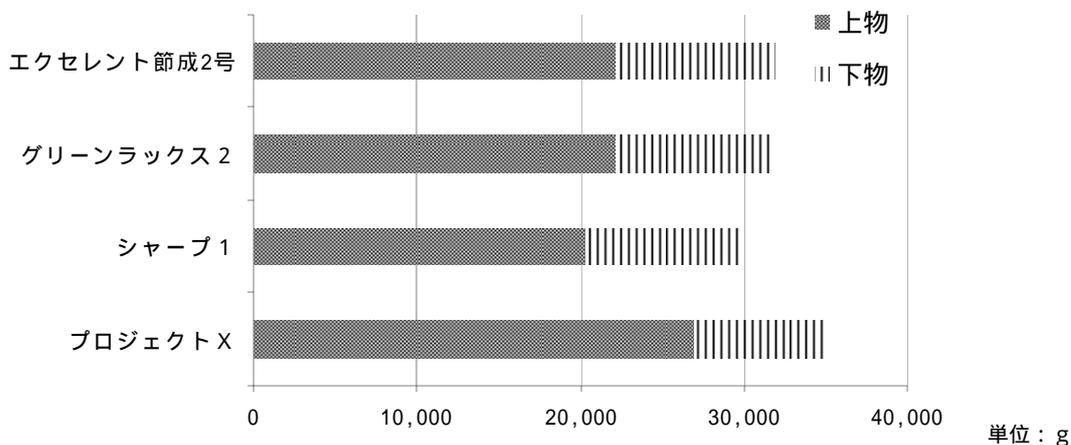


図1 上物、下物別収量 (5株当り)

調査名：きゅうりの抑制栽培における品種比較調査（新規：平成 22 年度～平成 24 年度）

1 目的 当地域におけるきゅうりの抑制栽培について品種比較し、栽培上の資料とする。

2 調査方法

- (1) 調査場所 パイプハウス 6 号 (99 m²: 約 30 坪)
- (2) 耕種概要
- 1) 栽培方法 養液土耕栽培
 - 2) は種月日(穂木) 平成 22 年 7 月 12 日
 - 3) は種月日(台木) 平成 22 年 7 月 14 日
 - 4) 接木・移植月日 平成 22 年 7 月 22 日 (9 cmポット)
 - 5) 仕立方法
1 本仕立
～ 7 節 側枝除去
8～9 節 子づる 1 節、孫づる 1 節止め
10 節 子づる放任、孫づる 1 節止め
11～22 節 子づる 2 節、孫づる 1 節止め
23～24 節 子づる放任、孫づる 1 節止め
25 節 摘心
- 6) 定植年月日 平成 22 年 8 月 10 日
- 7) 育苗日数 29 日
- 8) 栽植距離 うね幅 150 cm、株間 45 cm、2 条植え 144 株/棟
- 9) 施肥量 (kg/a) N-P-K=0.86 - 0.69 - 1.52
使用資材 (kg/a) バーク堆肥: 300kg
大塚養液土耕 5 号 (～収穫前)、2 号 (収穫開始～)
- 10) 収穫期間 平成 22 年 9 月 4 日～11 月 24 日
- 11) 薬剤散布 15 回
- 12) 保 温 内カーテン
- (3) 調査区の構成 4 区 (1 区 10 株、1 区制)
- (1) エクセレント節成 2 号 (埼) × ゆうゆう一輝黒 (埼)
 - (2) エクセレント節成 353 (埼) × ゆうゆう一輝黒 (埼)
 - (3) シャープ 1 (埼) × ゆうゆう一輝黒 (埼)
 - (4) フリーダムハウス 3 号 (サ) × つやか EX (サ)
(埼): (株) 埼玉原種育成会 (と): (株) ときわ研究場
(サ): (株) サカタのタネ
- (4) 調査項目 生育、収量

3 結果の概要

- (1) 生育
収穫時の調査において、草丈については全ての品種が 164～170 cm の範囲にあり、大きな差は見られなかったが、葉数については「フリーダムハウス 3 号」が 63.8 枚と突出して多く、最も少ない「シャープ 1」の 35.5 枚に比べ、約 8 割多かった。
- (2) 収量
最も本数が穫れた品種は「エクセレント節成 353」で 420 本と突出していた。上物率が最も良かった品種は「エクセレント節成 2 号」で 77%。
本調査から、上物率は 65% であるが本数が穫れ、10a 当たり換算収量も 10.7t と最も多い「エクセレント節成 353」が有望と思われる。

表1 生育調査 (10株当たり)

品種名	草丈(cm)	葉数	最大葉 (cm)	
			縦径	横径
エクセレント節成2号 ×ゆうゆう一輝(黒)	34.8	7.6	12.0	11.7
	167.2	44.5	23.7	28.4
エクセレント節成353 ×ゆうゆう一輝(黒)	32.0	8.0	12.0	12.5
	164.0	43.0	24.0	30.0
シャープ1 ×ゆうゆう一輝(黒)	32.7	7.1	11.4	11.1
	167.8	35.5	24.3	26.7
フリーダムハウス3号 ×つやかEX	32.0	7.1	12.4	12.4
	170.3	63.8	24.9	29.6

上段 8/10 (定植時) 下段 9/4 (収穫時) 調査

表2 収量調査 (5株当たり)

品種	上物		下物		合計		平均 1本重 (g)	上物率	1株当 り収量 (kg)	10a当 たり 換算収量 (t)
	収量 (g)	本数	収量 (g)	本数	収量 (g)	本数				
エクセレント節成2号×ゆうゆう一輝(黒)	14,172	154	4,206	48	18,378	202	91.0	77%	529	5.3
エクセレント節成353×ゆうゆう一輝(黒)	24,235	265	12,875	155	37,110	420	88.4	65%	1,069	10.7
シャープ1×ゆうゆう一輝(黒)	11,631	129	7,341	73	18,972	202	93.9	61%	546	5.5
フリーダムハウス3号×つやかEX	18,345	165	6,199	53	24,544	218	112.6	75%	707	7.1

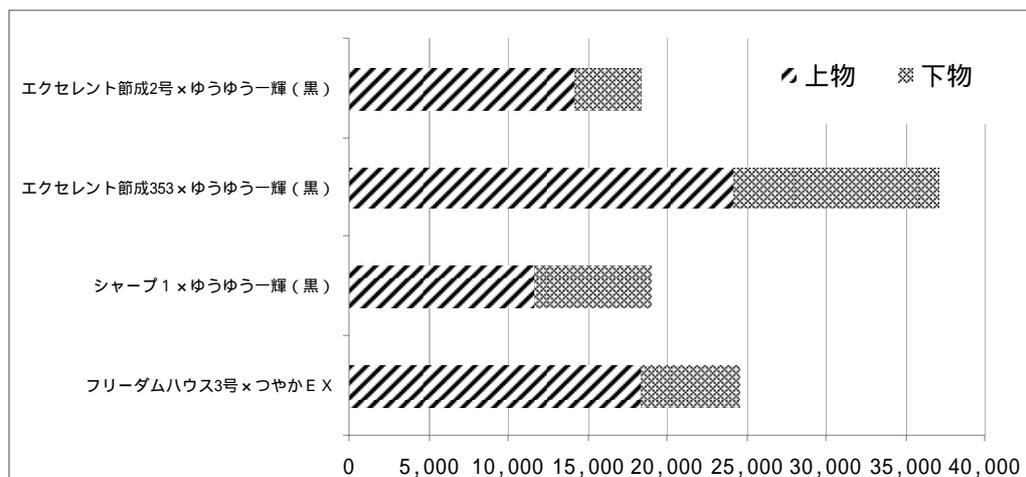


図1 上物、下物別収量 (5株当り)

調査名：冬期間の施設利用によるこまつなの品種比較調査（新規：平成 22 年度～平成 24 年度）

1 目的 冬期間の施設利用によるこまつな栽培について品種比較し、栽培上の資料とする。

2 調査方法

- (1) 調査場所 パイプハウス 6 号 (99 m²: 約 30 坪)
- (2) 耕種概要
- 1) 栽培方法 無加温・土耕栽培
- 2) は種月日 平成 22 年 11 月 26 日
(不織布べたがけ 12 月 3 日発芽後からトンネル)
- 3) 栽植距離 ベッド幅 120 cm × 株間 5 cm × 条間 20 cm
- 4) 施肥量 (kg/a) 無肥料 (きゅうり栽培のあと作)
- 5) 収穫期間 平成 23 年 2 月 9 日～15 日
- 6) 薬剤散布 無し
- 7) 保温 内カーテン
- (3) 調査区の構成 7 区: 1 区 1 品種 1m(20 株)、3 区制
- | | |
|-------------------|-----------------|
| (1) あやか(野原種苗) | (5) 楽天(タキイ種苗株) |
| (2) 河北(株渡辺採種場) | (6) 新晩生(タキイ種苗株) |
| (3) わかみ(株サカタのタネ) | (7) 神楽坂(日本農林社) |
| (4) なかまち(株サカタのタネ) | |
- (4) 調査項目 生育、収量、糖度

3 結果の概要

- (1) 生育
収穫は草丈 20 cm～25 cm程度を目処に実施した。生育の早さは「わかみ」、「楽天」が早かった。
草丈は「楽天」、「神楽坂」については、生育日数 75 日、81 日でほとんど変化無かったが、調整重量については重みが増していた。
葉色が濃い品種は「あやか」、草姿が良い品種は「河北」、「わかみ」、「神楽坂」であり、「新晩生」については株の締まりが良くなかった。
耐寒性については「楽天」、「新晩生」が若干弱いようであった。(生長点凍害)
欠株率については、「河北」、「わかみ」、「神楽坂」が 10%未満で少なかった。
「新晩生」は欠株率が 45%と多かった。
- (2) 収量
a 当たりの換算収量は「わかみ」が最も多く 304.6kg。次いで、「なかまち」230kg、「河北」197.6kg の順であった。
1 株重についても、「わかみ」が 48.6g と最も重く、次いで、「新晩生」48.6g、「なかまち」41.8g の順であった。
- (3) 糖度 (Brix%)
最も高かった品種は「あやか」で 4.7。次いで「新晩生」、「神楽坂」が 4.3 であった。
全品種の平均は 4.0 と低めであり、過去 5 年で最も低い値となった。
これは、生育期間中(11 月～2 月) 1 月を除いて気温が平年より高く(+0.9～1.8) 推移した影響も一因としてあると思われる。

表1 収量等調査 (1m:20株当たり)

品種名	生育 日数	草丈 (cm)	調整収量 (g)	1株重 (g)	欠株率 (%)	a当たり換算 収量(kg)	Brix 糖度(%)
あ や か	75	16.7	220	15.6	25	71.3	4.7
	81	21.8	480	32.0	25	155.5	
河 北	75	21.2	390	21.0	5	126.4	4.1
	81	25.5	610	33.9	10	197.6	
わ か み	75	23.2	504	27.7	10	163.3	3.4
	81	29.0	940	49.5	5	304.6	
な か ま ち	75	20.9	382	26.3	25	123.8	3.0
	81	24.9	710	41.8	15	230.0	
楽 天	75	23.9	394	23.2	15	127.7	4.2
	81	24.5	540	33.8	20	175.0	
新 晩 生	75	23.7	341	20.6	15	110.5	4.3
	81	30.2	535	48.6	45	173.3	
神 楽 坂	75	21.1	375	20.8	10	121.5	4.3
	81	21.1	430	22.6	5	139.3	

上段 2/9、下段 2/15 収穫時調査

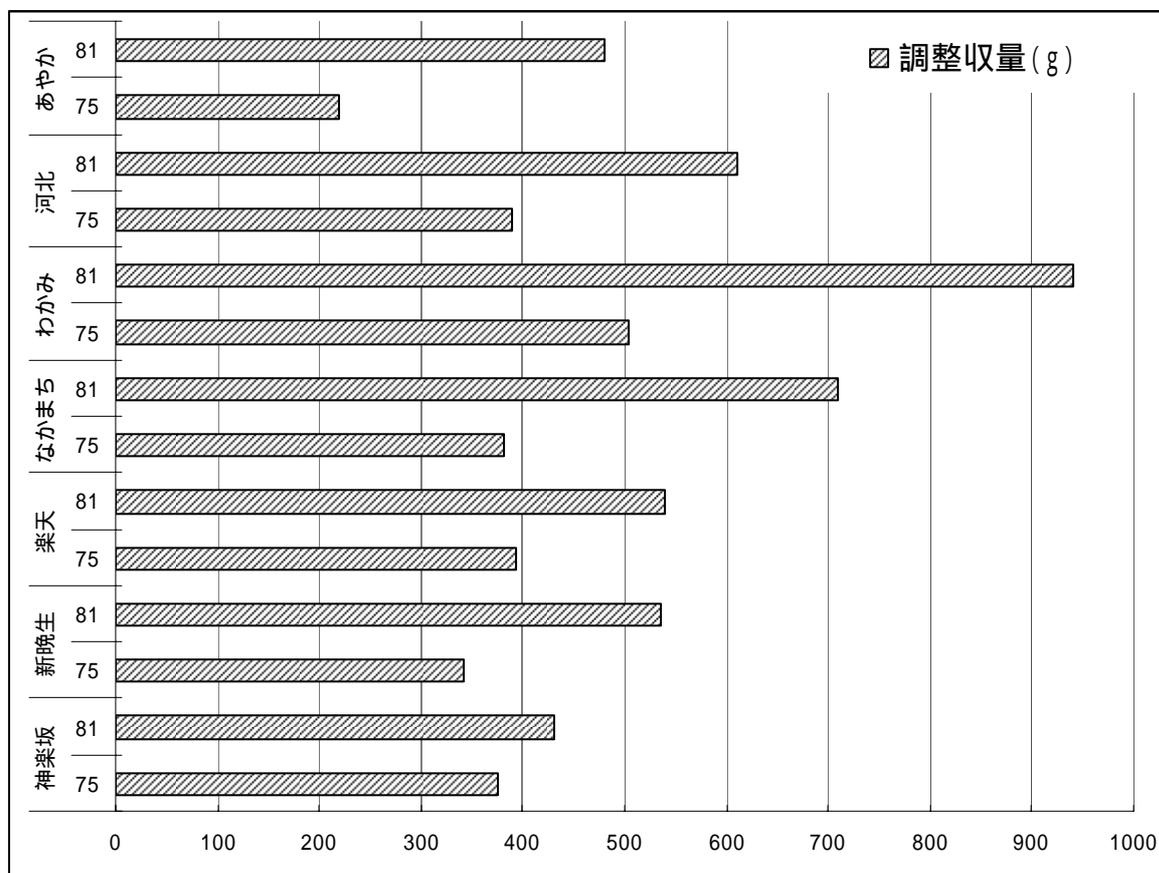


図1 品種別収量 (1m:20株当たり)

調査名：トマトの促成栽培における品種比較調査（新規：平成 22 年度～平成 24 年度）

1 目的 当地域におけるトマト促成栽培について、有望品種の選定のため、品種比較し、栽培上の資料とする。

2 調査方法

- (1) 調査場所 ガラス温室 8 号 (165 m²: 約 50 坪)
- (2) 耕種概要
- 1) 栽培方法 養液土耕栽培
 - 2) は種月日 平成 21 年 12 月 21 日
 - 3) 移植月日 平成 22 年 1 月 18 日 (15 cmポット)
 - 4) 定植年月日 平成 22 年 2 月 16 日
 - 5) 育苗日数 57 日
 - 6) 栽植距離 ベッド幅 120 cm、株間 40 cm、2 条植え 320 株/棟
 - 7) 施肥量 (kg/a) N-P-K=2.48 - 0.69 - 1.52
 - 8) 使用資材 (kg/a) バーク堆肥: 303kg、ハイプロN: 37.6 L、大塚養液土耕 5 号 (~収穫前)、2 号 (収穫開始~) ホルモン処理 (トマトトーンを火曜日・金曜日に処理) 倍率: 50 倍 (20 未満)、100 倍 (20 以上)
 - 9) 着果方法
 - 10) 収穫期間 平成 22 年 4 月 26 日 ~ 7 月 20 日
 - 11) 薬剤散布 17 回
 - 12) 保温・加温 内カーテン、温風暖房機 (12 設定) 定植後 ~ 6 月 3 日
 - 13) 摘心 平成 22 年 5 月 21 日 (9 段)
- (3) 調査区の構成 8 区 (品種)
- | | |
|-------------------------|------------------------|
| (1) 桃太郎はるか (タキイ種苗株) | (5) 桃太郎サニー (タキイ種苗株) |
| (2) CF 桃太郎ファイト (タキイ種苗株) | (6) CF 桃太郎はるか (タキイ種苗株) |
| (3) 朝日和もえか (朝日工業株) | (7) りんか 409 (株サカタのタネ) |
| (4) みそら 64 (みかど協和株) | (8) 麗夏 (株サカタのタネ) |
- (4) 調査項目 生育、収量、糖度

3 結果の概要

- (1) 生育
 収穫時の調査において草丈があった品種は「CF 桃太郎ファイト」「麗夏」で共に 220.5 cm。低かった品種は「みそら 64」174.9 cm、次いで「りんか 409」176.5 cm であったが、葉数は 30 枚前後であり、節間の詰まった草姿であった。
- (2) 収量
 調査 10 株当たり収量が多かった品種は「CF 桃太郎はるか」で次いで「みそら 64」、「桃太郎はるか」の順であり、商品化率についても 83~86%で同程度であった。
 平均 1 果重が最もあった品種は「麗夏」203.4g で、次いで「CF 桃太郎はるか」201.1g、「桃太郎はるか」199.7g の順であった。
 今回の調査から、「CF 桃太郎はるか」「みそら 64」「桃太郎はるか」が促成品種として有望と思われる。
- (3) 糖度
 最も高かった品種は「CF 桃太郎ファイト」で 8.0。次いで、「りんか 409」7.4、「桃太郎サニー」、「CF 桃太郎はるか」がいずれも 7.2 の順であった。
 その他の品種についても 7 前後であった。(「麗夏」6.3 を除く)

表1 生育調査 (10株当たり)

品種名	項目	草丈 (cm)	葉数 (枚)	第1花房 の節位	茎の太さ (mm)	葉長 (cm)
桃太郎はるか		30.8	9.0	8.2	8.7	32.8
		191.5	25.9	-	11.4	52.5
CF桃太郎ファイト		26.5	8.6	8.6	8.9	31.0
		220.5	31.0	-	12.4	47.5
朝日和もえか		25.4	9.1	8.9	8.1	30.1
		184.5	30.4	-	11.9	48.2
みそら64		24.9	8.5	8.4	8.8	29.3
		174.9	28.5	-	10.1	43.5
桃太郎サニー		28.6	9.4	9.0	7.3	30.5
		188.0	26.9	-	10.2	48.7
CF桃太郎はるか		30.1	9.9	9.5	7.8	32.3
		210.8	29.2	-	9.9	50.6
りんか409		24.7	8.8	8.7	8.4	29.2
		176.5	28.5	-	10.7	47.6
麗夏		20.0	7.5	7.4	7.1	28.7
		220.5	31.6	-	12.4	47.5

表2 糖度調査結果 (6/15調査)

品種名	糖度 (Brix%)
麗夏	6.3
りんか409	7.4
桃太郎はるか	7.0
桃太郎サニー	7.2
みそら64	7.1
朝日和もえか	7.1
CF桃太郎ファイト	8.0
CF桃太郎はるか	7.2

上段2/16(定植時) 下段4/26(収穫時)調査

表3 収量調査 (10株当たり)

品種名	上物		下物		合計		平均 1果重(g)	商品化率 (%)	1棟当たり 換算収量(t)	10a当たり 換算収量(t)
	収量(g)	個数(個)	収量(g)	個数(個)	収量(g)	個数(個)				
CF桃太郎はるか	43,166	196	7,514	56	50,680	252	201.1	85%	1.6	9.7
CF桃太郎ファイト	32,181	168	9,612	74	41,793	242	172.7	77%	1.3	8.0
朝日和もえか	35,296	186	6,144	54	41,440	240	172.7	85%	1.3	8.0
みそら64	43,472	219	7,053	54	50,525	273	185.1	86%	1.6	9.7
桃太郎サニー	32,944	173	9,580	67	42,524	240	177.2	77%	1.4	8.2
桃太郎はるか	41,896	196	8,640	57	50,536	253	199.7	83%	1.6	9.7
りんか409	33,343	160	13,277	85	46,620	245	190.3	72%	1.5	9.0
麗夏	29,194	146	19,008	91	48,202	237	203.4	61%	1.5	9.3

上物とはA~B品の合計 = 商品化とした。

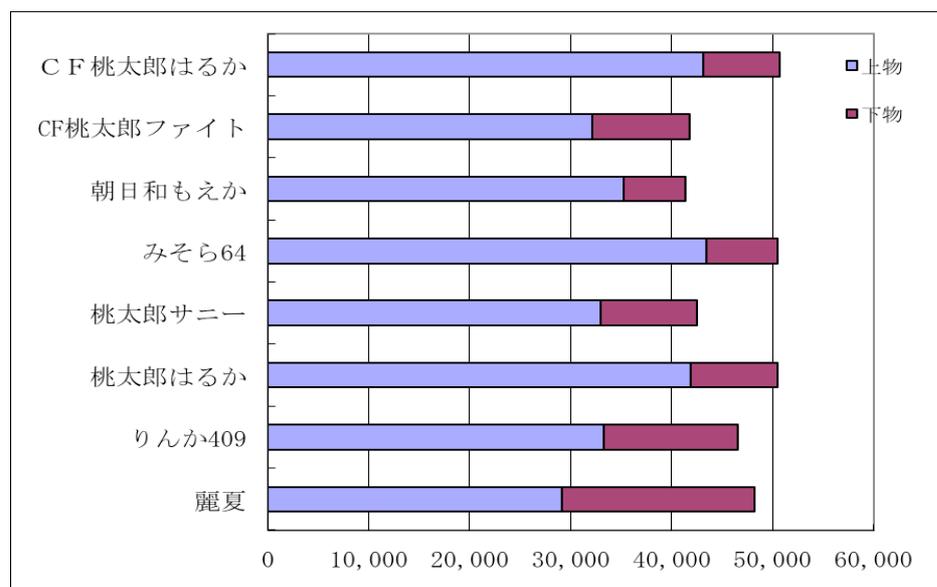


図1 上物、下物別収量 (10株当り)

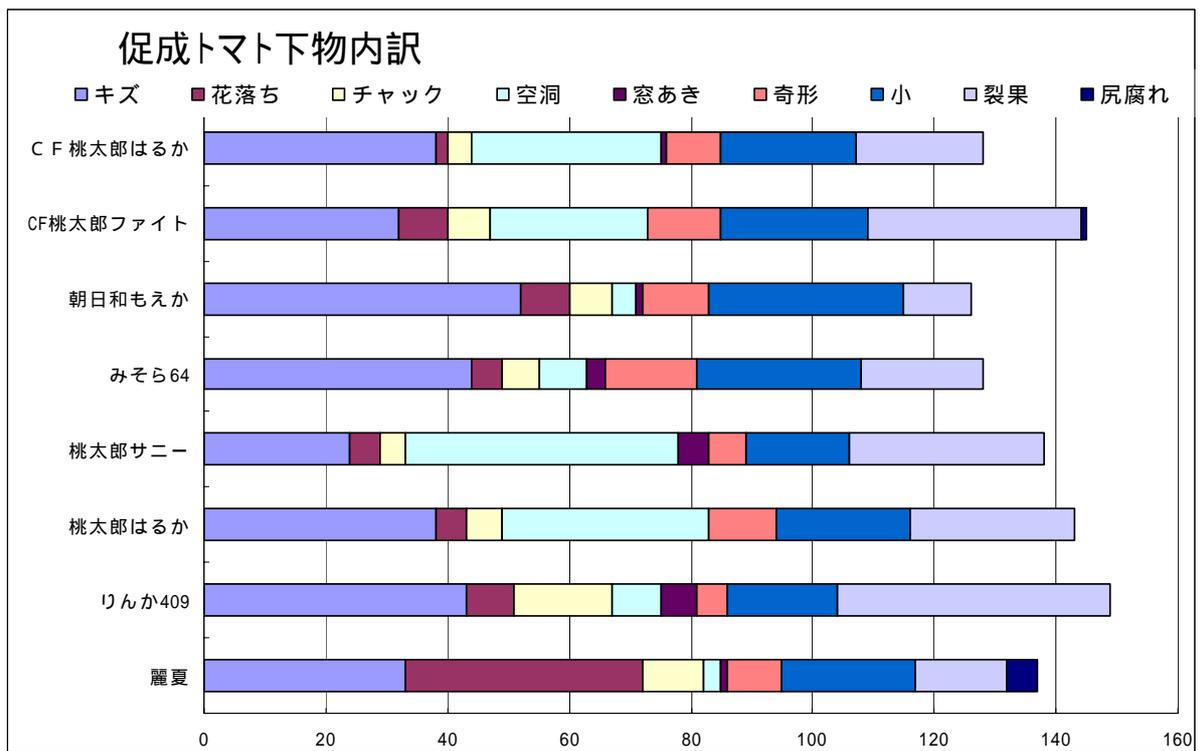


図2 下物の内訳(参考 単位:個)

調査名：トマトの夏秋栽培における品種比較調査（新規：平成 22 年度～平成 24 年度）

- 1 目的 当地域におけるトマト夏秋栽培について、有望品種の選定のため、品種比較し、栽培上の資料とする。

2 調査方法

- (1) 調査場所 ガラス温室 5 号（50 坪：約 165 m²）
- (2) 耕種概要
- 1) 栽培方法 養液土耕栽培
 - 2) は種月日 平成 22 年 2 月 22 日
 - 3) 移植月日 平成 22 年 3 月 12 日（12 cmポット）
 - 4) 定植年月日 平成 22 年 4 月 6 日
 - 5) 育苗日数 43 日
 - 6) 栽植距離 ベッド幅 120 cm、株間 40 cm、2 条植え 320 株/棟
 - 7) 施肥量 (kg/a) N-P-K=3.12 - 2.67 - 5.48
 - 8) 使用資材 (kg/a) バーク堆肥：303kg、ハイプロN：37.6 L、大塚養液土耕 5 号（～収穫前）、2 号（収穫開始～）
- 9) 着果方法 ホルモン処理（トマトトーンを火曜日・金曜日に処理）
倍率：50 倍（20 未満）、100 倍（20 以上）
- 10) 収穫期間 平成 22 年 6 月 4 日～10 月 29 日
 - 11) 薬剤散布 17 回
 - 12) 保温・加温 内カーテン、温風暖房機（12 設定）定植後～6 月 3 日
 - 13) 摘心 平成 22 年 9 月 17 日（19 段）
- (3) 調査区の構成 8 区（品種）
- | | |
|-----------------------|-----------------------|
| (9) CF 桃太郎ヨーク（タキイ種苗株） | (13) 桃太郎グランデ（タキイ種苗株） |
| (10) 朝日和もえか（朝日工業株） | (14) 桃太郎サニー（タキイ種苗株） |
| (11) みそら 64（みかど協和株） | (15) りんか 409（株サカタのタネ） |
| (12) 桃太郎ギフト（タキイ種苗株） | (16) 麗夏（株サカタのタネ） |
- (4) 調査項目 生育、収量、糖度

3 結果の概要

- (1) 生育
収穫時調査において、草丈は「麗夏」が最も高く 187.1 cm、「CF 桃太郎ヨーク」144.1 cmで 43 cmの差があった。
葉数については、全品種 25 枚前後で同程度であった。
- (2) 収量
10a 当たり換算収量については、「麗夏」13.0t で最も多く、次いで「みそら 64」12.8t、「桃太郎サニー」11.9t の順であった。
平均 1 果重が重かった品種は「桃太郎サニー」で 151.2g。次いで「りんか 409」、「桃太郎グランデ」の順であった。
商品化率の良かった品種は「桃太郎サニー」「みそら 64」であった。（72～73%）
商品化率について、「桃太郎ギフト」は 55%と最も割合が低かった。
今回の調査から、「麗夏」、「みそら 64」、「桃太郎サニー」が夏秋栽培品種として有望と思われる。
- (3) 糖度
最も高かった品種は「桃太郎ギフト」で 6.9。次いで、「朝日和もえか」、「桃太郎サニー」、「りんか 409」であった。
最も低い品種は「麗夏」で 5.8 であった。

表1 生育調査

品種名	項目	草丈 (cm)	葉数 (枚)	第1花房 の節位	茎の太さ (cm)	葉長 (cm)	葉長 (mm)
CF桃太郎ヨーク		23.0	7.0	6.4	0.6	23.4	23.4
		144.1	24.4	-	1.1	46.1	46.1
朝日和もえか		22.3	7.3	7.2	0.6	22.3	22.3
		147.5	25.9	-	1.1	47.8	47.8
みそら64		25.9	7.6	6.7	0.6	23.3	23.3
		161.2	27.5	-	1.2	48.8	48.8
桃太郎ギフト		24.7	8.4	8.1	0.7	23.7	23.7
		144.7	25.8	-	1.1	50.2	50.2
桃太郎グランデ		30.0	7.3	6.9	0.7	24.2	24.2
		163.6	26.7	-	1.1	47.6	47.6
桃太郎サニー		27.4	7.1	7.3	0.6	24.7	24.7
		165.1	26.2	-	1.1	51.6	51.6
りんか409		26.4	7.6	7.0	0.6	22.8	22.8
		152.0	26.0	-	1.1	48.7	48.7
麗夏		24.2	6.9	7.0	0.6	24.1	24.1
		187.1	26.9	-	1.1	56.5	56.5

上段4/6(定植時) 下段6/4(収穫時)調査

表2 糖度調査結果(8月13日)

品種名	糖度 (Brix%)
CF桃太郎ヨーク	5.9
朝日和もえか	6.6
みそら64	6.2
桃太郎ギフト	6.9
桃太郎グランデ	6.1
桃太郎サニー	6.5
りんか409	6.5
麗夏	5.8

表3 収量調査(10株当たり)

品種名	上物		下物		合計		平均 1果重(g)	商品化率 (%)	1棟当たり 換算収量 (t)	10a当たり 換算収量 (t)
	収量(g)	個数(個)	収量(g)	個数(個)	収量(g)	個数(個)				
CF桃太郎ヨーク	33,201	194	16,627	151	49,828	345	144.4	67%	1.6	9.6
朝日和もえか	30,485	191	20,412	214	50,897	405	125.7	60%	1.6	9.8
みそら64	47,883	302	18,782	168	66,665	470	141.8	72%	2.1	12.8
桃太郎ギフト	31,322	175	25,158	223	56,480	398	141.9	55%	1.8	10.8
桃太郎グランデ	37,583	234	17,853	142	55,436	376	147.4	68%	1.8	10.6
桃太郎サニー	45,374	260	16,449	149	61,823	409	151.2	73%	2.0	11.9
りんか409	36,499	216	18,388	156	54,887	372	147.5	66%	1.8	10.5
麗夏	43,260	250	24,368	224	67,628	474	142.7	64%	2.2	13.0

上物とはA~B品の合計=商品化とした。

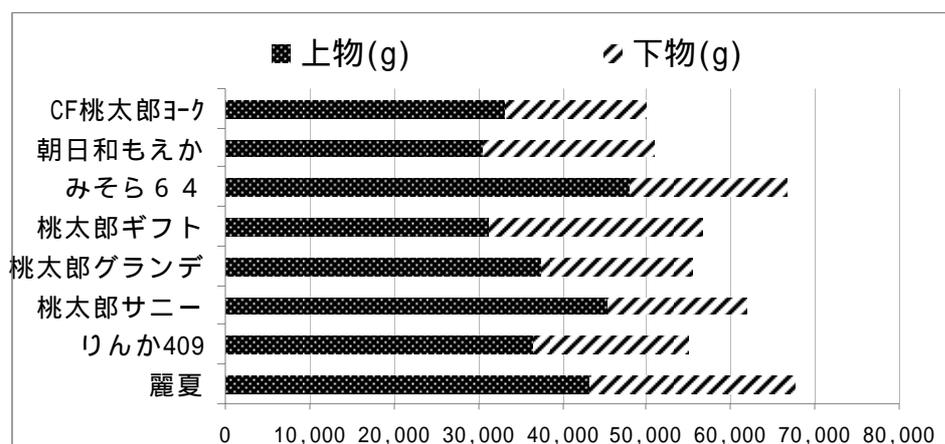


図1 上物、下物別収量(10株当り)

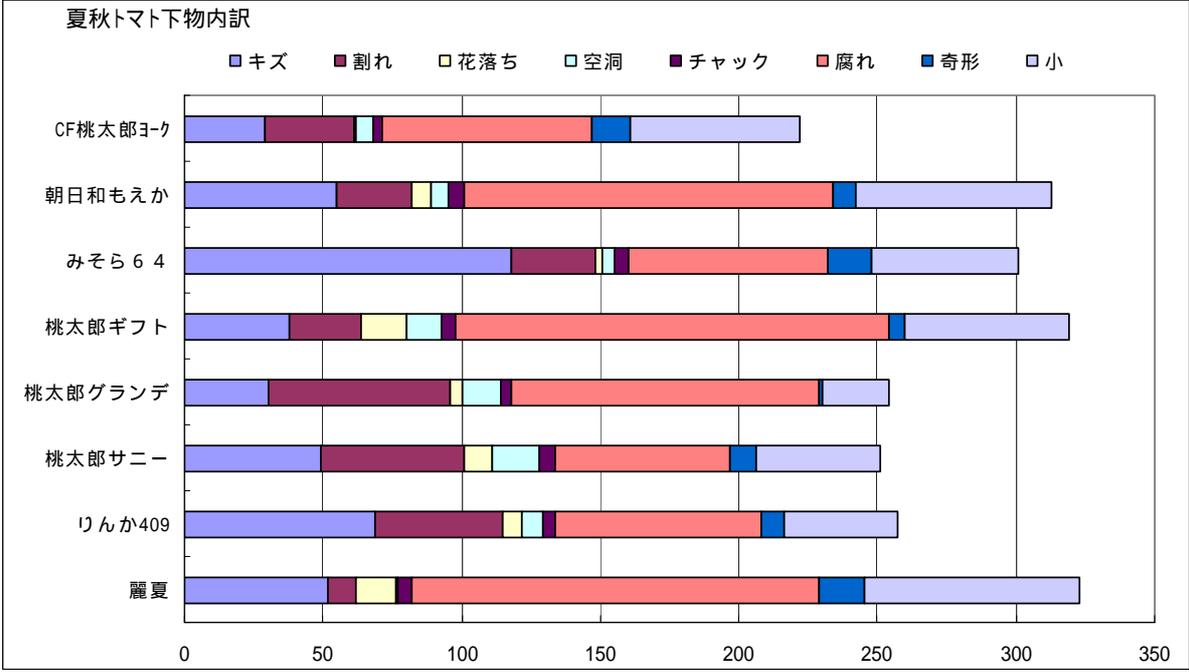


図2 下物の内訳(参考 単位:個)

調査名：トマトの抑制栽培における品種比較調査（平成 21 年度～平成 23 年度）

- 1 目的 当地域におけるトマトの抑制栽培について、有望品種の選定のため、品種比較し、栽培上の資料とする。

2 調査方法

- (1) 調査場所 ガラス温室 8 号（165 m²：約 50 坪）
- (2) 耕種概要
- 1) 栽培方法 養液土耕栽培
 - 2) は種月日 平成 22 年 6 月 11 日(72 穴プラグポット)
 - 3) 定植年月日 平成 22 年 7 月 8 日（前作の栽培中にその株間に定植）
 - 4) 育苗日数 27 日
 - 5) 栽植距離 ベッド幅 120 cm、株間 40 cm、2 条植え 320 株/棟
 - 6) 施肥量 (kg/a) N-P-K=2.09 - 1.98 - 3.64（土壌分析結果による）
 - 7) 使用資材 (kg/a) 大塚養液土耕 5 号（～収穫前）2 号（収穫開始～）
 - 8) 収穫期間 平成 22 年 8 月 25 日～11 月 29 日
 - 9) 薬剤散布 17 回
ラノーテープ剤を、うね毎に 1 本、作物の触れない株上に設置。
- 10) 着果方法 ホルモン処理（トマトトーンを火曜日・金曜日に処理）
倍率：50 倍（20 未満）、100 倍（20 以上）
- 11) 保温・加温 内カーテン、温風暖房機（12 設定）10 月 25 日～11 月 29 日
- 12) 摘心 平成 22 年 9 月 28 日（8 段）
- (3) 調査区の構成 8 区（品種）
- | | |
|------------------------|-----------------------|
| (17) CF 桃太郎はるか（タキイ種苗株） | (21) 桃太郎サニー（タキイ種苗株） |
| (18) 朝日和もえか（朝日工業株） | (22) 桃太郎はるか（タキイ種苗株） |
| (19) みそら 64（みかど協和株） | (23) りんか 409（株サカタのタネ） |
| (20) 桃太郎ギフト（タキイ種苗株） | (24) 麗夏（株サカタのタネ） |
- (4) 調査項目 生育、収量、糖度

3 結果の概要

- (1) 生育
草丈について収穫時、「CF 桃太郎はるか」175.1 cm、「麗夏」162.0 cmで、他の品種はいずれも 150 cm前後であった。
- (2) 収量
10a 当たり換算収量については「麗夏」が最も多く 6.0t、次いで「朝日和もえか」、「CF 桃太郎はるか」の順であった。
平均 1 果重についても「麗夏」「朝日和もえか」の順で、商品化率については「りんか 409」が 79%で最も良く、次いで「朝日和もえか」「桃太郎はるか」の順であった。
これらの結果から、抑制栽培においては「麗夏」「朝日和もえか」が有望と思われる。
- (3) 糖度
最も高かった品種は「りんか 409」で 5.7。次いで、「桃太郎ギフト」、「みそら 64」の順であった。平均で約 5 程度であった。

表1 生育調査

品種名	項目	草丈 (cm)	葉数 (枚)	第1花房 の節位	茎の太さ (cm)	葉長 (cm)
C F 桃太郎はるか		48.7	8.8	7.9	0.5	27.9
		175.1	23.4	-	1.5	49.8
朝日和もえか		54.4	9.7	8.2	0.6	31.7
		151.7	23.3	-	0.8	46.7
みそら64		59.6	10.8	6.9	0.6	32.9
		154.7	24.3	-	0.8	50.0
桃太郎ギフト		56.4	8.0	8.4	0.5	31.0
		152.6	23.1	-	0.7	52.9
桃太郎サニー		59.5	8.6	8.3	0.6	34.6
		151.9	22.8	-	0.8	51.0
桃太郎はるか		64.0	11.5	7.7	0.6	37.4
		155.4	22.8	-	0.8	48.2
りんか409		60.4	11.2	8.2	0.6	31.0
		149.4	22.5	-	0.9	47.9
麗夏		68.7	11.0	7.8	0.7	38.1
		162.0	23.3	-	0.9	52.0

上段7/8(定植時) 下段8/25(収穫時)調査

表2 糖度調査(10月17日)

品種名	糖度 (Brix%)
C F 桃太郎はるか	4.6
朝日和もえか	4.5
みそら64	5.2
桃太郎ギフト	5.4
桃太郎サニー	4.6
桃太郎はるか	4.6
りんか409	5.7
麗夏	5.1

表3 収量調査(10株当たり)

品種名	上物		下物		合計		平均 1果重(g)	商品化率 (%)	1棟当たり 換算収量 (t)	10a当たり 換算収量 (t)
	収量(g)	個数(個)	収量(g)	個数(個)	収量(g)	個数(個)				
C F 桃太郎はるか	21,666	133	7,766	62	29,432	195	150.9	74%	0.9	5.7
朝日和もえか	23,351	135	7,163	56	30,514	191	159.8	77%	1.0	5.9
みそら64	18,408	116	6,275	54	24,683	170	145.2	75%	0.8	4.7
桃太郎ギフト	14,277	97	9,116	87	23,393	184	127.1	61%	0.7	4.5
桃太郎サニー	17,320	110	7,234	59	24,554	169	145.3	71%	0.8	4.7
桃太郎はるか	17,683	105	5,531	43	23,214	148	156.9	76%	0.7	4.5
りんか409	22,084	135	5,989	44	28,073	179	156.8	79%	0.9	5.4
麗夏	23,175	138	8,114	56	31,289	194	161.3	74%	1.0	6.0

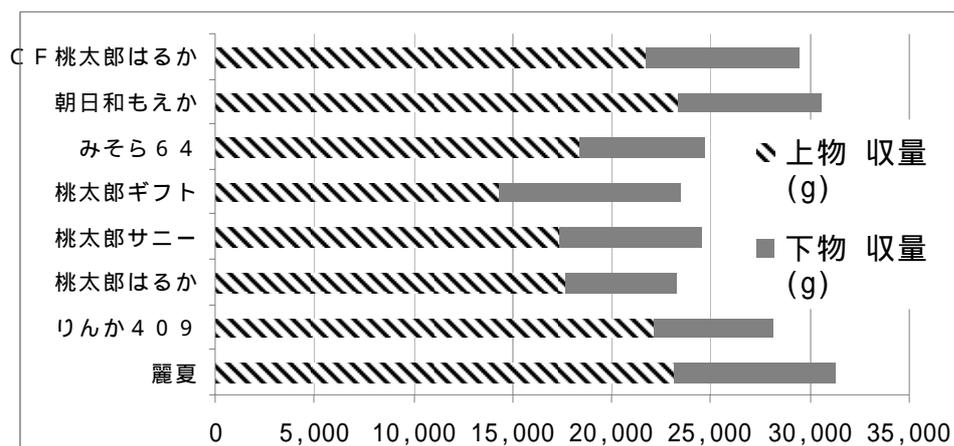


図1 上物、下物別収量(10株当り)

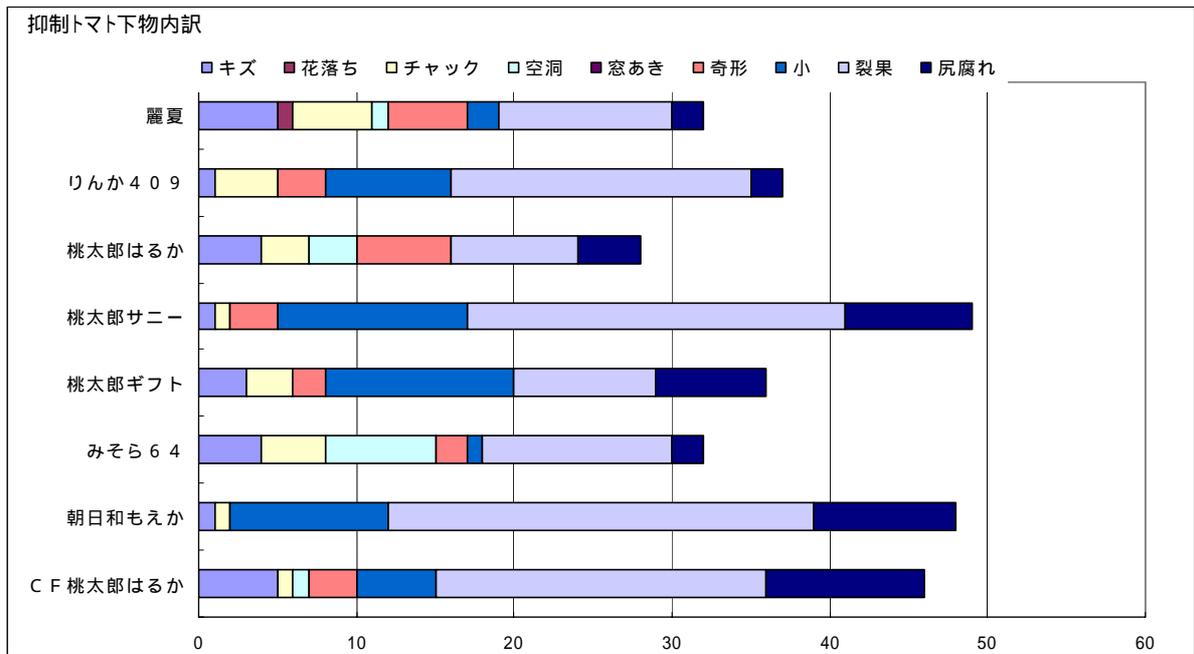


図2 下物の内訳(参考 単位:個)

調査名：ミニトマトの促成栽培における品種比較調査（平成 22 年度～平成 24 年度）

1 目的 当地域におけるミニトマトの促成栽培について、有望品種の選定のため、品種比較し、栽培上の資料とする。

2 調査方法

- (1) 調査場所 ガラス温室 6 号（50 坪：約 165 m²）
- (2) 耕種概要
 - 1) 栽培方法 養液土耕栽培
 - 2) は種月日 平成 21 年 12 月 21 日
 - 3) 移植月日 平成 22 年 1 月 15 日（15 cmポット）
 - 4) 定植年月日 平成 22 年 2 月 10 日
 - 5) 育苗日数 51 日
 - 6) 栽植距離 ベッド幅 120 cm、株間 40 cm、2 条植え 320 株/棟
 - 7) 施肥量 (kg/a) N-P-K=2.48 - 0.69 - 1.52
 - 8) 使用資材 (kg/a) (基肥) パーク堆肥：303kg、ハイプロN：37.6 L、(追肥) 大塚養液土耕 5 号（～収穫前）2 号（収穫開始～）
 - 9) 収穫期間 平成 22 年 4 月 14 日～7 月 20 日
 - 10) 薬剤散布 17 回
- (3) 調査区の構成 5 区（品種）
 - (25) キャロル 10(株サカタのタネ)
 - (26) SC7-040 (株サカタのタネ)
 - (27) キャロルクイーン (株サカタのタネ)
 - (28) サンチェリーピュア (トキタ種苗株)
 - (29) ラブリー藍 (みかど協和株)
 - (30) アイコ(株サカタのタネ)
 - (31) イエローアイコ(株サカタのタネ)
 - (32) メグちゃん
 - (33) リトルジェムダブル (朝日工業株)
- (4) 調査項目 生育、収量、糖度

3 結果の概要

- (1) 生育

収穫時の草丈が最も高かった品種は「キャロル 10」で 285.2 cm、最も低かった品種は「リトルジェムダブル」231.4 cmであった。葉数からも分かるように「キャロル 10」は節間が長く、「リトルジェムダブル」は節間が短い草姿であった。
- (2) 収量

10a 当たり換算収量は「リトルジェムダブル」が 7.2t で突出しており、その他品種は 5t 前後の収量であった。また、上物率についても「リトルジェムダブル」が最も良い成績であった。

以上より「リトルジェムダブル」が収量、上物率ともに良い成績であった。

表 1 生育調査

品種名	項目 草丈 (cm)	葉数 (枚)	第 1 花房 の節位	茎の太さ (mm)	葉長 (cm)
キャロル10	29.3	8.2	8.2	6.9	24.9
	285.2	27.3	-	1.0	47.8
SC7-040	29.4	8.0	8.0	6.9	27.8
	269.5	30.7	-	1.1	47.2
キャロルクイーン	30.4	8.3	8.8	6.3	24.3
	251.8	30.4	-	1.0	44.0
サンチェリーピュア	28.3	8.8	8.3	6.9	25.3
	251.3	30.9	-	1.0	41.6
ラブリー藍	28.4	8.9	8.5	6.3	28.6
	249.3	28.9	-	1.0	44.9
アイコ	30.7	8.1	8.0	6.9	28.3
	254.2	26.5	-	1.0	51.2
イエローアイコ	39.2	9.1	8.5	6.4	29.7
	268.7	30.3	-	1.0	56.4
メグちゃん	32.2	8.6	8.8	6.3	28.7
	250.9	28.2	-	1.0	60.6
リトルジェムダブル	30.0	8.9	8.8	7.0	25.5
	231.4	30.7	-	1.0	44.1

上段 2/10 (定植時) 下段 4/14 (収穫時) 調査

表2 収量調査 (5株当たり)

品種名	2 L		L		M		S		2S	
	(g)	個数								
キャロル10	22	1	900	54	3,415	278	6,080	681	1,081	250
SC7-040	44	2	2,821	168	5,067	402	4,401	481	436	72
キャロルクイーン	414	18	4,168	242	5,111	399	2,807	303	245	38
サンチェリービューア	156	7	2,716	163	5,919	466	3,953	403	189	31
ラブリー藍	0	0	4,125	246	6,434	496	1,712	172	28	5
アイコ	1,964	85	6,653	378	3,313	242	719	67	59	7
イエローアイコ	3,424	143	6,852	385	3,147	242	1,360	144	198	33
メグちゃん	0	0	1,021	67	5,482	440	4,039	406	107	20
リトルジェムダブル	464	21	6,956	409	9,302	710	1,755	180	25	4

表2 続き

品種名	上物合計		下物		合計		平均 1果重(g)	重量上 物率 (%)	10a換算 収量 (t)
	(g)	個数	(g)	個数	(g)	個数			
キャロル10	11,498	1,264	1,463	166	12,961	1,430	9.1	89%	4.7
SC7-040	12,769	1,125	1,181	121	13,950	1,246	11.2	92%	5.0
キャロルクイーン	12,745	1,000	1,423	126	14,168	1,126	12.6	90%	5.1
サンチェリービューア	12,933	1,070	1,357	123	14,290	1,193	12.0	91%	5.1
ラブリー藍	12,299	919	1,183	99	13,482	1,018	13.2	91%	4.9
アイコ	12,708	779	1,764	113	14,472	892	16.2	88%	5.2
イエローアイコ	14,981	947	1,143	95	16,124	1,042	15.5	93%	5.8
メグちゃん	10,649	933	1,062	102	11,711	1,035	11.3	91%	4.2
リトルジェムダブル	18,502	1,324	1,441	109	19,943	1,433	13.9	93%	7.2

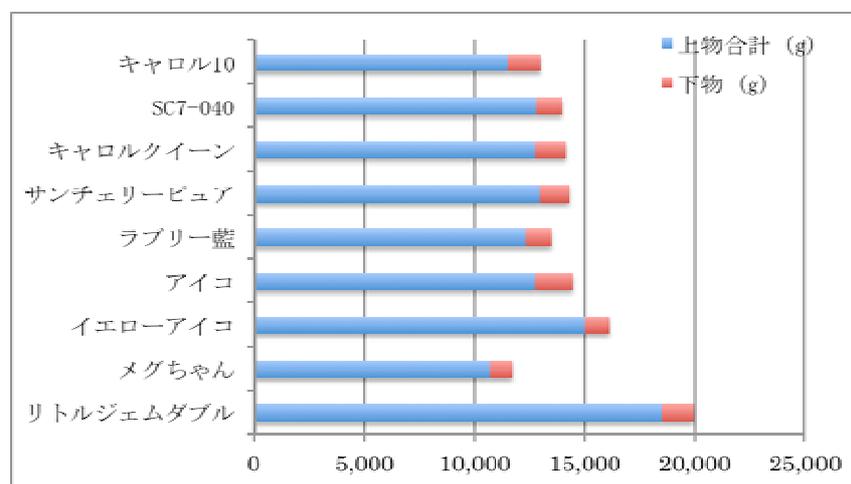


図1 上物、下物別収量 (5株当り)

調査名：ミニトマトの夏秋栽培における品種比較調査（平成 19 年度～平成 24 年度）

1 目的 当地域におけるミニトマトの夏秋栽培について、有望品種の選定のため、品種比較し、栽培上の資料とする。

2 調査方法

- (1) 調査場所 ガラス温室 5 号（165 m²：約 50 坪）
- (2) 耕種概要
- 1) 栽培方法 養液土耕栽培
 - 2) は種月日 平成 22 年 2 月 22 日
 - 3) 移植月日 平成 22 年 3 月 12 日（12 cmポット）
 - 4) 定植年月日 平成 22 年 4 月 6 日
 - 5) 育苗日数 43 日
 - 6) 栽植距離 ベッド幅 120 cm、株間 40 cm、2 条植え 320 株/棟
 - 7) 施肥量 (kg/a) N-P-K=3.12 - 2.67 - 5.48（土壌分析結果による施肥量）
 - 8) 使用資材 (kg/a) バーク堆肥：303kg、ハイプロN：37.6 L、大塚養液土耕 5 号（～収穫前）2 号（収穫開始～）
- 9) 着果方法 ホルモン処理（トマトトーンを火曜日・金曜日に処理）
倍率：50 倍（20 未満）、100 倍（20 以上）
- 10) 収穫期間 平成 22 年 5 月 27 日～10 月 29 日
- 11) 加温期間 平成 22 年 4 月 6 日～6 月 3 日（15 設定）
- 12) 薬剤散布 17 回
ラノーテープ剤を畦毎 1 本、作物の触れない株上の位置に設置。
- 13) 摘心 平成 22 年 9 月 24 日（23 段）
- (3) 調査区の構成 6 区（品種）
- (34) キャロル 10(株)サカタのタネ
 - (35) SC7-040 (株)サカタのタネ
 - (36) ラブリー藍（みかど協和株）
 - (37) キャロルクイーン（株)サカタのタネ
 - (38) サンチェリーピュア（トキタ種苗株）
 - (39) CF 千果（タキイ種苗株）
- (4) 調査項目 生育、収量、糖度

3 結果の概要

- (1) 生育
収穫時の草丈が最も高かった品種は「キャロル 10」で 211.6 cm。最も低かった品種は「CF 千果」で 161.1 cmで約 50 cmの差。葉数は各品種とも同程度で 28 枚前後であった。
- (2) 収量
10a 換算収量は「ラブリー藍」が最も多く 6.3t、次いで「SC7-040」「CF 千果」「キャロルクイーン」がともに 6.0t、また、上物率は「ラブリー藍」が 92%で最も高く、次いで「サンチェリーピュア」「キャロルクイーン」の順であった。
上物収量、率ともに良く、上物個数中の LM 率も 63%であった「ラブリー藍」が有望品種と思われる。
- (3) 糖度
最も高かった品種は「キャロル 10」「SC7-040」で 8.3。次いで、「キャロルクイーン」8.1 の順であった。

表 1 生育調査

品種名	項目	草丈 (cm)	葉数 (枚)	第 1 花房の順位	茎の太さ (cm)	葉長 (cm)
キャロル10		26.5	7.9	7.2	0.6	21.0
		211.6	27.4	-	1.1	49.0
SC7-040		23.7	7.0	6.1	0.6	20.6
		201.6	28.0	-	1.2	47.7
ラブリー藍		22.1	7.0	6.3	0.5	19.9
		188.5	28.0	-	1.1	45.3
キャロルクイーン		24.4	7.3	7.3	0.5	20.0
		199.7	28.0	-	1.0	48.3
サンチェリーピュア		28.3	7.7	7.1	0.5	20.1
		188.3	29.8	-	1.0	42.6
CF千果		28.6	6.8	5.4	0.6	22.7
		161.1	26.9	-	1.0	45.1

表 2 糖度調査

品種名	糖度(Brix)
キャロル10	8.3
SC7-040	8.3
ラブリー藍	6.9
キャロルクイーン	8.1
サンチェリーピュア	6.7
CF千果	7.3

平成 22 年 8 月 18 日調査

上段 4/6（定植時）、下段 5/27（収穫時）調査

表3 収量調査(5株当たり)

品種名	2 L		L		M		S		2S	
	(g)	個数	(g)	個数	(g)	個数	(g)	個数	(g)	個数
キャロル10	22	1	371	22	1,696	139	6,774	796	3,024	498
SC7-040	21	1	1,671	102	4,404	351	6,049	684	1,477	241
ラブリー藍	0	0	4,334	264	7,243	575	4,071	432	384	52
キャロルクイーン	0	0	2,088	128	6,695	528	4,746	523	933	141
サンチェリーピュア	0	0	1,538	94	6,191	494	6,068	669	659	128
CF千果	0	0	1,291	87	5,892	478	5,232	586	1,049	165

表3 続き

品種名	上物合計		下物		合計		平均 1果重(g)	重量上 物率	10a換算収量 (t)	上物個 数に占 めるLM 率
	(g)	個数	(g)	個数	(g)	個数				
キャロル10	11,887	1,456	3,244	490	15,131	1,946	7.8	79%	5.4	11%
SC7-040	13,622	1,379	2,973	360	16,595	1,739	9.5	82%	6.0	33%
ラブリー藍	16,032	1,323	1,409	116	17,441	1,439	12.1	92%	6.3	63%
キャロルクイーン	14,462	1,320	2,148	206	16,610	1,526	10.9	87%	6.0	50%
サンチェリーピュア	14,456	1,385	1,856	188	16,312	1,573	10.4	89%	5.9	42%
CF千果	13,464	1,316	3,291	379	16,755	1,695	9.9	80%	6.0	43%

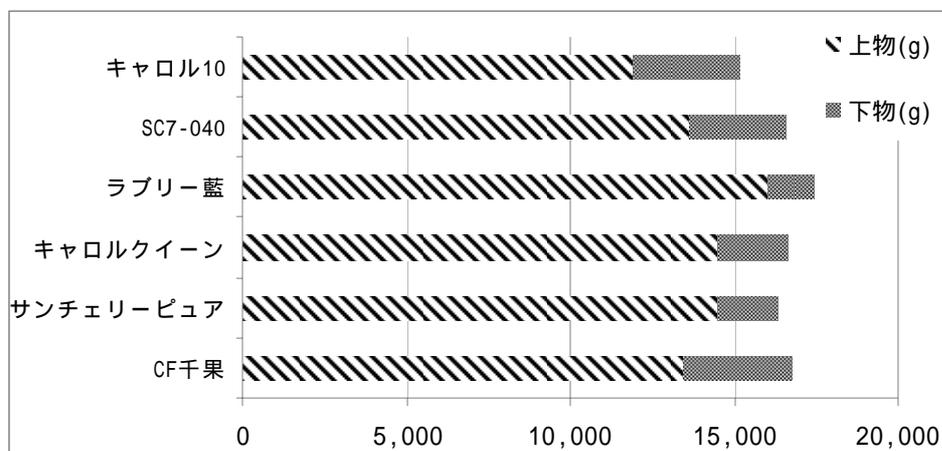


図1 上物、下物別収量(5株当り)

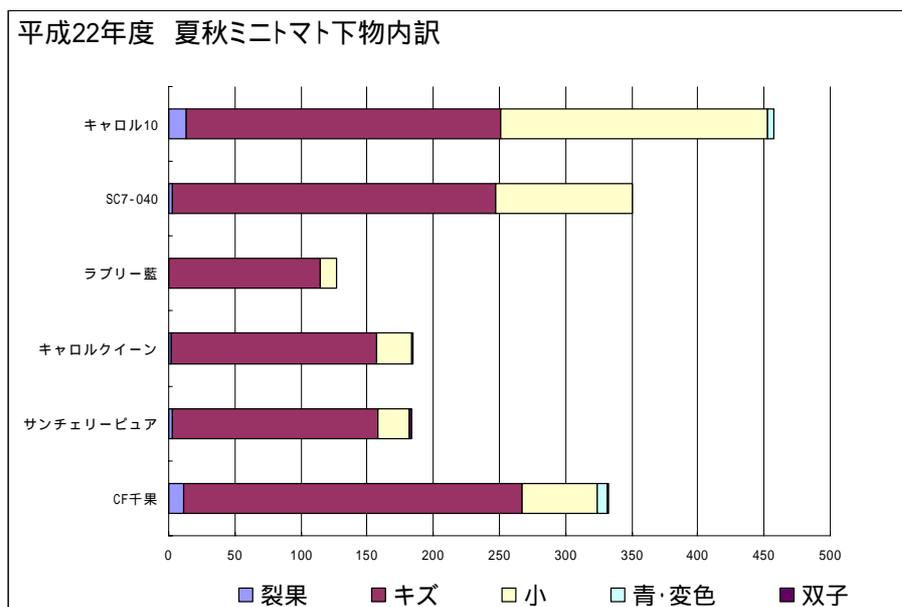


図2 下物の内訳(参考 5株当たり個数)

調査名：ミニトマトの抑制栽培における品種比較調査（平成 14 年度～平成 24 年度）

1 目的 当地域におけるミニトマトの抑制栽培について、有望品種の選定のため、品種比較し、栽培上の資料とする。

2 調査方法

- (1) 調査場所 ガラス温室 6 号（165 m²：約 50 坪）
- (2) 耕種概要
- 1) 栽培方法 養液土耕栽培
 - 2) は種月日 平成 22 年 6 月 11 日
 - 3) 定植年月日 平成 22 年 7 月 8 日
 - 4) 育苗日数 27 日
 - 5) 栽植距離 ベッド幅 120 cm、株間 40 cm、2 条植え 320 株/棟
 - 6) 施肥量 (kg/a) N-P-K=2.09 - 1.98 - 3.64
 - 7) 使用資材 (kg/a) 大塚養液土耕 5 号（～収穫前） 2 号（収穫開始～）
 - 8) 着果方法 ホルモン処理（トマトトーンを火曜日・金曜日に処理）
倍率：50 倍（20 未満）、100 倍（20 以上）
 - 9) 収穫期間 平成 22 年 8 月 24 日～11 月 29 日
 - 10) 加温・保温 内カーテン、温風暖房機（12 設定）10 月 25 日～11 月 29 日
 - 11) 薬剤散布 17 回
ラノーテープ剤を、うね毎に 1 本、作物の触れない株上に設置。
 - 12) 摘心 平成 22 年 9 月 28 日（12 段程度）
- (3) 調査区の構成 8 区（品種）
- | | |
|-----------------------|------------------------|
| (40) キャロル 10(株サカタのタネ) | (44) サンチェリーピュア(トキタ種苗株) |
| (41) SC7-040(株サカタのタネ) | (45) キャロルクイーン(株サカタのタネ) |
| (42) ラブリー藍(みかど協和株) | (46) アイコ(株サカタのタネ) |
| (43) CF 千果(タキイ種苗株) | (47) イエローアイコ(株サカタのタネ) |
- (4) 調査項目 生育、収量、糖度

3 結果の概要

- (1) 生育
収穫時の草丈は「キャロル 10」が最も長く 226.2 cm、低かった品種は「SC7-040」で 201.4 cmであった。
- (2) 収量
10a 換算収量は、「キャロル 10」が最も多く 2.8t、次いで「ラブリー藍」「サンチェリーピュア」の順であった。
上物率については「サンチェリーピュア」95%、「ラブリー藍」93%で非常に良い結果であった。
以上より、「ラブリー藍」が収量も多く、上物率も高い成績となった。
- (3) 糖度
最も高かった品種は「SC7-040」で 7.7、次いで「CF 千果」「キャロルクイーン」が 7.0 であった。

表1 生育調査

品種名	項目	草丈 (cm)	葉数 (枚)	第1花房 の節位	茎の太さ (cm)	葉長 (cm)
キャロル10		83.7	11.9	8.3	0.6	30.3
		226.2	28.0	-	0.8	39.7
SC7-040		68.1	11.5	6.6	0.6	30.5
		201.4	26.2	-	0.8	41.6
ラブリー藍		62.5	12.9	6.7	0.6	29.3
		201.9	27.9	-	0.9	39.8
CF千果		70.2	12.1	6.2	0.6	30.2
		206.0	27.0	-	0.7	40.5
サンチェリーピュア		75.5	12.3	8.8	0.6	29.6
		219.6	29.7	-	0.8	40.3
キャロルクイーン		62.3	12.0	7.9	0.5	30.2
		205.4	27.3	-	0.8	42.3
アイコ		74.8	10.8	6.5	0.6	38.5
		225.3	24.9	-	0.8	50.2
イエローアイコ		67.8	13.3	8.7	0.5	31.8
		207.4	27.2	-	0.6	42.6

上段 7/8 (定植時) 下段 8/24 (収穫時) 調査

表2 糖度調査 平成23年10月17日調査

品種名	糖度 (Brix%)
キャロル10	6.7
SC7-040	7.7
ラブリー藍	6.7
CF千果	7.0
サンチェリーピュア	6.6
キャロルクイーン	7.0
アイコ	6.7
イエローアイコ	6.8

表3 収量調査 (5株当たり)

品種名	2L		L		M		S		2S	
	(g)	個数	(g)	個数	(g)	個数	(g)	個数	(g)	個数
キャロル10	0	0	441	27	1,784	143	2,988	314	1,334	219
SC7-040	0	0	285	19	2,029	163	2,526	282	675	113
ラブリー藍	0	0	1,601	96	4,172	325	1,240	226	222	35
CF千果	21	1	1,313	83	2,408	188	1,726	190	513	85
サンチェリーピュア	86	4	1,296	84	3,218	251	1,894	205	383	64
キャロルクイーン	0	0	15	1	1,986	163	2,321	257	568	92
アイコ	153	7	1,839	107	1,434	111	1,550	178	471	79
イエローアイコ	303	14	1,734	98	1,091	86	1,105	122	314	53

~表3つづき~

品種名	上物合計		下物		合計		平均 1果重(g)	重量上 物率	10a換算収量 (t)
	(g)	個数	(g)	個数	(g)	個数			
キャロル10	6,547	703	1,255	229	7,802	932	8.4	84%	2.8
SC7-040	5,515	577	974	187	6,489	764	8.5	85%	2.3
ラブリー藍	7,235	682	533	58	7,768	740	10.5	93%	2.8
CF千果	5,981	547	856	128	6,837	675	10.1	87%	2.5
サンチェリーピュア	6,877	608	388	56	7,265	664	10.9	95%	2.6
キャロルクイーン	4,890	513	820	121	5,710	634	9.0	86%	2.1
アイコ	5,447	482	623	92	6,070	574	10.6	90%	2.2
イエローアイコ	4,547	373	444	67	4,991	440	11.3	91%	1.8

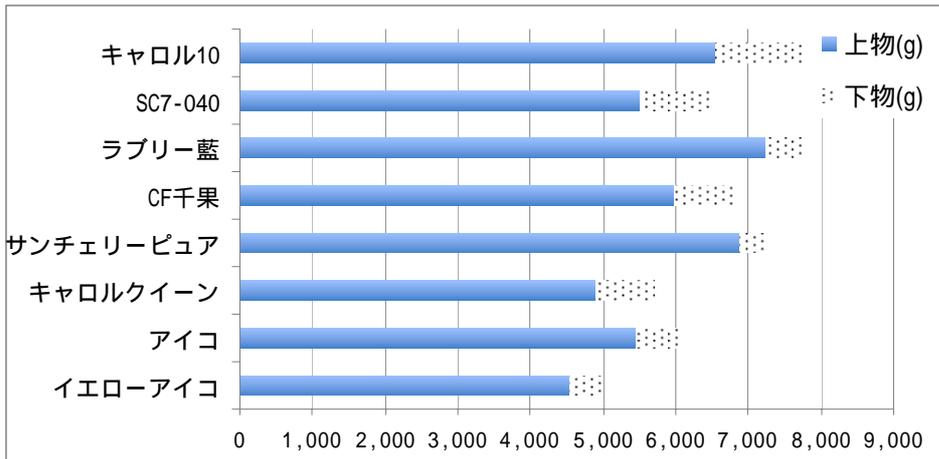


図1 上物、下物別収量(5株当たり)

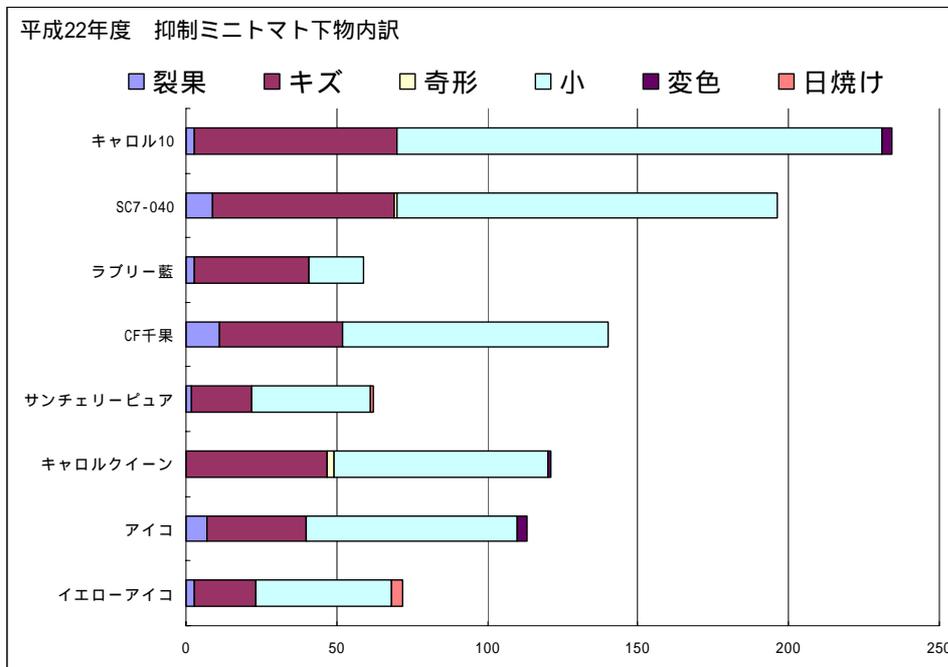


図2 下物の内訳(参考 5株当たり個数)

2 3 調査成績（露地野菜）

露地野菜の部 1-1

調査名：ねぎの品種比較調査（平成 22 年度～平成 24 年度）

- 1 目的 ハウスねぎを組み合わせたねぎの周年栽培を実施し、当地域における周年出荷の可能性及びねぎの適応品種について調査し、栽培上の資料とする。

2 調査方法

- (1) 調査場所 露地ねぎ 新規ほ場
- (2) 耕種概要
- 1) 育苗方法 チェーンポット CP-303（264 穴）2 粒播き
- 2) は種及び定植月日は種 定植
- | | |
|------------------|------------------|
| 平成 21 年 12 月 1 日 | 平成 22 年 4 月 2 日 |
| 平成 22 年 4 月 1 日 | 平成 22 年 5 月 19 日 |
| 平成 22 年 5 月 12 日 | 平成 22 年 6 月 18 日 |
- 3) 栽植距離 うね幅 100 cm、株間 5 cm
- 4) 植付本数 40,000 本/10a
- 5) 施肥量 N-P-K=18-18-18 kg/10a
- 6) 使用資材（基肥）堆肥：2t/10a、
ハイパーCDU555：40 kg/10a
（追肥）ハイパーCDU555：80 kg/10a/2 回
- 7) 収穫月日は種のみ調査
- | |
|------------------|
| 平成 22 年 8 月 10 日 |
| 平成 22 年 9 月 24 日 |
| 平成 22 年 11 月 4 日 |
- 8) 薬剤散布
- | |
|---------------------------------|
| 平成 22 年 6 月 6 日～7 月 21 日(5 回) |
| 平成 22 年 6 月 24 日～9 月 12 日(8 回) |
| 平成 22 年 7 月 6 日～10 月 14 日(10 回) |
- (3) 調査区の構成
- 区制 1 区制・1 区 2.5m
- 供試品種 K-904、K-924、夏扇パワー、みちのく 701、MSI-856、夏扇 2 号、夏扇 4 号、Y0-810、夏秋白扇 5 号、おいらせ 111、SKI-24、W910
- SKI-24、W910 については、5 月 19 日、6 月 18 日は種のみ調査
- (4) 調査項目 生育、収量、品質

3 結果の概要

- (1) 昨年度の結果
- 4/1 定植(8/4 収穫)は「K-904」、5/15 定植(9/24 収穫)は「夏秋白扇 5 号」、6/24 定植(11/4 収穫)は「みちのく 701」が有望と思われる。
- (2) 本年度の結果
- 生育状況については、4 月、5 月の低温・日照不足及び 4 月が小雨傾向となったため、春先の生育は遅れ気味で推移した。また、夏場以降の猛暑による影響は確認されなかった。
- 病害虫については、8 月の高温、乾燥の影響で軟腐病及び萎凋病が散見された。その他、白斑葉枯病、アザミウマ、ネギコガが確認された。
- 収量調査については、作型別で有望と思われる品種は次のとおりであった。
- | | |
|------------------|---------------|
| 4/ 2 定植(8/10 収穫) | ・・・「おいらせ 111」 |
| 5/19 定植(9/24 収穫) | ・・・「夏扇パワー」 |
| 6/18 定植(11/4 収穫) | ・・・「夏秋白扇 5 号」 |
- 品質については、「MSI-856」、「夏扇 2 号」、「みちのく 701」が軟腐病の発生が多かった。また「MSI-856」は首締まりがやや悪く、分けつねぎが多く発生した。「夏秋白扇 5 号」は他の品種に比べ葉が折れやすい傾向があった。
- (3) 次年度以降の計画
- 品種の検討

表1 収量調査

は種 月日	定植 月日	調査 月日	品種	調整後 1本重(q)	全長 (cm)	分枝点 (cm)	軟白長 (cm)	軟白径 (mm)	2L,L率 (%)	A品率 (%)	総収量 (kg/10a)	出荷数 (箱/10a)
12/1	4/2	8/10	K-904	137.8	107.7	40.4	30.0	19.0	84.0	95.0	4,409	695
			K-924	124.1	110.5	39.8	29.9	18.7	73.7	89.9	3,970	681
			夏扇パワー	140.7	107.8	38.6	25.3	20.1	94.0	90.0	4,501	792
			みちのく701	143.5	109.8	38.5	27.8	19.9	93.0	90.0	4,590	754
			MSI-856	137.1	105.7	39.9	25.5	19.9	88.0	92.0	4,388	767
			夏扇2号	138.9	100.7	38.2	26.3	19.6	88.0	94.0	4,446	739
			夏扇4号	145.0	107.6	39.6	26.2	19.9	96.0	97.0	4,640	753
			YO-810	144.6	111.2	39.5	25.5	20.3	96.9	96.9	4,628	781
			夏秋白扇5号	148.3	109.8	39.2	24.8	20.0	94.9	96.0	4,744	764
			おいらせ111	155.2	108.1	38.5	28.9	19.6	95.0	95.0	4,968	728
			K-904	167.9	96.5	36.8	24.8	20.6	90.8	96.9	5,374	814
K-924	162.8	101.6	38.4	21.8	20.1	95.7	98.6	5,209	793			
夏扇パワー	169.3	99.1	39.8	24.4	20.2	90.0	97.1	5,416	793			
みちのく701	160.2	96.6	38.2	22.8	20.3	94.3	91.4	5,125	811			
MSI-856	138.0	101.0	39.9	22.7	19.7	87.1	84.3	4,415	742			
夏扇2号	130.7	88.6	37.0	23.2	19.1	82.9	94.3	4,181	719			
夏扇4号	146.9	99.5	38.2	24.7	20.2	92.9	95.7	4,701	778			
YO-810	135.5	101.8	38.0	22.2	19.4	91.4	90.0	4,335	734			
夏秋白扇5号	168.5	98.3	39.3	24.3	20.5	87.1	100.0	5,393	808			
おいらせ111	151.9	98.4	39.2	23.6	20.0	92.9	91.4	4,859	773			
SKI-24	136.2	96.8	39.9	24.4	18.7	77.1	95.7	4,358	679			
W910	140.6	90.4	36.0	20.0	18.9	80.0	98.6	4,498	700			
4/1	5/19	9/24	K-904	168.2	101.6	39.9	26.8	21.8	96.0	95.0	5,382	902
			K-924	170.2	112.7	42.5	26.3	20.8	94.0	93.0	5,446	828
			夏扇パワー	196.9	105.0	40.1	26.6	22.2	97.0	98.0	6,299	911
			みちのく701	189.9	103.9	38.6	25.1	21.7	97.0	98.0	6,076	900
			MSI-856	153.0	108.1	42.4	25.9	21.7	91.0	97.0	4,897	893
			夏扇2号	168.4	98.5	38.5	28.0	21.9	98.0	96.0	5,390	905
			夏扇4号	170.9	100.6	39.8	25.9	21.9	99.0	90.0	5,468	911
			YO-810	166.1	115.3	42.2	26.7	21.5	99.0	97.0	5,316	886
			夏秋白扇5号	192.2	105.2	40.5	27.3	22.1	99.0	98.0	6,151	925
			おいらせ111	186.2	103.6	39.3	25.6	21.8	99.0	93.0	5,957	907
			SKI-24	166.6	104.9	41.9	27.0	21.3	97.0	100.0	5,330	865
W910	176.2	107.3	38.0	24.3	22.1	95.0	95.0	5,637	934			

収量：40,000本/10a×80%(出荷率)×調整後1本重

表2 規格別割合(%)

収穫日	品種	2L	L	M	S
8/10	K-904	4	80	16	
	K-924	5	69	26	
	夏扇パワー	26	68	6	
	みちのく701	16	77	7	
	MSI-856	22	66	12	
	夏扇2号	14	74	12	
	夏扇4号	14	82	4	
	YO-810	22	75	3	
	夏秋白扇5号	18	77	5	
	おいらせ111	9	86	4	1
	9/24	K-904	34	57	9
K-924		26	70	4	
夏扇パワー		29	61	10	
みちのく701		31	63	6	
MSI-856		16	71	13	
夏扇2号		11	71	17	
夏扇4号		23	70	7	
YO-810		11	80	9	
夏秋白扇5号		34	53	13	
おいらせ111		21	71	7	
SKI-24		3	74	23	
W910	7	73	20		
11/4	K-904	56	40	4	
	K-924	36	58	6	
	夏扇パワー	58	39	3	
	みちのく701	55	42	3	
	MSI-856	56	35	9	
	夏扇2号	56	42	2	
	夏扇4号	57	42	1	
	YO-810	50	49	1	
	夏秋白扇5号	61	38	1	
	おいらせ111	56	43	1	
	SKI-24	45	52	3	
W910	67	28	4	1	

調査名：ねぎの品種比較調査（平成 22 年度～平成 24 年度）

- 1 目的 ハウスねぎを組み合わせたねぎの周年栽培を実施し、当地域における周年出荷の可能性及びねぎの適応品種について調査し、栽培上の資料とする。

2 調査方法

- (1) 調査場所 ハウスねぎ パイプハウス 12号(1a)
- (2) 耕種概要
 1) 育苗方法 プラグポット(220穴)1粒播き
 2) は種月日 平成21年11月2日
 3) 定植月日 平成22年2月10日
 4) 栽植距離 条間30cm、株間3.5cm
 5) 植付本数 5,400本/a
 6) 施肥量 N-P-K=2.24-3.25-2.45kg/a
 7) 使用資材 (基肥)ねぎの輝き:12kg/a
 新ぼかしみらい:15kg/a
 (追肥)大塚養液土耕5号:6.4kg/a/4回
- 8) 収穫月日 平成22年6月28日
 9) 薬剤散布 平成22年4月14日～6月17日(5回)
- (3) 調査区の構成 区制 1区制
 供試品種 K-905、冬扇3号、みちのく701、Y0-810
- (4) 調査項目 生育、収量、品質

3 結果の概要

- (1) 昨年度までの結果
 「みちのく701」が有望と思われる。
- (2) 本年度の結果
 生育状況については、葉鞘の伸長が良かったため、昨年より3週間早い6月下旬の収穫となった。
 病害虫については、ネギコガが散見される程度であった。
 総収量については、「みちのく701」が最も高く、次いで「冬扇3号」となった。
 L,M率についても、「みちのく701」が最も高く、次いで「冬扇3号」となった。
 上物率については、「みちのく701」で抽だいの発生が多かったことから、他の品種に比べて低い結果となった。
 以上の結果、本年度の試験の結果では「冬扇3号」が有望と思われる。
- (3) 次年度以降の計画
 本年度で完了

表1 収量調査

品種		全長 (cm)	分枝点 (cm)	軟白長 (cm)	軟白径 (mm)	調整後 1本重(g)	L,M率 (%)	A品率 (%)	収量 (kg/10a)
K-905	本年	120.0	49.7	43.3	13.8	103.3	61	97	4,463
	昨年	102.7	51.2	39.3	14.6	107.9	72	-	4,660
冬扇3号	本年	121.7	50.1	43.0	13.8	107.9	73	96	4,661
	昨年	103.3	52.0	38.4	13.8	108.0	64	-	4,666
みちのく701	本年	111.6	44.6	40.4	14.0	109.5	75	84	4,731
	昨年	106.8	51.8	40.4	14.9	126.8	92	-	5,476
Y0-810	本年	120.0	46.6	39.9	13.5	96.8	41	90	4,180
	昨年	104.0	48.1	36.4	13.3	96.0	52	-	4,145

収量：54,000本/10a×80%(出荷率)×調整後1本重

表2 規格別割合(%)

品種	L	M	S	2S
K-905	1	60	38	1
冬扇3号		73	26	1
みちのく701	2	73	23	2
Y0-810		41	57	2

露地野菜の部 2

調査名：養液土耕によるピーマンの品種比較調査（平成 22 年度～平成 24 年度）

1 目的 露地栽培において、は種期別の品種比較調査をし、栽培上の資料とする。

2 調査方法

- (1) 調査場所 露地ほ場（連作 9 年目）
- (2) 耕種概要
- 1) 栽培方法 養液土耕栽培
- 2) は種及び定植月日
- | は種 | 定植 |
|------------------|------------------|
| 平成 22 年 2 月 12 日 | 平成 22 年 4 月 30 日 |
| 平成 22 年 3 月 2 日 | 平成 22 年 5 月 19 日 |
| 平成 22 年 3 月 29 日 | 平成 22 年 6 月 7 日 |
- 3) 栽植距離 うね幅 150 cm、株間 50 cm
- 4) 定植株数 1,300 株/10a
- 5) 施肥量(kg/10a) N-P-K=38.4-26.9-44.3
- 6) 使用資材(kg/10a) 堆肥：2t
大塚化学(株)製 養液土耕 5 号（12-20-20）
大塚化学(株)製 養液土耕 1 号（15- 8 -16）
- 7) 収穫期間 平成 22 年 6 月 11 日～10 月 29 日
- 8) 薬剤散布 平成 22 年 5 月 18 日～ 9 月 24 日(13 回)
- (3) 調査区の構成
- | 調査区 | 1 区制・1 区 5 株 |
|------|---------------------------|
| 供試品種 | かがやき (株)南国育種研究農場) |
| | かがやき K (株)南国育種研究農場) |
| | スーパーかがやき (株)南国育種研究農場) |
| | 武蔵(T P × 園大) (株)南国育種研究農場) |
- (4) 調査項目 生育、収量、品質

3 結果の概要

- (1) 昨年度までの結果
作型では、4 月下旬定植が収量が高い傾向がある。品種については、「かがやき」が有望と思われる。
- (2) 本年度の結果
生育状況については、春先の低温及び夏場の猛暑の影響は確認されなかった。発芽揃いは各品種とも良い結果となった。草姿については、「武蔵(T P × 園大)」が他の品種に比べ優っていた。
病害虫については、8 月に斑点細菌病が確認された。その他、タバコガの被害も一部で確認された。
総収量については、平年を上回る結果となった。作型別では 4 月 30 日定植が最も高く、品種別では「武蔵(T P × 園大)」がやや劣る傾向があったが他の品種は同程度であった。
品質については、4 月、5 月と低温で推移したため、収穫開始時は奇形果が多く発生した。上物率は、全ての作型で「武蔵(T P × 園大)」が最も高い結果となった。
果実の形状については、「かがやき」と比較すると「スーパーかがやき」は肩から尻にかけて少し膨らみがあり、「武蔵(T P × 園大)」は縦に長く、果色は濃緑であった。
以上の結果、本年度の試験では 3 月 2 日は種の「スーパーかがやき」が有望と思われる。
- (3) 次年度以降の計画
栽培方法及び品種の検討

表1 生育調査

【定植時】										単位：cm
月日	供用品種	草丈	分枝点長	枝幅	葉の大きさ		葉数		茎の太さ	
					縦径	横径	分枝点下	全部		
4月30日 は種：2月12日	かがやき	28.1	20.0	42.4	21.7	6.4	13.5	17.0	0.86	
	かがやきK	24.4	17.7	43.1	22.1	6.4	13.0	16.1	0.87	
	ｽｰﾊﾟｰ-かがやき	25.8	20.4	42.6	20.8	6.1	14.7	17.9	0.83	
	T P X 園大	28.9	21.7	47.5	24.6	8.2	13.6	17.1	0.91	
5月19日 は種：3月2日	かがやき	24.3	18.5	42.4	21.7	6.5	13.4	16.5	0.81	
	かがやきK	23.0	17.3	42.3	21.7	6.5	13.0	15.5	0.82	
	ｽｰﾊﾟｰ-かがやき	23.1	17.8	41.2	20.7	5.8	13.4	16.5	0.79	
	T P X 園大	27.9	21.6	48.2	23.9	8.4	13.5	16.1	0.92	
6月7日 は種：3月29日	かがやき	25.5	19.4	36.9	19.3	5.3	12.3	14.0	0.71	
	かがやきK	24.7	19.9	33.5	17.1	5.4	12.8	13.3	0.66	
	ｽｰﾊﾟｰ-かがやき	24.0	19.9	31.9	16.0	5.1	13.8	14.4	0.70	
	T P X 園大	23.0	18.5	34.1	16.9	6.2	13.2	13.6	0.68	

【収穫開始時】										単位：cm
月日	供用品種	草丈	分枝点長	枝幅	葉の大きさ		葉数		茎の太さ	
					縦径	横径	分枝点下	全部		
6月11日 は種：2月13日	かがやき	43.1	21.0	52.7	26.6	7.3	13.1	22.0	1.15	
	かがやきK	42.9	18.6	53.8	27.0	7.3	13.3	22.0	1.21	
	ｽｰﾊﾟｰ-かがやき	46.0	20.3	53.2	27.0	6.8	13.3	21.9	1.17	
	T P X 園大	52.2	22.3	59.0	28.6	9.3	13.4	23.3	1.35	

表2 収量調査

年度	は種 月日	定植 月日	収穫 開始日	品種	1株当たり									
					A品 (g)	A品 個数	B品 (g)	B品 個数	収量 (g)	個数 (ヶ)	A品率 (%)	平均1果重 (g)	総収量 (t/10a)	
22	2/12	4/30	6/11	かがやき	5,802	182	2,293	78	8,095	260	70.0	31	10.5	
				かがやきK	5,297	172	2,663	91	7,960	263	65.4	30	10.3	
				ｽｰﾊﾟｰ-かがやき	5,988	189	2,009	58	7,997	247	76.5	32	10.4	
				T P X 園大	5,855	183	1,308	43	7,163	226	81.1	32	9.3	
	3/2	5/19	6/25	かがやき	5,779	185	1,809	61	7,588	246	75.2	31	9.9	
				かがやきK	5,918	183	1,873	60	7,791	242	75.4	32	10.1	
				ｽｰﾊﾟｰ-かがやき	6,419	200	1,457	49	7,876	249	80.5	32	10.2	
				T P X 園大	5,248	169	1,183	38	6,430	207	81.8	31	8.4	
	3/29	6/7	7/5	かがやき	5,433	166	720	23	6,152	189	87.9	33	8.0	
				かがやきK	4,786	153	1,041	33	5,828	186	82.2	31	7.6	
				ｽｰﾊﾟｰ-かがやき	4,357	153	841	27	5,198	180	85.0	29	6.8	
				T P X 園大	4,383	142	546	18	4,929	160	89.0	31	6.4	
平年	2月中旬			かがやき	5,001	164	2,177	82	7,178	246	66.8	29	9.3	
	3月上旬			かがやき	3,352	111	2,171	88	5,523	199	55.7	28	7.2	
	3月下旬			かがやき	3,943	132	1,428	52	5,371	184	71.8	29	7.0	

平年値は、平成18～21年の平均値。

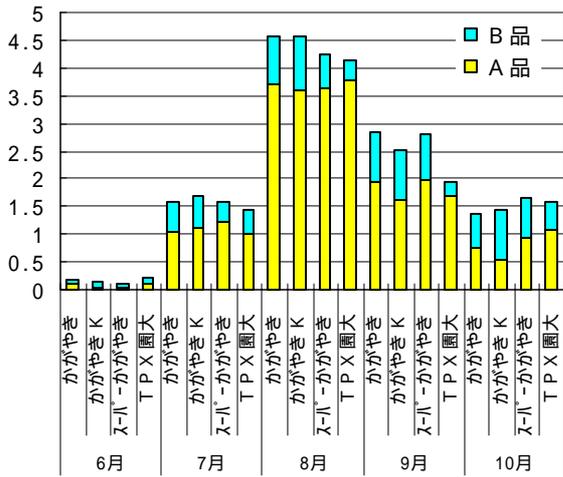


図1 月別収量(は種 2/12 定植 4/30)

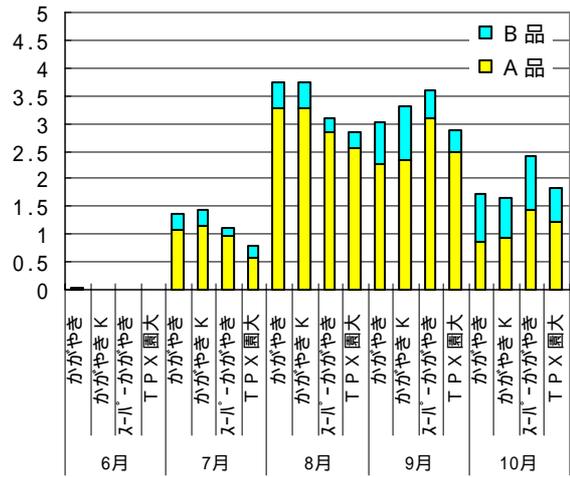


図2 月別収量(は種 3/2 定植 5/19)

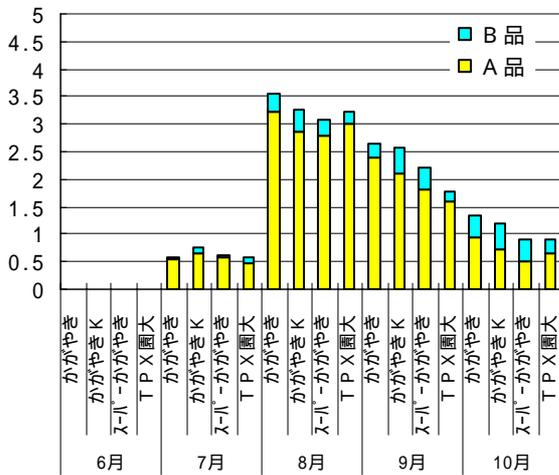


図3 月別収量(は種 3/29 定植 6/7)

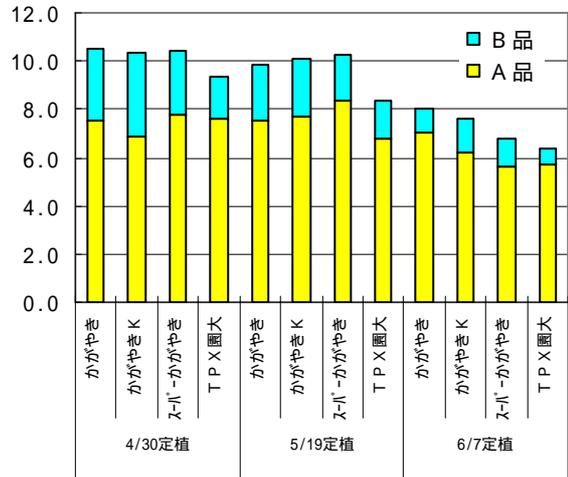


図4 は種期別収量



露地野菜の部 3

調査名：ながいもの追肥省略型肥料における施肥効果の調査（平成22年度～平成24年度）

- 1 目的 追肥時期の遅れによる秀品率低下の解消、追肥作業の省力化を図るため、追肥省略型肥料における品質・収量について調査し、栽培上の資料とする。

2 調査方法

- (1) 調査場所 露地ほ場（連作2年目）
- (2) 耕種概要
- 1) 植付月日 平成22年5月21日
- 2) 栽植距離 うね幅120cm、株間20cm、
- 3) 植付本数 4,000本/10a
- 4) 施肥量 堆肥：2t/10a
- 慣行区
- (基肥) 太平複合新長いも：80kg/10a（12-18-12）
パワーリン：50kg/10a（30%）
- (追肥) くみあい燐靱安加里 S440：60kg/2回/10a（14-4-20）
- 【合計】18-31.8-21.6kg/10a
- 秋のごたえ7(N0.1)
- (基肥) 秋のごたえ7：300kg/10a（10-12-7）
- 【合計】30-36-21kg/10a
- 秋のごたえ7(N0.2)
- (基肥) 秋のごたえ7：230kg/10a（10-12-7）
- 【合計】23-27.6-16.1kg/10a
- ハイパーCDU555 中期
- (基肥) ハイパーCDU555 中期：120kg/10a（15-15-15）
- (追肥) くみあい燐靱安加里 S440：30kg/1回/10a（14-4-20）
- 【合計】22.2-19.2-24kg/10a
- スーパーロング 424-S70
- (基肥) スーパーロング 424-S70：130kg/10a（14-12-14）
- (追肥) くみあい燐靱安加里 S440：30kg/1回/10a（14-4-20）
- 【合計】22.4-16.8-24.2kg/10a
- ハイパーCDU555 長期
- (基肥) ハイパーCDU555 長期：150kg/10a（15-15-15）
- 【合計】22.5-22.5-22.5kg/10a
- 5) 収穫月日 平成22年12月13日
- 6) 薬剤散布 平成22年7月2日～10月14日(8回)
- (3) 調査区の構成 調査区 6区（1品種×肥料：6種類）
供試品種 南部太長（1年子 91g～120g）
- (4) 調査項目 生育、収量、品質

3 結果の概要

(1) 本年度の結果

生育状況については、萌芽揃期は6月18日、親蔓のネット頂到達日は7月8日であった。茎葉は7月以降旺盛となり、過繁茂となった。

病害虫については、葉渋病が確認されたほか、一部でヤマノイモコガ、コガネムシ類による食害が散見された。

総収量については、「スーパーロング区」が最も高い結果となり、上物収量については、「ハイパーCDU長期区」が最も高い結果となった。

規格については、2L、L率の高い区は「秋のごたえ7N0.1区」であった。

品質については、「秋のごたえ7N0.2区」で腐りが多く発生して規格外が多くなった。また「スーパーロング区」では他の調査区に比べコブが多く発生した。

以上の結果、本年度の試験では「ハイパーCDU長期区」が有望と思われる。

ただし、生育ステージや肥料の溶解時期については気象条件に影響されることを考慮し、使用する必要があると思われる。

(2) 次年度以降の計画 継続

表1 収量調査

調査区名	全長 (cm)	全重 (g)	いも長 (cm)	いも重 (g)	いも径 (cm)	A品率 (%)	2L,L率 (%)	多本 下がりの (%)	総収量 (kg/10a)	上物収量 (kg/10a)
慣行	76.1	794.8	56.4	798.2	5.0	78	53.3	13	3,193	2,483
秋のごたえ7NO.1	79.5	931.0	61.4	909.8	5.1	71	68.3	3	3,639	2,574
秋のごたえ7NO.2	75.8	937.9	61.4	935.8	5.3	13	45.8	0	3,743	468
ハイパーCDU中期	79.8	924.7	58.5	896.0	5.2	67	37.8	13	3,584	2,389
スーパーロング	79.2	993.9	61.2	966.3	5.5	50	39.1	13	3,865	1,933
ハイパーCDU長期	71.2	813.8	55.6	794.2	5.0	87	46.7	15	3,177	2,763

表2 規格別割合(%)

調査区名	4L	3L	2L	L	M	S	2S	規格外
慣行	4.4	15.6	37.8	15.6	11.1	8.9	4.4	2.2
秋のごたえ7NO.1	4.9	24.4	39.0	29.3	2.4	0.0	0.0	0.0
秋のごたえ7NO.2	16.7	25.0	16.7	29.2	4.2	8.3	0.0	0.0
ハイパーCDU中期	15.6	26.7	24.4	13.3	6.7	4.4	4.4	4.4
スーパーロング	21.7	23.9	26.1	13.0	6.5	8.7	0.0	0.0
ハイパーCDU長期	6.7	17.8	33.3	13.3	11.1	4.4	8.9	4.4

表3 品質割合(%)

調査区名	A	A平	B	C	D	D平	規格外
慣行	77.8	0.0	11.1	8.9	2.2	0.0	0.0
秋のごたえ7NO.1	70.7	0.0	24.4	0.0	0.0	0.0	4.9
秋のごたえ7NO.2	12.5	0.0	8.3	0.0	0.0	0.0	79.2
ハイパーCDU中期	66.7	0.0	11.1	13.3	0.0	2.2	6.7
スーパーロング	50.0	2.2	28.3	6.5	8.7	0.0	4.3
ハイパーCDU長期	87.0	2.2	6.5	4.3	0.0	0.0	0.0



慣行



秋のてごたえ 7 NO.1



秋のてごたえ 7 NO.2



ハイパーCDU中期



スーパーロング



ハイパーCDU長期

露地野菜の部 4

調査名：ながいも年子の違いによる内部品質調査（平成 21 年度～平成 23 年度）

1 目的 種いもの種類（1 年子、2 年子）別による、成いも内部品質について調査し、栽培上の資料とする。

2 調査方法

- (1) 調査場所 露地ほ場（連作 2 年目）
- (2) 耕種概要
- | | |
|---------|---|
| 1) 植付月日 | 平成 22 年 5 月 21 日 |
| 2) 栽植距離 | うね幅 120 cm、株間 15 cm、 |
| 3) 植付本数 | 5,333 本/10a |
| 4) 施肥量 | 堆肥：2t/10a
（基肥）太平複合新長いも：80 kg/10a（12-18-12）
パワーリン：50 kg/10a（30%）
（追肥）くみあい燐硝安加里 S440：60 kg/2 回/10a（14-4-20）
【合計】18-31.8-21.6 kg/10a |
| 5) 収穫月日 | 平成 22 年 12 月 13 日 |
| 6) 薬剤散布 | 平成 22 年 7 月 2 日～10 月 14 日(8 回) |
- (3) 調査区の構成
- | | |
|------|----------------------|
| 調査区 | 1 区制・1 区 7.5～12m |
| 供試品種 | 遠藤系 1 年子
遠藤系 2 年子 |
- (4) 調査項目 生育、収量、品質

3 結果の概要

- (1) 昨年度の結果
総収量、品質ともに 2 年子が良い結果となった。糖度、乾物率については判然としなかった。
- (1) 本年度の結果
生育状況については、萌芽揃期は 6 月 18 日、親蔓のネット頂到達日は 7 月 8 日であった。茎葉は 7 月以降旺盛となり、過繁茂となった。
病害虫については、葉渋病が確認されたほか、一部でヤマノイモコガ、コガネムシ類による食害が散見された。
総収量、上物収量については、「2 年子」が高い結果となった。
品質については、「1 年子」で平いも及びコブの発生が多くなった。
内部成分については、糖度、粘度は同程度であったが、乾物率は「2 年子」が高めであった。また部位別で比較すると、「1 年子」、「2 年子」とともに尻部の糖度、乾物率は首部、胴部よりも高い値となった。
- (2) 次年度以降の計画
終了

表1 収量調査

年度	年子	種いも (g)	株間 (cm)	全長 (cm)	全重 (g)	いも長 (cm)	いも重 (g)	いも径 (cm)	A品率 (%)	2L,L率 (%)	多本 下がり (%)	総収量 (kg/10a)
本年	1年子	100.0	15	72.9	836.4	56.3	818.3	4.9	58.3	33.3	23.3	4,364
	2年子	100.0	15	76.3	866.7	59.4	851.1	5.0	72.2	61.1	20.0	4,539
前年	1年子	100.0	15	63.3	919.6	45.9	893.0	-	27.3	45.5	10.0	4,762
	2年子	100.0	15	65.2	931.3	49.7	907.6	-	33.3	38.1	5.0	4,840

マルチ：無 ネット：角目

表2 成分分析

年度	年子	糖度(Brix)	粘度(Pa·S)	乾物率(%)
本年	1年子	4.8	4.1	16.6
	2年子	4.5	4.5	17.9
前年	1年子	4.9	-	19.6
	2年子	5.0	-	18.2

粘度、糖度は電動スライサーですりおろし、60分静置後測定。

乾物重は、ドライオープンで60・48時間処理後測定。



【1年子】



【2年子】

露地野菜の部 5

調査名：ながいもの品種比較調査（平成 18 年度～平成 22 年度）

- 1 目的 当地域で栽培されているながいもの品種・系統について比較調査をし、栽培上の資料とする。

2 調査方法

- (1) 調査場所 露地ほ場（連作 2 年目）
- (2) 耕種概要
- | | |
|---------|--|
| 1) 植付月日 | 平成 22 年 5 月 21 日 |
| 2) 栽植距離 | うね幅 120 cm、株間 15、20、24 cm |
| 3) 植付本数 | 3,333 本、4,000 本、5,333 本/10a |
| 4) 施肥量 | 堆肥：2t/10a
(基肥) 太平複合新長いも：80 kg/10a (12-18-12)
パワーリン：50 kg/10a (30%)
(追肥) くみあい燐硝安加里 S440：60 kg/2 回/10a (14-4-20)
【合計】18-31.8-21.6 kg/10a |
| 5) 収穫月日 | 平成 22 年 12 月 13 日 |
| 6) 薬剤散布 | 平成 22 年 7 月 2 日～10 月 14 日(8 回) |
- (3) 調査区の構成
- | | |
|------|--|
| 調査区 | 1 区制・1 区 7.5～12m |
| 供試品種 | 遠藤系 (1 年子 91g～120g)
庄司系 (1 年子 91g～120g)
園試系 6 (切いも 80g～100g)
あおり短八 (切いも 80g～100g) |
- (4) 調査項目 生育、収量、品質

3 結果の概要

- (1) 昨年度の結果
「遠藤系」が良い結果となったが、年度によりバラツキがある。
- (2) 本年度の結果
生育状況については、萌芽揃期は 6 月 18 日、親蔓のネット頂到達日は 7 月 8 日であった。茎葉は 7 月以降旺盛となり、過繁茂となった。
病害虫については、葉渋病が確認されたほか、一部でヤマノイモコガ、コガネムシ類による食害が散見された。
総収量については、「園試系 6」の株間 20 cm 区が最も高い結果となり、上物収量については、「あおり短八」の株間 20 cm 区が最も高い結果となった。
品質については、「園試系 6」で平いもの割合が高くなり、「あおり短八」の株間 24 cm 区では尻部のコブ及びびリングが他の品種に比べ多く発生した。
また、「園試系 6」と「あおり短八」の糖度、粘度、乾物率を調べた結果、粘度は「あおり短八」が高めであったが、その他は同程度であった。
- (3) 次年度以降の計画
継続

表1 収量調査

年度	品種	株間 (cm)	全長 (cm)	全重 (g)	いも長 (cm)	いも重 (g)	いも径 (cm)	A品率 (%)	2L,L率 (%)	多本 下がり (%)	総収量 (kg/10a)	上物収量 (kg/10a)
本年	遠藤系	15	75.4	790.3	59.3	765.1	4.4	50.0	52.9	15.0	4,081	2,040
		20	79.8	878.9	60.9	866.1	4.8	61.1	52.8	12.5	3,464	2,117
		24	84.9	1022.8	63.2	995.9	5.5	81.3	46.9	12.5	3,319	2,697
	庄司系	15	64.3	538.1	43.0	513.2	4.6	87.1	29.0	0.0	2,737	2,384
		20	80.8	1157.9	63.8	1137.3	5.7	60.6	27.3	10.0	4,549	2,757
		24	78.9	1007.6	59.0	973.5	5.3	67.6	20.6	13.3	3,245	2,195
	園試系6	15	79.8	1199.3	65.4	1175.5	5.8	52.4	26.2	5.0	6,269	3,284
		20	85.3	1598.0	70.2	1574.6	6.8	43.9	9.8	2.5	6,299	2,765
		24	85.0	1625.0	70.3	1607.1	6.3	38.1	14.3	7.5	5,357	2,041
	あおもり短八	15	72.6	1035.0	58.1	1011.3	5.5	62.5	6.3	2.5	5,393	3,371
		20	85.3	1466.0	68.9	1442.0	6.3	66.7	6.7	0.0	5,768	3,845
		24	79.3	1338.0	63.6	1309.0	6.1	30.0	10.0	12.5	4,363	1,309
前年	遠藤系	15	68.0	996.2	47.8	966.4	-	80.0	35.0	0.0	5,154	4,123
		20	70.0	1209.9	50.9	1178.5	-	81.0	14.3	4.8	4,714	3,816
		24	71.6	1291.1	51.6	1277.2	-	75.0	10.0	0.0	4,257	3,193
	園試系6	15	66.2	1024.3	46.8	998.9	-	50.0	40.0	0.0	3,329	1,665
		20	66.3	1042.8	47.1	1007.5	-	25.0	50.0	0.0	3,358	839
		24	69.4	1152.8	50.7	1114.0	-	55.0	20.0	0.0	3,713	2,042

マルチ：無 ネット：角目

表2 成分分析

品種名	糖度(Brix)	粘度(Pa・S)	乾物率(%)
園試系6	4.5	3.9	16.6
あおもり短八	4.4	5.0	16.2

粘度、糖度は電動スライサーですりおろし、60分静置後測定。

乾物重は、ドライオープンで60・48時間処理後測定。

表3 規格別割合(%)

品種	株間	4L	3L	2L	L	M	S	2S	規格外
遠藤系	15	8.8	8.8	38.2	14.7	2.9	11.8	2.9	11.8
	20	11.1	16.7	41.7	11.1	5.6	5.6	8.3	0.0
	24	21.9	25.0	31.3	15.6	3.1	3.1	0.0	0.0
庄司系	15	0.0	0.0	3.2	25.8	22.6	38.7	3.2	6.5
	20	45.5	21.2	12.1	15.2	6.1	0.0	0.0	0.0
	24	41.2	5.9	17.6	2.9	14.7	11.8	5.9	0.0
園試系6	15	54.8	9.5	16.7	9.5	4.8	4.8	0.0	0.0
	20	70.7	17.1	9.8	0.0	0.0	2.4	0.0	0.0
	24	78.6	4.8	9.5	4.8	0.0	0.0	0.0	2.4
あおもり短八	15	43.8	12.5	0.0	6.3	6.3	18.8	6.3	6.3
	20	66.7	26.7	0.0	6.7	0.0	0.0	0.0	0.0
	24	70.0	0.0	10.0	0.0	0.0	10.0	0.0	10.0

表4 品質割合(%)

品種	株間	A	B	C	D	A平	B平	D平	規格外
遠藤系	15	50.0	11.8	23.5	11.8	0.0	0.0	0.0	2.9
	20	61.1	11.1	19.4	0.0	0.0	2.8	5.6	0.0
	24	81.3	6.3	12.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
庄司系	15	87.1	12.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	20	60.6	21.2	6.1	0.0	0.0	0.0	12.1	0.0
	24	67.6	17.6	8.8	0.0	2.9	2.9	0.0	0.0
園試系6	15	52.4	14.3	11.9	11.9	2.4	2.4	4.8	0.0
	20	43.9	19.5	2.4	0.0	7.3	14.6	12.2	0.0
	24	38.1	11.9	4.8	4.8	16.7	4.8	19.0	0.0
あおもり短八	15	62.5	0.0	25.0	12.5	0.0	0.0	0.0	0.0
	20	66.7	20.0	13.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	24	30.0	20.0	20.0	30.0	0.0	0.0	0.0	0.0



【遠藤系 株間 15 cm】



【遠藤系 株間 20 cm】



【遠藤系 株間 24 cm】



【庄司系 株間 15 cm】



【庄司系 株間 20 cm】



【庄司系 株間 24 cm】



【園試系 6 株間 15 cm】



【園試系 6 株間 20 cm】



【園試系 6 株間 24 cm】



【あおもり短八 株間 15 cm】



【あおもり短八 株間 20 cm】



【あおもり短八 株間 24 cm】

露地野菜の部 6

調査名：にんにくの品種・種子重量別調査（平成 18 年度～平成 22 年度）

- 1 目的 当地域におけるにんにくの適応品種及び種子重量別収量について調査し、栽培上の資料とする。

2 調査方法

- (1) 調査場所 露地ほ場（連作 5 年目）
- (2) 耕種概要
- 1) 栽培方法 マルチ栽培（コーターコンビ・グリーン）
 - 2) 定植年月日 平成 21 年 10 月 19 日
 - 3) 栽植距離 うね幅 150 cm、株間 17 cm、条間 25 cm、4 条植え
 - 4) 植付本数 14,500 片/10a
 - 5) 施肥量(kg/10a) N-P-K=25-25-18
 - 6) 使用資材(kg/10a) 堆肥：2t、サイトニンエース Z：90 kg
（基肥）熟畑大玉にんにく：180 kg（14-14-10）
 - 7) 収穫月日 平成 22 年 6 月 29 日
 - 8) 薬剤散布 平成 22 年 3 月 4 日～6 月 24 日（7 回）
- (3) 調査区の構成
- | | |
|------|---|
| 調査区 | 1 区制・1 区 4.25m |
| 供試品種 | 福地ホワイト（八戸産）
福地ホワイト（田子産）
エム・ジー・エス（住友化学）
エム・ジー・エス（バイオ由来） |
| 種子重量 | 小(8.0g～12.0g) 中(12.1g～16.0g) 大(16.1g～) |
- (4) 調査項目 生育、収量、品質、病害虫

3 結果の概要

- (1) 昨年度までの結果
品種では、「エム・ジー・エス（バイオ由来）」の収量が高く、種子重量別では、種子重量に比例して収量が高くなる傾向がある。

本年度の結果

- (2) 生育状況については、4 月、5 月の低温・日照不足及び 4 月が小雨傾向で推移したため、生育が遅れ小玉傾向となった。また、種子重量が大きくなるに従い、福地ホワイト（八戸産）を除いて 2 芽及び欠株の発生率が高くなった。
病害虫については、春腐病、白斑葉枯病が散見された。
総収量については、平年を下回る結果となった。品種別では「エム・ジー・エス（住友化学）」、「エム・ジー・エス（住友化学）」が高い結果となり、種子重量別では「福地ホワイト（八戸産）」を除く全ての品種で、種子重量が大きくなるに従い総収量は高くなった。
上物収量については、「エム・ジー・エス（バイオ由来）」の中が最も高く、次いで「エム・ジー・エス（住友化学）」の大となった。
平成 18 年～平成 22 年の平年値の結果から、品種については、「エム・ジー・エス（バイオ由来）」が当地方におけるにんにく栽培においては有望と思われる。

- (3) 次年度以降の計画
栽植距離別収量・品質調査

表1 生育調査

	福地杓付(八戸産)			福地杓付(田子産)			I.A.ジーンズ(住友化学)			I.A.ジーンズ(八戸由来)		
	小	中	大	小	中	大	小	中	大	小	中	大
2芽率(%)	5.3	20.0	61.1	11.2	16.8	41.7	1.1	8.4	21.3	0.2	2.3	10.7
欠株率(%)	3.5	2.5	2.8	4.2	1.9	11.1	3.3	2.8	8.1	2.4	2.4	5.6

表2 収量調査

年度	品種名	種子重 種類	球径 (cm)	球重 (g)	片数	上物率 (%)	2L,L率 (%)	総収量 (kg/10a)	上物収量 (kg/10a)
22	福地杓付 (八戸産)	小	5.9	74.9	5.5	83.0	97.0	1,086.3	901.7
		中	6.2	87.2	5.8	84.0	70.0	1,264.7	1,062.3
		大	6.1	78.8	5.3	73.3	56.7	1,143.1	838.3
	福地杓付 (田子産)	小	6.0	75.3	5.6	69.0	60.0	1,091.9	753.4
		中	6.2	79.6	5.9	80.0	68.0	1,154.2	923.4
		大	6.5	89.8	6.1	66.7	83.3	1,302.1	868.1
	I.A.ジーンズ (住友化学)	小	6.1	81.4	6.0	75.6	62.2	1,180.7	892.1
		中	6.4	94.6	5.6	75.0	80.0	1,371.3	1,028.4
		大	6.7	105.8	5.8	74.5	85.5	1,533.8	1,143.4
	I.A.ジーンズ (八戸由来)	小	6.3	87.2	5.8	73.0	77.0	1,264.1	922.8
		中	6.5	96.2	5.5	85.0	87.0	1,395.2	1,185.9
		大	6.6	99.2	6.4	73.0	88.0	1,437.8	1,049.6
平年	福地杓付 (八戸産)	小	6.2	92.0	5.6	-	62.5	1,344.1	-
		中	6.7	108.3	5.8	-	81.7	1,582.0	-
		大	6.8	114.8	6.0	-	71.2	1,677.7	-
	福地杓付 (田子産)	小	6.2	85.7	5.8	-	60.4	1,252.1	-
		中	6.5	102.7	5.8	-	82.1	1,501.7	-
		大	6.9	118.2	6.1	-	91.6	1,728.0	-
	I.A.ジーンズ (住友化学)	小	6.8	115.2	5.7	-	77.1	1,687.0	-
		中	7.3	138.2	5.6	-	95.8	2,023.1	-
		大	7.3	139.6	5.7	-	95.8	2,044.5	-
	I.A.ジーンズ (八戸由来)	小	6.7	114.2	3.9	-	87.1	1,673.0	-
		中	7.4	144.0	5.9	-	97.9	2,106.2	-
		大	7.4	151.5	6.3	-	97.5	2,215.5	-

平年値は、平成18～21年の平均値
調査については、乾燥完了後に実施

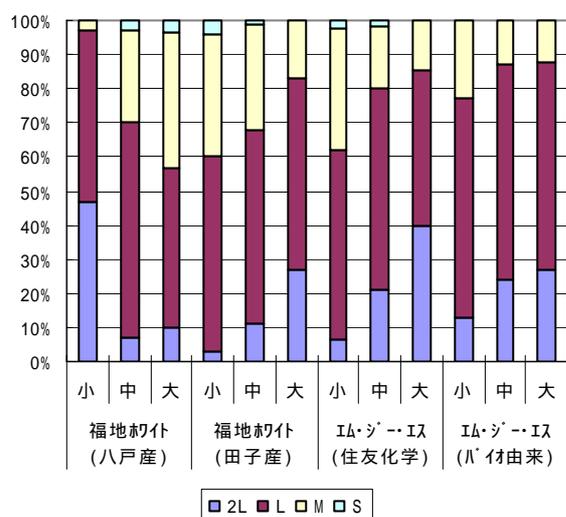


図1 規格別割合

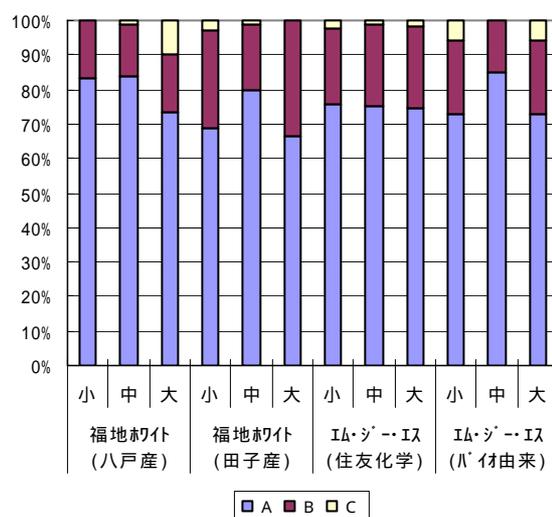


図2 品質割

2 4 調査成績（花き）

花きの部 1

調査名：エラータム系デルフィニウムの周年栽培調査（平成 22 年度～平成 23 年度）

- 1 目的 当地域におけるエラータム系品種の特性を把握するため、据え置き栽培について調査し、栽培上の資料とする。

2 調査方法

- (1) 調査場所 パイプハウス 9 号 (99 m²)
- (2) 耕種概要
- 1) 栽培方法 土耕栽培
 - 2) は種年月日 平成 22 年 2 月 22 日
 - 3) 定植年月日 平成 22 年 4 月 19 日
 - 4) 栽植距離 ベッド幅 80 cm、株間 20 cm、条間 20cm、4 条植え
 - 5) 定植株数 1,080 本/棟
 - 6) 施肥量 (kg/a) N-P-K=1.0-0.4-7.6
 - 7) 使用資材 (kg/a) バーク堆肥：100、トリオ有機 S048：10、珪酸加里：34、ハイクド 40：8
20cm×4 目フラワーネット、ケイントップ(有機質資材)：20
- 8) 遮光期間 平成 22 年 8 月 2 日～9 月 13 日
メガクール(遮光フィルム)をハウス内に展開
- 9) 収穫期間 一番花：平成 22 年 6 月 29 日～7 月 21 日
二番花：平成 22 年 8 月 5 日～11 月 30 日
- 10) 農薬散布 9 回 (平成 22 年 5 月 31 日～10 月 13 日)

(3) 調査区の構成

- 1) 調査区 5 区 (1 品種 1 区制 10 株)
- 2) 供試品種 5 品種

No.	品種名	花色	会社名
1	ブルースピアー	青	青森県
2	マジックフォンテンブルーインプ	青	(株)ミヨシ
3	パシフィックジャイアントブルーバード	青	福花園種苗(株)
4	オーロラブルーインプ	青	タキイ種苗(株)
5	青フラDel交4号	青	青森県

全て種子系

- (4) 調査項目 生育、開花、切花

3 結果の概要

(1) 生育

病害については灰色かび病が散見されたが、収穫物への影響は少なかった。また、害虫については、ヨトウムシ及びオオタバコガによる葉や花芽の食害が散見された。

夏期の株枯れ(表 1)については、6 月後半から 9 月前半にかけての高温の影響があったが、最も生存率の低い「パシフィックジャイアントブルーバード」で 88.1%であり、その他の品種も 91%以上の生存率となった。これは、遮光資材の使用により植物体の負荷が軽減されたためと思われる。

二番花における月別の採花本数(表 6)は、「青フラ Del 交 4 号」が 45 本と最も多く、「ブルースピアー」が同程度であった。その他の品種は 20 本台で「青フラ Del 交 4 号」の 5 割前後の本数となった。商品化率は、「オーロラブルーインプ」が 96%と最も高く、次いで「マジックフォンテンブルーインプ」「青フラ Del 交 4 号」が 90%前後、最も低いのは「ブルースピアー」で 75%となった。規格外の原因として、高温の影響による花飛びが 8～9 月に、また、茎が節で曲がる現象は 9～10 月で多発した。切花長が 60cm に満たないものは、採花できた月のうち終盤の 1～2 ヶ月に多く見受けられた。

(2) 開花 (表 2)

一番花における採花のうち、採花日は「オーロラブルーインプ」が 6/29 から、「ブルースピアー」が 7/13 から、その他の品種は 7/6 から始まった。盛期は「オーロラブルーインプ」が 7/6 となり最も早かった。次いで「マジックフォンテンブルーイン

ブ」「パシフィックジャイアントブルーバード」は7/6～7/13となった。「青フラ Del 交4号」は7/13、「ブルースピアー」が7/21、その他の品種は7/6となった。

二番花における採花は、「マジックフォンテンブルーインプ」が採花日で8/5、盛期で8/10～8/19と共に最も早かった。その他の品種は8月中旬に採花が始まり、盛期の始まりは「パシフィックジャイアントブルーバード」が8/19、「ブルースピアー」「青フラ Del 交4号」が8/31、「オーロラブルーインプ」が9/9となり、9月中旬まで続いた。

(3) 切花品質

一番花(表3)は、切花長において、全ての品種で1mを大きく超え、「ブルースピアー」は200cmを超え最も長く、「マジックフォンテンブルーインプ」は約140cmと最も短くなった。花穂長が切花長に占める割合(表5)は約6割となり、「オーロラブルーインプ」が約67%で最も大きかった。

二番花(表4)は、切花長において、「パシフィックジャイアントブルーバード」が約110cm、次いで「オーロラブルーインプ」「青フラ Del 交4号」は約100cm、「ブルースピアー」は約95cm、「マジックフォンテンブルーインプ」は約85cmとなった。花穂長が切花長に占める割合(表5)は約4～5割で一番花に比べ小さくなり、「オーロラブルーインプ」が約57%で最も大きかった。

小花の間隔については、二番花が一番花よりやや長くなる傾向となり、最も間隔が短いのは「マジックフォンテンブルーインプ」、最も長いのは「オーロラブルーインプ」であった。

以上の結果、二番花の採花本数及び商品化率から「青フラ Del 交4号」「ブルースピアー」が有望と思われる。

表1 二番花採花後の生存率

品 種 名	生存率 (%)
ブルースピアー	91.1
マジックフォンテンブルーインプ	88.1
パシフィックジャイアントブルーバード	93.1
オーロラブルーインプ	98.5
青フラDel交4号	98.0

表2 一番花及び二番花における開花期

品 種 名	一番花		二番花	
	採花日	盛期	採花日	盛期
ブルースピアー	7/13～7/21	7/21	8/12～11/16	8/31～9/14
マジックフォンテンブルーインプ	7/6～7/21	7/6～7/13	8/5～10/12	8/10～8/19
パシフィックジャイアントブルーバード	7/6～7/16	7/6～7/13	8/17～11/9	8/19～9/14
オーロラブルーインプ	6/29～7/13	7/6	8/17～9/28	9/9～9/14
青フラDel交4号	7/6～7/13	7/13	8/17～11/30	8/31～9/14

表3 一番花における切花調査

品 種 名	切花長 (cm)	切花重 (g)	調整重 (g)	茎径 (mm)	花穂長 (cm)	葉数 (枚)	小花数 (ヶ)	側枝数 (本)
ブルースピアー	238.1	330.4	267.4	16.7	152.3	22.8	92.3	3.2
マジックフォンテンブルーインプ	139.1	221.9	172.7	13.3	84.9	15.9	68.8	3.8
パシフィックジャイアントブルーバード	163.1	197.2	162.1	13.3	107.0	14.8	70.0	3.4
オーロラブルーインプ	146.1	168.6	141.5	11.6	99.2	12.4	54.7	2.3
青フラDel交4号	179.0	194.1	161.2	13.4	116.0	16.4	69.0	2.8

表4 二番花における切花調査

品 種 名	切花長 (cm)	切花重 (g)	調整重 (g)	茎径 (mm)	花穂長 (cm)	葉数 (枚)	小花数 (ヶ)	側枝数 (本)
ブルースピアー	95.8	40.2	32.2	4.7	40.5	12.1	17.8	0.6
マジックフォンテンブルーインプ	83.3	40.6	33.2	4.6	35.2	11.6	27.3	1.3
パシフィックジャイアントブルーバード	111.5	52.2	38.3	5.7	61.2	11.4	38.0	0.8
オーロラブルーインプ	100.3	53.4	40.9	5.2	56.9	12.0	22.5	1.0
青フラDel交4号	104.6	49.8	40.2	5.0	53.6	14.3	28.9	1.0

表5 花穂長が切花長に占める割合及び花穂長における小花の間隔

品 種 名	一番花		二番花	
	花穂長/切花長 (%)	小花の間隔 (花穂長/ヶ:cm)	花穂長/切花長 (%)	小花の間隔 (花穂長/ヶ:cm)
ブルースピアー	64.0	1.7	42.3	2.3
マジックフォンテンブルーインプ	61.0	1.2	42.3	1.3
パシフィックジャイアントブルーバード	65.6	1.5	54.9	1.6
オーロラブルーインプ	67.9	1.8	56.7	2.5
青フラDel交4号	64.8	1.7	51.2	1.9

表6 二番花における月別採花本数及び商品化率

品 種 名	項目	8月		9月		10月		11月		計	
		本数	(%・月)	本数	(%・月)	本数	(%・月)	本数	(%・月)	本数	(%)
ブルースピアー	全体	12		23		5		4		44	
	商品化	(10)	83.3	(15)	65.2	(5)	100.0	(3)	75.0	(33)	75.0
	規格外										
	花飛び	(2)	16.7	(3)	13.1					(5)	11.4
	茎曲がり			(5)	21.7					(5)	11.4
	60cm未満							(1)	25.0	(1)	2.2
マジックフォンテンブルーインプ	全体	12		8		1				21	
	商品化	(11)	91.7	(8)	100.0					(19)	90.5
	規格外										
	花飛び									0	0.0
	茎曲がり									0	0.0
	60cm未満	(1)	8.3			(1)	100.0			(2)	9.5
パシフィックジャイアントブルーバード	全体	10		11		2		2		25	
	商品化	(10)	100.0	(9)	81.8			(1)	50.0	(20)	80.0
	規格外										
	花飛び			(1)	9.1					(1)	4.0
	茎曲がり			(1)	9.1	(1)	50.0			(2)	8.0
	60cm未満					(1)	50.0	(1)	50.0	(2)	8.0
オーロラブルーインプ	全体	8		17						25	
	商品化	(8)	100.0	(16)	94.1					(24)	96.0
	規格外										
	花飛び			(1)	5.9					(1)	4.0
	茎曲がり									0	0.0
	60cm未満									0	0.0
青フラDel交4号	全体	16		25		2		2		45	
	商品化	(15)	93.7	(23)	92.0	(1)	50.0	(1)	50.0	(40)	88.8
	規格外										
	花飛び	(1)	6.3	(1)	4.0					(2)	4.4
	茎曲がり			(1)	4.0					(1)	2.2
	60cm未満					(1)	50.0	(1)	50.0	(2)	4.4

花きの部 2

調査名：アルストロメリアの周年栽培調査（平成 20 年度～平成 22 年度）

- 1 目的 当地域の夏季冷涼な気候を利用し、周年生産が可能と考えられる品目として有望なアルストロメリアの新品種について、比較調査を行い品種の特性を把握し、栽培上の資料とする。

2 調査方法

(1) 調査場所 パイプハウス 1 号 (132 m²)

(2) 耕種概要

- 1) 栽培方法 養液土耕栽培
 2) 定植年月日 平成 20 年 6 月 30 日
 3) 栽植距離 ベッド幅 70 cm、株間 30 cm、1 条植え
 4) 定植株数 300 株/棟
 5) 施肥量 (kg/a) N-P-K=2.25-2.25-2.25
 6) 使用資材 (kg/a) 大塚化学養液土耕 3 号：20、フラワーネット (1 段目：20cm × 4 目、2～4 段目：18cm × 4 目)
 7) 加温期間 平成 21 年 11 月 2 日～平成 22 年 5 月 20 日、平成 22 年 10 月 25 日～
 8) 仕立て法 草丈 70cm 未満、小花数・蕾数共に 3 個以下の花茎を花梗から摘蕾及び適宜間引き
 9) 収穫期間 平成 22 年 1 月 4 日～
 10) 農薬散布 9 回 (平成 22 年 6 月 25 日～11 月 19 日)

(3) 調査区の構成

1) 調査区 6 区 (1 品種 1 区制 9 株)

2) 供試品種 6 品種

No.	品種名	花色	会社名	備考
1	レベッカ	白に赤斑	Royal VanZanten	標準
2	カルタヘナ	紫	Hi lverda	
3	ハッピーフィート	桃	Hi lverda	覆輪・ スポットス
4	セルビノ	赤	Hi lverda	
5	ハワイアンドリーム	紫	Hi lverda	
6	オライオン	黄	Hi lverda	

(4) 調査項目 生育、開花、切花

3 結果の概要

(1) 生育

害虫については、ヨトウムシ及びオンシツコナジラミが散見された。

生育については、4～5 月の低温から、6 月以降高温となったために、花芽の付かないシュートが多数伸長した。

採花本数(表 1)は、周年の合計で「レベッカ」が 85.7 本/株で最も多く、次いで「オライオン」が 37.0 本/株、「ハッピーフィート」「セルビノ」「ハワイアンドリーム」は 15～18 本/株、「カルタヘナ」は 7.6 本/株となった。昨年は「レベッカ」が 94.8 本/株で最も多く、次いで「オライオン」が 52.9 本/株、「ハッピーフィート」「セルビノ」「ハワイアンドリーム」は 33～36 本/株、「カルタヘナ」は 22.7 本/株であり、品種間における採花本数の差は昨年と同様の傾向を示した。草丈 70cm 未満及び小花数・蕾数共に 3 個以下の花茎を花梗から摘蕾することで昨年よりシュートを残すよう努めたが、夏期の高温も影響し、採花本数の向上には至らなかった。

(2) 開花 (表 1)

全ての品種で 4～5 月にかけて採花の盛期となり、その後 6 月採花本数が減少した。「レベッカ」「オライオン」は 7～8 月、「カルタヘナ」「ハッピーフィート」は 7 月に再び増加し、その後は花芽の付いたシュートが減少したため、秋期以降は採花本数が減少し、周年採花できた品種はなかった。4～5 月の低温から、6 月以降高温となったために、株に負担がかかったことと、花芽の形成が抑制されたことが原因と思われる。

(3) 切花品質 (表2)

規格別割合では、「レベッカ」「ハッピーフィート」「セルビノ」「オライオン」は3Lが最も多く、「カルタヘナ」「ハワイアンドリーム」はL、Mが多い傾向となった。また、「ハッピーフィート」「セルビノ」は高温の時期において、採花後花梗がやや萎れやすい傾向にあった。また、「カルタヘナ」「ハッピーフィート」「ハワイアンドリーム」は茎径が比較的太くなる傾向にあった。

以上の結果から、採花本数において「レベッカ」が、長期間にわたる採花において「オライオン」が優れていると思われる。

表1 月別採花本数及び規格別割合 (単位 実数:採花本数/株、括弧内:%/年合計)

品 種 名	規 格	月												合 計	
		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月		
レ ベ ッ カ	3L	8.2	8.3	7.0	15.0	13.9	7.1	12.0	12.3	1.7					85.7
	2L	(9.6)	(9.7)	(8.2)	(17.5)	(16.3)	(8.3)	(14.0)	(14.4)	(2.0)					
	L				1.1	2.0	2.3	0.9	0.2						6.7 (7.8)
	M					0.9	1.8	0.7							3.4 (4.0)
カ ル タ ヘ ナ	3L														1.1 (14.5)
	2L														1.5 (19.7)
	L	0.1	0.2	0.2	0.6	0.1	0.3	1.0	0.3						2.8 (36.8)
	M			0.1	0.6	0.8	0.2	0.4	0.1						2.2 (29.0)
フ ハ ッ ィ フ ィ ト	3L				3.6	4.7	1.1	3.2	0.7	1.7	0.3				15.3
	2L				(23.5)	(30.7)	(7.2)	(20.9)	(4.6)	(11.1)	(2.0)				
	L				3.1	2.3		0.2	0.1	0.9					6.6 (43.1)
	M				0.5	2.0		1.0	0.1	0.1					3.7 (24.2)
セ ル ビ ノ	3L														1.5 (9.8)
	2L														
	L					0.4	0.8	1.3	0.3	0.5	0.2				3.5 (22.9)
	M						0.3	0.7	0.2	0.2	0.1				1.5 (9.8)
オ ラ イ オ ン	3L	0.1	0.2	3.4	6.3	6.4	0.2	0.8	0.4						17.8
	2L	(0.6)	(1.2)	(19.4)	(35.6)	(36.2)	(1.2)	(4.4)	(2.5)						
	L	0.1	0.2	3.4	6.0	2.4									12.1 (68.0)
	M				0.2	1.9									2.1 (11.8)
ハ ワ ィ ア ン ド リ ー ム	3L														1.1 (6.2)
	2L														2.5 (14.0)
	L														
	M														
ド リ ー ム	3L														18.3
	2L														
	L														
	M														
オ ラ イ オ ン	3L	1.0	0.2	0.3	5.2	7.9		2.8	12.8	1.4	3.8	1.6			37.0
	2L	(2.7)	(0.5)	(0.8)	(14.1)	(21.3)		(7.6)	(34.6)	(3.8)	(10.3)	(4.3)			
	L	0.9	0.2	0.3	3.8	6.6		2.5	12.2	1.2	3.8	1.6			33.1 (89.5)
	M	0.1			1.2	1.0		0.2	0.5	0.2					3.2 (8.6)
オ ラ イ オ ン	3L														0.7 (1.9)
	2L														
	L														
	M														

規格 3L : 100cm 以上、2L : 90cm ~ 100cm 未満、L : 80cm ~ 90cm 未満

M : 70 ~ 80cm 未満、S : 60 ~ 70cm 未満

表2 切花調査

品種名	切花長 (cm)	切り花重 (g)	茎長 (cm)	葉数 (枚)	花便数 (本)	小花数 (個)	蕾数 (個)	茎径 (mm)
レベッカ	126.9	75.0	106.9	20.9	4.6	4.7	5.1	6.7
カルタヘナ	87.7	70.6	72.1	22.4	4.9	4.9	5.1	7.5
ハッピーフィート	94.4	68.9	83.5	22.4	4.9	4.9	6.9	7.6
セルビノ	101.1	71.0	88.8	22.1	5.3	5.3	5.4	6.8
ハワイアンドリーム	85.3	76.5	70.8	22.1	4.9	4.9	7.2	8.7
オライオン	121.2	47.4	107.8	23.6	4.5	4.5	4.8	5.9

調査名：秋菊の栽培調査（季咲き）（平成 20 年度～平成 22 年度）

- 1 目的 当地域における輪菊(神馬)栽培では3本直挿し無摘心栽培が主流となっているが、生産性向上を図るため4本直挿し無摘心栽培及び大苗直挿しによる栽培について調査し、栽培上の資料とする。

2 調査方法

- (1) 調査場所 パイプハウス 11号 (99 m²)
- (2) 耕種概要
- 1) 栽培方法 土耕栽培
- 2) 採穂期間 平成 22 年 6 月 30 日～7 月 23 日
- 3) 定植年月日 平成 22 年 7 月 7 日、7 月 16 日、7 月 26 日
- 4) 栽植距離 ベッド幅 45 cm、株間 15 cm、条間 15 cm、
1 マス 3 本の 2 条植え (中 1 条抜き)
1 マス 4 本の 2 条植え (中 1 条抜き)
- 5) 定植株数 1 マス 3 本の 2 条植え (中 1 条抜き) 3,600 本/棟
1 マス 4 本の 2 条植え (中 1 条抜き) 4,800 本/棟
- 6) ビーナイン処理 平成 22 年 9 月 3 日、9 月 13 日、9 月 24 日、10 月 6 日、10 月 14 日 1,000 倍希釈
- 7) 施肥量 (kg/a) N-P-K=1.0-1.1-6.4 (土壌分析結果による)
- 8) 使用資材 (kg/a) バーク堆肥：200、トリオ有機 048：10、珪酸加里：28、15cm×3 目フラワーネット、オキシベロン液剤、ビーナイン水和剤 80、ケイントップ
- 9) 収穫期間 平成 22 年 10 月 15 日～平成 23 年 10 月 27 日
- 10) 薬剤散布 11 回 (平成 22 年 8 月 4 日～10 月 5 日)
- (3) 調査区の構成
- 1) 調査区 4 区 (1 品種 1 区制 30 株)
- 2) 供試品種 神馬

No.	株数/マス	苗の大きさ	備考
1	3 本直挿し	大苗 (20cm)	無摘心
2	4 本直挿し	幼苗 (10cm)	無摘心
3	4 本直挿し	大苗 (20cm)	無摘心
4	3 本直挿し	幼苗 (10cm)	無摘心 (標準)

- (4) 調査項目 生育、開花、切花

3 結果の概要

(1) 生育

病害虫については、オオタバコガ、アブラムシ、白さび病が散見された。
挿し穂の活着については、幼苗(10cm)は約 7～10 日間、大苗(20cm)は約 10～14 日間を要した。

草丈については、90cm を超えたのは 7 月 7 日定植では大苗が 9 月 16 日、幼苗が 9 月 26 日、7 月 16 日定植では大苗が 9 月 26 日頃、幼苗は収穫時の 10 月 26 日に 100cm を越えていた。7 月 26 日定植では大苗が収穫時の 10 月 31 日に 90cm を越えていた。

(2) 開花

採花期については、7 月 7 日定植において 10 月 21～25 日、7 月 16 日定植において 10 月 26 日頃、7 月 26 日定植において 10 月 31 日頃となった。
定植日による採花開始日の比較では、おおむね約 5 日間の間隔があった。

(3) 切花品質

切花長については、栽植株数による比較では定植日により長くなった調査区がまちまちとなった。

節数については、7 月 7 日及び 16 日定植において、3 本/マスの方が高い傾向が見られた。

調整重については、全ての定植日において、3 本/マスの方が重い傾向が見られた。

良品率については、最も高かったのは 7 月 7 日定植の 3 本/マス・幼苗で 80.0% であった。4 本/マスの調査区は全ての定植日で 3 本/マスより低くなった。

以上より、大苗(20cm)栽培については、7月中旬定植でも十分な草丈を確保できることから、栽培期間の短縮に有効と考えられる。また、節数及び良品率から栽植株数については、3本/マスの方が優れていると思われる。

表1 生育調査(草丈・節数)

定植日	調査区	8/6	8/16	8/26	9/6	9/16	9/26
7 月 7 日	3本/マス・20cm 苗 (草丈・cm)	23.0	46.4	65.9	85.7	102.1	116.7
	(節数・節)	21.7	31.3	41.8	51.4	60.9	68.4
	4本/マス・10cm 苗 (草丈・cm)	13.9	33.5	55.6	67.2	80.2	101.9
	(節数・節)	16.2	24.3	37.8	43.4	49.5	60.4
	4本/マス・20cm 苗 (草丈・cm)	22.8	45.2	69.1	81.4	100.8	114.1
	(節数・節)	20.9	30.2	43.3	48.0	52.2	60.0
7 月 16 日	3本/マス・10cm 苗 (草丈・cm)	15.4	28.7	52.4	65.6	78.9	103.5
	(節数・節)	16.9	23.1	36.0	38.9	48.7	58.1
	3本/マス・20cm 苗 (草丈・cm)	11.9	32.4	53.1	67.2	80.1	98.4
	(節数・節)	18.1	25.4	46.3	47.9	52.1	60.8
	4本/マス・10cm 苗 (草丈・cm)	19.7	23.7	46.9	57.4	68.5	86.2
	(節数・節)	14.2	20.9	35.0	38.1	40.4	49.0
7 月 26 日	4本/マス・20cm 苗 (草丈・cm)	20.0	34.6	58.8	72.5	83.4	102.1
	(節数・節)	20.5	26.2	42.1	48.7	53.8	59.9
	3本/マス・10cm 苗 (草丈・cm)	12.5	26.6	47.7	58.1	68.3	85.6
	(節数・節)	13.7	20.4	35.3	42.3	43.7	51.2
	3本/マス・20cm 苗 (草丈・cm)	13.9	22.4	34.4	44.0	62.1	76.1
	(節数・節)	13.0	19.8	32.7	38.0	44.6	49.2
7 月 26 日	4本/マス・10cm 苗 (草丈・cm)	8.0	13.0	26.6	35.6	49.7	64.3
	(節数・節)	9.8	13.0	23.7	26.7	31.8	37.6
	4本/マス・20cm 苗 (草丈・cm)	15.7	21.5	37.9	49.5	65.6	77.6
	(節数・節)	14.2	20.8	32.7	38.2	43.9	48.9
	3本/マス・10cm 苗 (草丈・cm)	8.2	15.8	30.7	39.0	49.2	65.2
	(節数・節)	11.4	13.5	25.2	30.4	36.1	41.3

表2 切花調査

定植日	調査区	採花期	切花長 (cm)	切花重 (g)	調整重 (g)	節数 (節)	花首長 (cm)	茎径 (mm)
7 月 7 日	3本/マス・20cm 苗	10/21~25	125.3	83.7	62.5	72.9	2.1	6.2
	4本/マス・10cm 苗	10/25	111.0	64.4	56.2	63.0	2.4	5.3
7 月 16 日	4本/マス・20cm 苗	10/21~25	120.2	66.7	60.9	64.8	2.2	5.2
	3本/マス・10cm 苗	10/21~25	113.0	84.4	69.4	63.7	2.3	5.6
7 月 26 日	3本/マス・20cm 苗	10/26	112.6	74.2	63.4	67.4	2.2	6.2
	4本/マス・10cm 苗	10/26	104.1	86.1	60.1	58.2	2.5	6.2
7 月 26 日	4本/マス・20cm 苗	10/25	116.3	79.6	53.5	67.0	2.4	5.7
	3本/マス・10cm 苗	10/26	103.4	72.8	63.7	61.9	2.2	5.9
7 月 26 日	3本/マス・20cm 苗	10/31	94.5	56.7	50.6	56.5	2.4	6.0
	4本/マス・10cm 苗	10/31	87.1	48.5	43.0	45.8	2.6	2.8
7 月 26 日	4本/マス・20cm 苗	10/31	98.6	54.1	47.5	56.4	2.4	5.5
	3本/マス・10cm 苗	11/ 1	87.7	59.0	51.9	49.1	2.5	6.1

表3 良品率調査

(単位：%)

品 種 名	7月7日定植	7月16日定植	7月26日定植
3本/マス・20cm 苗	63.3	70.0	33.3
4本/マス・10cm 苗	46.7	53.3	6.7
4本/マス・20cm 苗	33.3	33.3	26.6
3本/マス・10cm 苗	80.0	66.6	26.7

良品率：草丈 90cm、
調整重 60g 以上の割合

花きの部 No.4

調査名：秋菊の栽培調査（11月出荷）（平成20年度～平成22年度）

- 1 目的 当地域における白輪菊の特性を把握するため、開花時期および切花品質について調査し、栽培上の資料とする。

2 調査方法

- (1) 調査場所 パイプハウス 12号 (99 m²)
- (2) 耕種概要
- 1) 栽培方法 土耕栽培
- 2) 採穂期間 平成22年7月29日～8月9日
- 3) 定植年月日 平成22年8月18日、8月27日
- 4) 暗期中断期間 平成22年8月18日～10月15日（22時～2時）
- 5) 栽植距離 ベッド幅45cm、株間15cm、条間15cm、
1マス3本の2条植え（中1条抜き）
- 6) 定植株数 3,600本/棟
- 7) 加温期間 平成22年9月21日～10月15日（10 ）、
平成22年10月16日～平成23年1月17日（13 ）」
- 8) ビーナイン処理 平成22年10月22日、11月4日、11月15日 1,000倍希釈
- 9) 施肥量(kg/a) N-P-K=1.0-0.4-4.4
- 10) 使用資材(kg/a) バーク堆肥：200、トリオ有機048：10、ハイクド40：8、珪酸
加里：18、15cm×3目フラワーネット、オキシベロン液剤、ビ
ーナイン水和剤80、ケイントップ、内カーテン、白熱球
- 11) 収穫期間 平成22年12月30日～平成23年1月17日
- 12) 薬剤散布 12回（平成22年8月25日～11月19日）
- (3) 調査区の構成
- 1) 調査区 6区（1品種1区制30株）
- 2) 供試品種 3品種

No.	品種・系統名	備考
1	神馬2号・長崎2	長崎県農試選抜
2	新神2	鹿児島県育成
3	神馬	

- (4) 調査項目 生育、開花、切花

3 結果の概要

(1) 生育

挿し穂の活着については、3品種とも約7日間を要した。

消灯時の草丈は、8月18日定植では、「神馬2号・長崎2」が74.3cm、「新神2」が68.0cm、「神馬」が77.1cmで「神馬」が最も長かった。8月27日定植では、「神馬2号・長崎2」が67.7cm、「新神2」が65.9cm、「神馬」が67.3cmで、「神馬2号・長崎2」が最も長かった。

また、病害虫については、オオタバコガ、アブラムシ、白さび病が見られた。

(2) 開花

加温温度が低かった影響で生育が遅れ、8月18日定植では、「神馬2号・長崎2」、「新神2」が12月30日に、「神馬」が1月5日の収穫となった。8月27日定植では、「神馬2号・長崎2」、「新神2」が1月13日に、「神馬」が1月17日の収穫となった。いずれの定植日においても、「神馬2号・長崎2」、「新神2」が4～6日早かった。

(3) 切花品質

全ての調査区において、上位葉がやや小さい傾向が見られた。また、露芯花については発生が見られなかった。

切花長は、8月18日定植が全ての品種で100cmを超え、8月27日定植では全ての品種で100cmを下回った。

節数については、いずれの定植日においても「神馬」が最も多く、次いで「新神2」、「神馬2号・長崎2」の順となった。

良品率については、8月18日定植では「神馬2号・長崎2」が90%と最も高く、8月27日定植でも「神馬2号・長崎2」が70%と最も高かった。

以上より、「神馬2号・長崎2」において開花が早く、切り花品質が最も優れていた。

表1 生育調査(草丈・節数) (8月18日定植)

品 種 名	9/2	9/16	9/30	10/15(消灯時)
神馬2号・長崎2(草丈・cm)	19.3	37.8	57.5	74.3
(節数・節)	14.9	21.7	35.3	43.1
新神2(草丈・cm)	17.1	35.3	53.4	68.0
(節数・節)	15.2	23.1	36.9	48.5
神馬(草丈・cm)	21.0	39.5	60.8	77.1
(節数・節)	15.4	25.0	37.7	50.9

表2 生育調査(草丈・節数) (8月27日定植)

品 種 名	9/5	9/17	10/1	10/15(消灯時)
神馬2号・長崎2(草丈・cm)	8.6	27.4	47.1	67.7
(節数・節)	11.1	18.3	31.3	37.2
新神2(草丈・cm)	7.9	26.3	44.5	65.9
(節数・節)	11.6	19.5	33.4	39.0
神馬(草丈・cm)	8.1	28.6	46.8	67.3
(節数・節)	12.3	20.7	35.1	41.8

表3 切花調査(8月18日定植)

品 種 名	採花期	切花長 (cm)	切花重 (g)	調整重 (g)	節数 (節)	花首長 (cm)	茎径 (mm)
神馬2号・長崎2	12/30	112.7	95.0	80.3	49.9	1.9	6.4
新神2	12/30	101.5	81.9	74.8	54.4	2.0	6.1
神馬	1/5	126.3	93.4	71.7	58.7	2.0	6.0

表4 切花調査(8月27日定植)

品 種 名	採花期	切花長 (cm)	切花重 (g)	調整重 (g)	節数 (節)	花首長 (cm)	茎径 (mm)
神馬2号・長崎2	1/13	95.6	82.7	75.8	48.8	2.5	6.3
新神2	1/13	89.4	58.0	53.4	50.4	2.0	6.2
神馬	1/17	92.2	67.8	61.6	53.4	2.1	6.5

表5 良品率調査(8月18日定植)

品 種 名	良品率(%)
神馬2号・長崎2	90.0
新神2	76.6
神馬	83.3

表6 良品率調査(8月27日定植)

品 種 名	良品率(%)
神馬2号・長崎2	73.3
新神2	30.0
神馬	36.6

良品率：草丈90cm、調整重60g以上の割合

調査名：ハボタン（切花）の栽培調査（平成 20 年度～平成 22 年度）

- 1 目的 近年、灯油の高騰が著しく、冬期間のハウスで栽培する品目の選定が求められているところである。そこで冬期間のハウスの有効利用を図るため、無加温で栽培が可能であるハボタンについて調査し、栽培上の資料とする。

2 調査方法

- (1) 調査場所 パイプハウス 8 号 (99 m²)
 (2) 耕種概要
 1) 栽培方法 土耕栽培
 2) 播種年月日 平成 22 年 8 月 6 日
 3) 定植年月日 平成 22 年 8 月 27 日
 4) 栽植距離 ベット幅 80 cm、株間 10 cm、条間 10cm、6 条植え(中 2 条抜き)
 5) 定植株数 3,240 本/棟
 6) 施肥量 (kg/a) N-P-K=0.75-.3-8.6
 7) 使用資材 (kg/a) トリオ有機 S048 : 7.5、珪酸加里 : 40、ハイウド 40 : 3.8
 黒マルチ
 内カーテンによる保温
 8) 収穫期間 平成 22 年 11 月 25 日～12 月 22 日
 9) 薬剤散布 7 回 (平成 22 年 9 月 3 日～11 月 16 日)
 (3) 調査区の構成
 1) 調査区 6 区 (1 品種 1 区制 10 株)
 2) 供試品種 6 品種

No.	品種名	葉色	会社名	備考
1	晴姿	白	タキイ種苗(株)	立性
2	紅寿2号	濃紅	(株)ミヨシ	立性
3	ウィンターチェリー	淡紅	タキイ種苗(株)	立性
4	紅神楽	淡紅	(株)ムラカミシード	半立性
5	雪神楽	白	(株)ムラカミシード	半立性
6	ルシールワイン	淡紅	タキイ種苗(株)	半立性

- (4) 調査項目 生育、開花、切花

3 結果の概要

(1) 生育

病害については葉の着色期以降に「晴姿」「ウィンターチェリー」「ルシールワイン」でべと病の黒色斑点が散見された。また、害虫については、コナガによる食害が散見された。

生育については、発芽が「紅神楽」「雪神楽」は他の品種に比べ 3～5 日遅れた。また、育苗期間が長くやや徒長気味となったことから、定植後の伸長時に地際部が曲がる株が散見された。着色葉が展開してからは伸長が緩やかになり、12 月上旬と下旬では切花長に大きな差は認められなかった。

(2) 開花(着色)

パイプハウス内に外気が入る等により夜温が下がったため、11 月上旬に「ルシールワイン」、11 月中旬に「ウィンターチェリー」「紅神楽」で着色葉が伸長を始めた。「晴姿」「雪神楽」「紅寿 2 号」は 11 月下旬から着色葉の伸長が始まった。

11 月中旬以降は日中の気温を低く管理したことにより、「色戻り」(着色葉の緑化)は見られなかった。赤色の品種の一部では、着色開始から長期間生育を続けたことによると思われる「色抜け」(外側の着色部が白くぼやけた状態)が見られ、「ルシールワイン」では 12 月上旬に、「ウィンターチェリー」では 12 月中旬に散見された。「紅寿 2 号」「紅神楽」では着色部と緑色部が明瞭に分かれ、「色抜け」は見られなかった。

(3) 切花品質

切花長については、「晴姿」は昨年に比べ長く、「ウィンターチェリー」は同程度であったが、その他の品種は昨年に比べ短くなった。「ルシールワイン」は 56.4cm で最も短くなったが、これは着色葉が伸長を開始した時期が早かったためと思われる。10 月後半に葉かき作業が遅れ気味になり、茎径が大きくなった。

白色の品種では、「晴姿」は葉が立性で草姿が良かったが、12 月中旬以降は次第に黒色の斑点が散見されるようになった。「雪神楽」は葉が半立性で切花長が「晴姿」に比べ

短い、黒色の斑点は見られなかった。赤色の品種については、「ウィンターチェリー」は黒色の斑点が12月下旬に散見されるようになった。「ウィンターチェリー」「紅寿2号」は葉が立性であったが、「紅寿2号」はより葉の枚数が多く、草姿のまとまりが良かった。「紅神楽」は葉が半立性であった。また、「ウィンターチェリー」は桃色に近いのに対し、「紅寿2号」「紅神楽」は「ウィンターチェリー」よりも赤みが強かった。「ルシールワイン」は照葉の品種であり、特に緑色の葉は光沢が際立っていた。着色葉は赤色が目立つ分、光沢はそれほど目立たなかった。

以上の結果から、11月下旬以降に着色葉の伸長が始まるよう、内カーテンの使用等により10月中旬頃まではハウス内の夜温がなるべく13℃前後以下とならないようにし、着色後は色戻りを防ぐために日中の温度を約18℃以下に管理することで、12月の出荷は可能であると思われる。また、赤色の品種のうち着色葉が色抜けしやすいものは、着色の開始が早くなるよう夜温の管理に特に注意が必要と思われる。また、べと病が発生しやすい品種については換気や薬剤による防除に留意する必要があると思われる。

表1 切花調査

品種名	切花長 (cm)	切花重 (g)	茎長 (cm)	茎径 (mm)	着色部径 (cm)	採花期
晴姿	66.2	82.1	54.6	13.3	7.5	12/7
(昨年)	59.0	68.4	45.2	11.5	9.4	11/27
紅寿2号	61.4	100.9	45.5	8.7	13.9	12/7
(昨年)	73.0	100.4	58.2	11.9	10.1	11/27
ウィンターチェリー	62.4	115.3	52.9	15.6	10.1	12/7
(昨年)	62.5	106.9	46.5	13.0	11.7	11/27
紅神楽	61.0	90.1	46.1	12.8	10.1	12/7
(昨年)	71.9	115.1	54.9	15.2	10.4	11/27
雪神楽	56.8	93.5	40.9	13.7	10.7	12/7
(昨年)	67.7	96.4	49.0	12.0	11.1	11/27
ルシールワイン	56.4	86.0	43.2	12.4	10.7	12/7

茎長：切り口から最下位葉までの長さ

茎径：調整後の最下位葉直下の太さ

着色部径：葉の着色部の外径

表2 規格別割合(%)

品種名	2L	L	M	S
晴姿	11.8	25.5	60.8	1.9
(昨年)	0.0	12.7	49.6	37.7
紅寿2号	7.5	25.0	60.0	7.5
(昨年)	40.0	56.0	4.0	0.0
ウィンターチェリー	5.1	10.2	64.4	20.3
(昨年)	4.7	32.6	60.4	2.3
紅神楽	5.8	11.8	61.8	20.6
(昨年)	50.0	37.5	12.5	0.0
雪神楽	0.0	9.9	63.9	26.2
(昨年)	0.0	57.7	42.3	0.0
ルシールワイン	0.0	4.7	62.5	32.8

切花長(cm) 2L：70以上~80未満、L：60以上~70未満、M：50以上~60未満、

S：40以上~50未満

花きの部 6

調査名：トルコギキョウの品種比較調査（8月出荷）（平成7年度～平成26年度）

1 目的 8月出し栽培におけるトルコギキョウの品種について比較調査し、栽培上の資料とする。

2 調査方法

- (1) 調査場所 パイプハウス5号（133㎡）
- (2) 耕種概要
- 1) 栽培方法 養液土耕栽培
 - 2) 播種年月日 平成22年2月16日
 - 3) 定植年月日 平成22年4月6日
 - 4) 栽植距離 うね幅110cm、株間10cm、条間10cm、8条植え（中3条抜き）
 - 5) 定植株数 4,300本/棟
 - 6) 施肥量(kg/a) N-P-K=0.9-0.7-6.7
 - 7) 使用資材(kg/a) (基肥)バーク堆肥：150、ネニソイル：12、珪酸加里：25
(追肥)大塚養液土耕2号：1.7、同5号：5.7
白黒ダブルマルチ
- 10 設定、内カーテン、保温暖房機による
- 8) 収穫期間 平成22年8月12日～8月30日
- 9) 薬剤散布 5回（平成22年6月8日～8月4日）
- (3) 調査区の構成
- 1) 調査区 19区（1品種1区制10株）
 - 2) 供試品種 19品種

No.	品 種 名	早晚性	花色	花径
1	トレーシー	中生	紫	中輪
2	バルカングリーン	中早生	緑	中小輪
3	セレスマリン	中早生	紫・覆輪	小輪
4	セレスグリーン	中早生	緑	小輪
5	ブランシュール	中早～中生	純白・八重	中大輪
6	バルカンホワイト	中生	白	中小輪
7	バルカンマリン	中生	紫・覆輪	中小輪
8	バルカンバイオレット	中生	紫	中小輪
9	エバーパープルピコティ	中生	桃・覆輪	中輪
10	グリーンゲイブルス	中生	緑・八重	中大輪
11	リッピーブルーミスト	中生	紫・緋	中輪
12	マリアージュ	中生	白・八重	中大輪
13	ダイヤモンドピーチ	中生	桃・覆輪・八重	中大輪
14	紫音	中生	紫・覆輪	中大輪
15	アルベールスノー	中生	白・八重	中輪
16	アルベールホワイト	中生	白・八重	中輪
17	ブーケホワイト	中生	白・八重	中大輪
18	ブーケグリーン	中生	緑・八重	中大輪
19	ブーケブルーフラッシュ	中生	紫・緋・八重	中大輪

取扱会社：No.1・9～12 福花園種苗(株)、No.2・6～8 タキイ種苗(株)、No.3～5・13・14(株)ミヨシ、No.15 カネコ種苗(株)、No.16～20(株)ムラカミシード

- (4) 調査項目 生育、開花、切花

3 結果の概要

(1) 生育

4～5月にかけての日照不足や天候不順により、生育初期の生育が遅れ気味となり、草丈が昨年に比べ短くなった。

また、病害虫については、開花期前後にアザミウマ類が散見された。

(2) 開花

「バルカンバイオレット」「ダイヤモンドピーチ」「ブーケホワイト」を除いて、8月中旬の採花となった。お盆向け出荷とするために、播種期を早める必要があると思われる。

(3) 切花品質

草丈は昨年に比べ短くなったが、「トレーシー」「バルカンホワイト」「リップブルーミスト」「ブーケブルーフラッシュ」が80cm以上となり、比較的長くなった。

また、ほとんどの品種で開花数4個以上、かつ、開花数及び花蕾数合わせて6個以上となった。

上物率は「トレーシー」「バルカンホワイト」「リップブルーミスト」「ブーケブルーフラッシュ」で90%以上となった。

表1 調査結果一覧

品種名	切り花長 (cm)	切り花重 (g)	調整重 (g)	節数 (節)	茎長 (cm)	茎径 (cm)	着蕾側枝 数(本)	開花数 (個)	花蕾数 (個)	上物率 (%)	商品化率 (%)	採花期	
トレーシー	本年	85.9	76.9	61.5	9.2	46.9	7.0	2.8	4.9	6.4	100	100	8/17
	昨年	90.4	120.3	118.9	9.8	53.8	5.0	4.0	5.4	12.4	100	100	8/27
バルカングリーン	67.7	48.3	40.9	9.3	39.5	5.5	1.9	4.6	5.7	0	100	8/12～8/17	
セレスマリン	55.5	37.8	31.9	9.2	28.1	4.4	3.0	4.8	8.7	0	100	8/12～8/17	
セレスグリーン	60.9	51.8	40.4	9.2	28.6	5.9	2.4	4.6	7.8	0	100	8/12～8/17	
ブランシュール	49.5	30.1	24.6	9.1	24.0	4.2	1.4	3.6	2.8	0	70	8/19～8/24	
バルカンホワイト	本年	85.3	67.9	60.3	11.3	46.1	6.2	2.8	4.5	7.6	100	100	8/17～8/26
	昨年	74.4	62.8	61.2	9.0	36.7	4.2	1.7	4.5	6.0	30	100	8/27～9/3
バルカンマリ	本年	78.2	63.6	52.7	9.9	37.7	6.3	2.2	4.5	7.4	30	100	8/19～8/24
	昨年	79.1	84.9	84.2	10.7	47.7	5.0	2.9	4.8	8.9	50	100	8/27
バルカンバイオレット	66.4	54.0	42.6	9.2	30.8	5.7	2.3	4.5	6.3	0	100	8/24	
バルカンブルーミスト	66.7	59.0	46.6	11.6	33.4	5.4	2.9	5.0	9.2	0	100	8/12～8/17	
グリーンゲイブル	60.5	31.1	24.2	7.6	24.9	3.7	1.1	3.4	3.4	0	100	8/19～8/24	
リップブルーミスト	83.9	63.7	55.2	9.4	31.6	5.6	1.2	4.8	6.7	90	100	8/19～8/24	
マリアーヂュ	60.0	51.8	43.6	8.9	29.8	5.8	2.5	4.0	6.1	0	100	8/17	
ダイヤモンドピーチ	60.2	48.4	38.2	9.4	33.1	5.3	2.2	4.5	5.4	0	100	8/24	
紫音	68.7	46.2	36.2	8.4	25.0	5.1	1.6	4.3	7.6	0	100	8/19～8/24	
アルベールスノー	68.9	52.1	44.7	8.3	32.3	5.0	2.2	4.4	6.4	0	100	8/17	
アルベールホワイト	74.1	71.4	61.4	7.8	29.7	5.6	2.1	5.1	9.1	0	100	8/19～8/24	
ブーケホワイト	69.9	61.9	48.5	6.4	31.1	5.1	1.3	4.1	7.3	0	100	8/28～8/30	
ブーケグリーン	78.5	67.0	55.9	8.4	38.1	5.9	2.2	5.0	6.5	20	100	8/19～8/24	
ブーケブルーフラッシュ	81.5	74.4	66.6	9.3	41.6	5.9	2.7	4.8	8.4	90	100	8/19～8/24	

上物率：切り花長80cm、調整重45g以上で、開花数+花蕾数6個以上のもの

商品化率：切り花長50cm以上のもの

図1 切り花長の比較

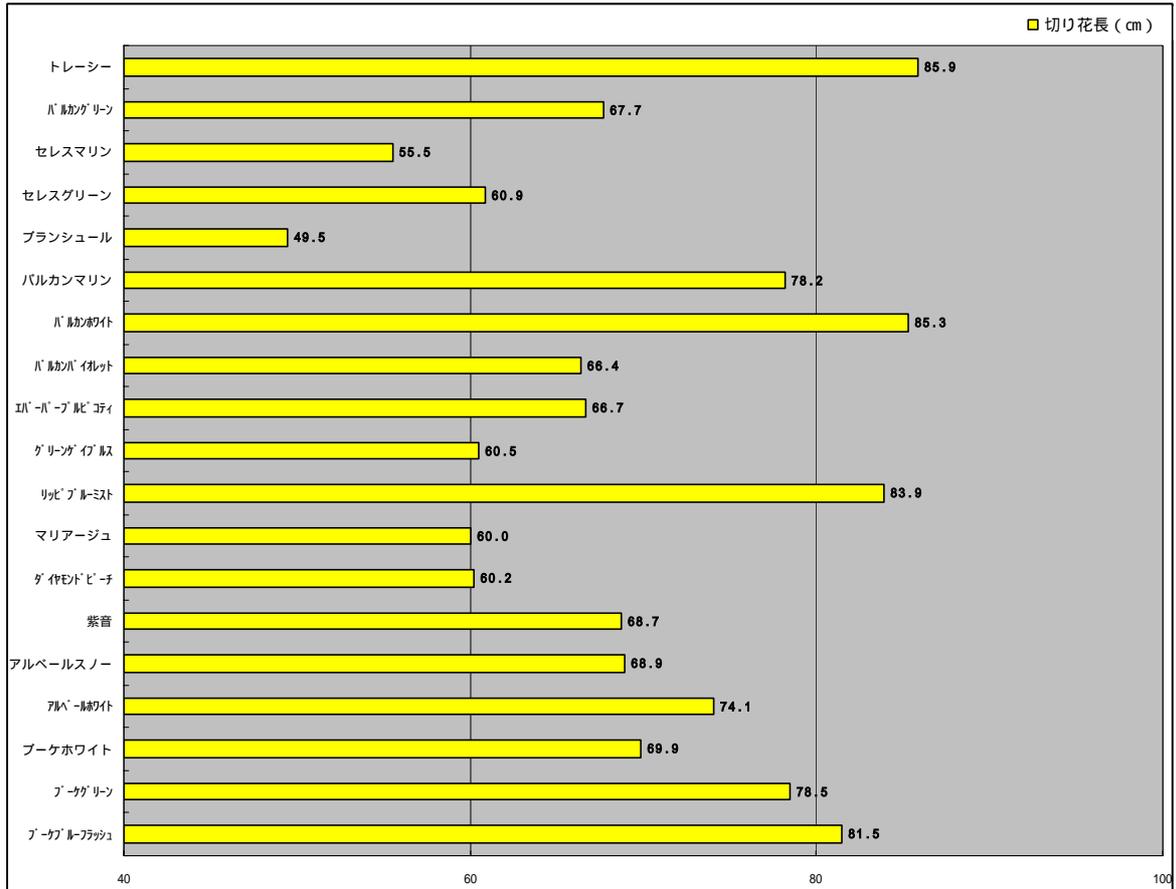
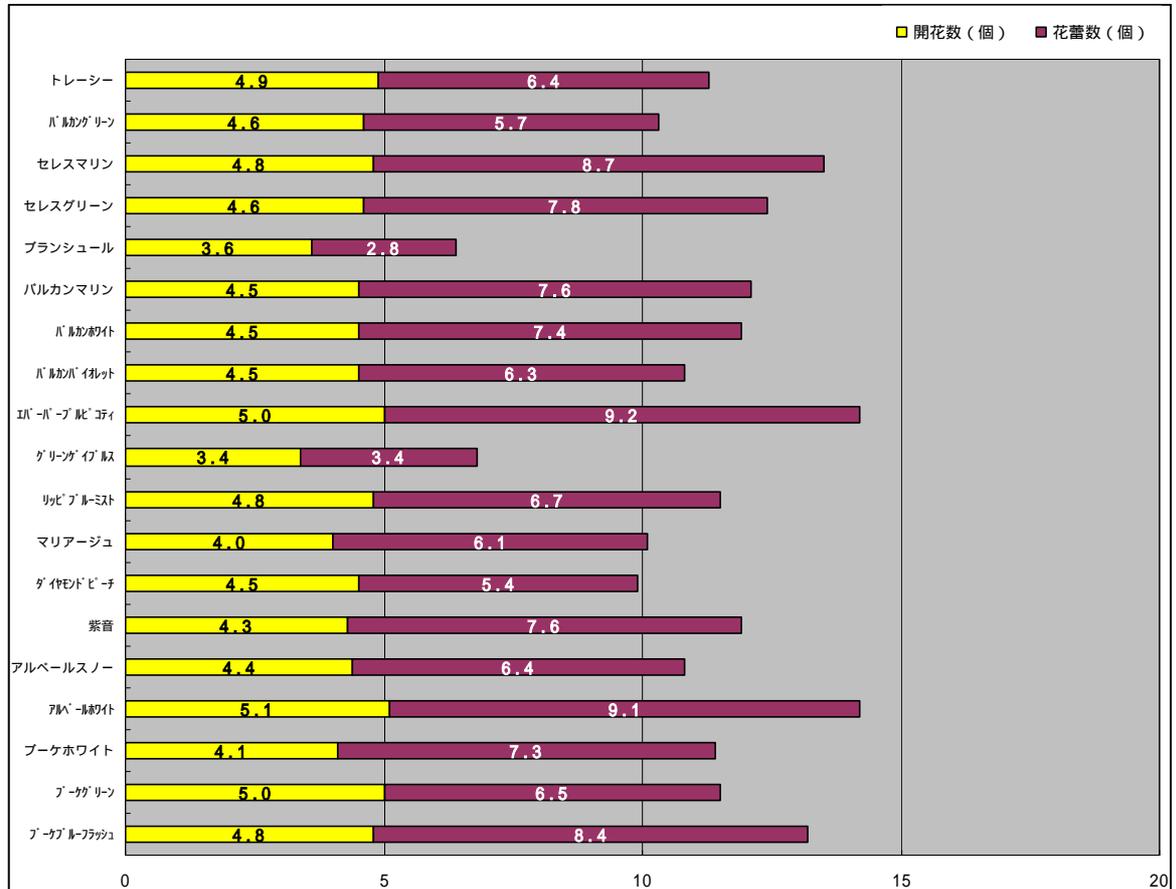


図2 開花数+花蕾数の比較



花きの部 7

調査名：トルコギキョウの品種比較調査（9月出荷）（平成7年度～平成26年度）

1 目的 9月出し栽培におけるトルコギキョウの品種について比較調査し、栽培上の資料とする。

2 調査方法

- (1) 調査場所 パイプハウス2号（133 m²）
- (2) 耕種概要
 - 1) 栽培方法 養液土耕栽培
 - 2) 播種年月日 平成22年3月19日
 - 3) 冷蔵処理期間 平成22年3月19日～4月23日
（播種、吸水後、6、暗黒条件下）
 - 4) 定植年月日 平成22年5月27日
 - 5) 短日処理期間 平成22年6月11日～7月11日（17時～8時）
 - 6) 栽植距離 うね幅110cm、株間10cm、条間10cm、8条植え（中3条抜き）
 - 7) 定植株数 4,300本/棟
 - 8) 施肥量(kg/a) N-P-K=0.9-0.7-6.7
 - 9) 使用資材(kg/a) （基肥）パーク堆肥：150、ネニソイル：12、珪酸加里：25
（追肥）大塚養液土耕2号：1.7、同5号：5.7
白黒ダブルマルチ
内カーテンによる保温
- 10) 収穫期間 平成22年9月14日～10月5日
- 11) 薬剤散布 4回（平成22年7月26日～9月3日）
- (3) 調査区の構成
 - 1) 調査区 21区（1品種1区制10株）
 - 2) 供試品種 21品種

No.	品 種 名	早晩性	花色	花径
1	トレーシー	中生	紫	中輪
2	グリーンゲイブルス	中生	緑・八重	中大輪
3	エバーパープルピコティ	中生	桃・覆輪	中輪
4	リッピーブルーミスト	中生	紫・緋	中輪
5	マリアージュ	中生	白・八重	中大輪
6	ダイヤモンドピーチ	中生	桃・覆輪・八重	中大輪
7	バルカンホワイト	中生	白	中小輪
8	紫音	中生	紫・覆輪	中大輪
9	アルペールスノー	中生	白・八重	中輪
10	アルペールホワイト	中生	白・八重	中輪
11	ブーケホワイト	中生	白・八重	中大輪
12	ブーケグリーン	中生	緑・八重	中大輪
13	ブーケブルーフラッシュ	中生	紫・緋・八重	中大輪
14	パレオアブリコット	中晩生	杏・八重	大輪
15	イエローダンス	中晩生	黄・フリジ・八重	大輪
16	ハーレスピンク	中晩生	濃桃・緋・八重	中輪
17	パルスィート	中晩生	桃・緋・八重	中輪
18	アンジェリケ	中晩生	濃桃・緋・八重	中大輪
19	プチハートブルー	晩生	純白	小輪
20	プチハートホワイト	晩生	濃紫	小輪
21	ジュエリースノー	晩生	白・八重	大輪

取扱会社：No.1～4 福花園種苗(株)、No.5・6・16(株)ミヨシ、
No.7・8・15 タキイ種苗(株)、No.10～14・22(株)ム
ラカミシード、No.9・17～21 カネコ種苗(株)

- (4) 調査項目 生育、開花、切花

3 結果の概要

- (1) 生育

7～9月にかけて、遮光等の高温対策をしたものの、生育初期にやや灌水が不足したことや6月後半から9月前半にかけての高温の影響により、草勢も劣り生育は良く

なかった。「トレーシー」「マリアージュ」「紫音」「イエローダンス」「ジュエリースノー」を除く品種では、ロゼット化した株が散見された。「バルカンマリン」については、全ての株でロゼット化してしまった。

また、病害虫については、開花期前後にアザミウマ類が散見された。

(2) 開花

中生～中晩生のほとんどの品種で9月14日から21日にかけて採花が始まった。晩生の品種では9月末から10月初めにかけて採花となった。秋彼岸向け出荷とするためには、短日処理の終了日を早める必要があると思われた。

(3) 切花品質

切花長は昨年に比べ短くなったが、「トレーシー」「グリーンゲイブルス」「リップブルーミスト」「紫音」が70cm以上となり、比較的長くなった。

切花重は草丈が短くなったことに伴いほとんどが50g以下となり、総じて値が小さくなった。

「バルカンホワイト」「アルベールスノー」「アルベールホワイト」「ブーケグリーン」を除く品種では開花数及び花蕾数が合わせて6個以上となった。

表1 調査結果一覧

品種名	切り花長 (cm)	切り花重 (g)	調整重 (g)	節数 (節)	茎長 (cm)	茎径 (cm)	着蕾側枝 数(本)	開花数 (個)	花蕾数 (個)	上物率 (%)	商品化率 (%)	採花期	
トレーシー	本年	71.1	46.5	39.5	6.8	33.1	4.4	1.1	4.1	4.1	0	100	9/16～9/21
	昨年	81.1	73.5	52.5	9.0	45.9	4.4	3.0	3.5	2.9	100	100	10/4
グリーンゲイブルス	80.4	49.8	41.1	7.3	39.1	4.3	1.2	4.0	5.2	40	100	9/14	
エパール・ゴルド・コティ	68.7	45.9	37.0	8.7	33	4.6	1.7	5.1	6.1	0	100	9/14	
リップブルーミスト	76.9	43.8	35.5	7.6	36.2	4.6	0.8	3.8	4.4	10	100	9/16～9/28	
マリアージュ	49.4	23.8	18.5	6.0	22.9	3.9	0.7	3.3	3.1	0	100	9/16～9/28	
ダイヤモンド・ビーチ	61.4	31.6	23.6	7.3	30.1	4.4	1.1	3.8	3.4	0	100	9/16～9/28	
バルカンホワイト	59.1	25.6	18.3	7.0	21.7	3.9	0.6	2.9	3.1	0	100	9/21～9/28	
紫音	本年	72.4	40.0	30.9	7.3	29.1	4.5	0.9	3.7	4.9	0	100	9/14～9/14
	昨年	69.4	64.4	52.9	6.9	28.8	4.3	1.7	4.3	5.9	0	100	10/1～10/5
アルベールスノー	本年	40.9	21.2	11.9	5.7	22.0	3.7	0.8	2.2	1.7	0	20	10/5～10/5
	昨年	60.5	74.1	58.1	7.5	29.2	4.0	1.5	3.9	4.6	0	100	10/13～10/20
アルベールホワイト	52.0	33.0	12.0	8.7	17.0	3.3	1.0	2.0	2.3	0	0	10/5～10/5	
ブーケホワイト	69.9	61.9	48.5	6.5	31.1	5.1	1.3	4.1	7.3	0	100	9/28～9/30	
ブーケグリーン	42.6	20.7	14.3	6.3	24.7	3.8	0.9	2.7	2.9	0	20	9/21～10/5	
ブーケブルーフラッシュ	62.5	44.0	36.5	7.0	30.5	4.0	1.5	4.0	5.5	0	20	9/30～9/30	
パレオアフリカ	59.7	32.8	25.8	6.3	28.4	4.1	1.1	3.3	3.0	0	100	9/28～10/5	
イエローダンス	67.9	50.9	43.2	7.5	33.2	4.8	1.6	4.1	5.6	0	100	9/21～9/28	
ハーレビック	57.1	28.1	23.0	6.9	24.9	4.2	0.7	3.4	2.9	0	100	9/21～9/28	
パルスایت	54.8	25.1	19.3	6.5	28.7	4.1	1.0	3.3	1.5	0	100	9/21～9/28	
アンジェリカ	50.9	34.2	25	5.1	23	3.9	0.8	3.1	1.9	0	70	10/5～10/5	
ブチハートブルー	57.0	34.3	24.0	8.3	25.33	4.0	1.0	3.5	3.2	0	50	9/30～10/5	
ブチハートホワイト	66.5	48.5	38.3	8.9	35.1	4.7	2.3	4.0	6.5	0	100	9/28～10/5	
ジュエリースノー	67.4	52.5	42.6	7.9	30.1	5.6	1.2	3.9	5.5	0	100	9/14～9/14	

上物率：切り花長80cm、調整重45g以上で、開花数+花蕾数6個以上のもの

商品化率：切り花長50cm以上のもの

図1 切り花長の比較

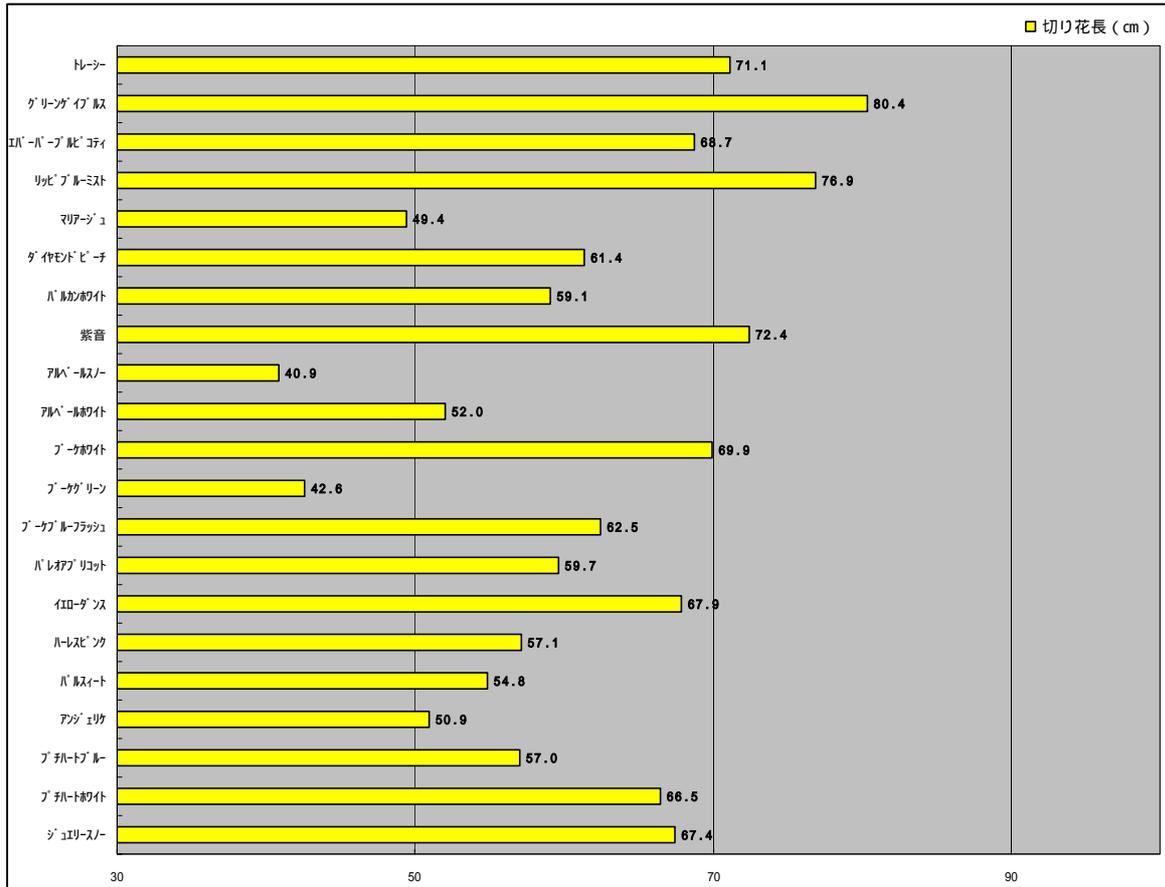
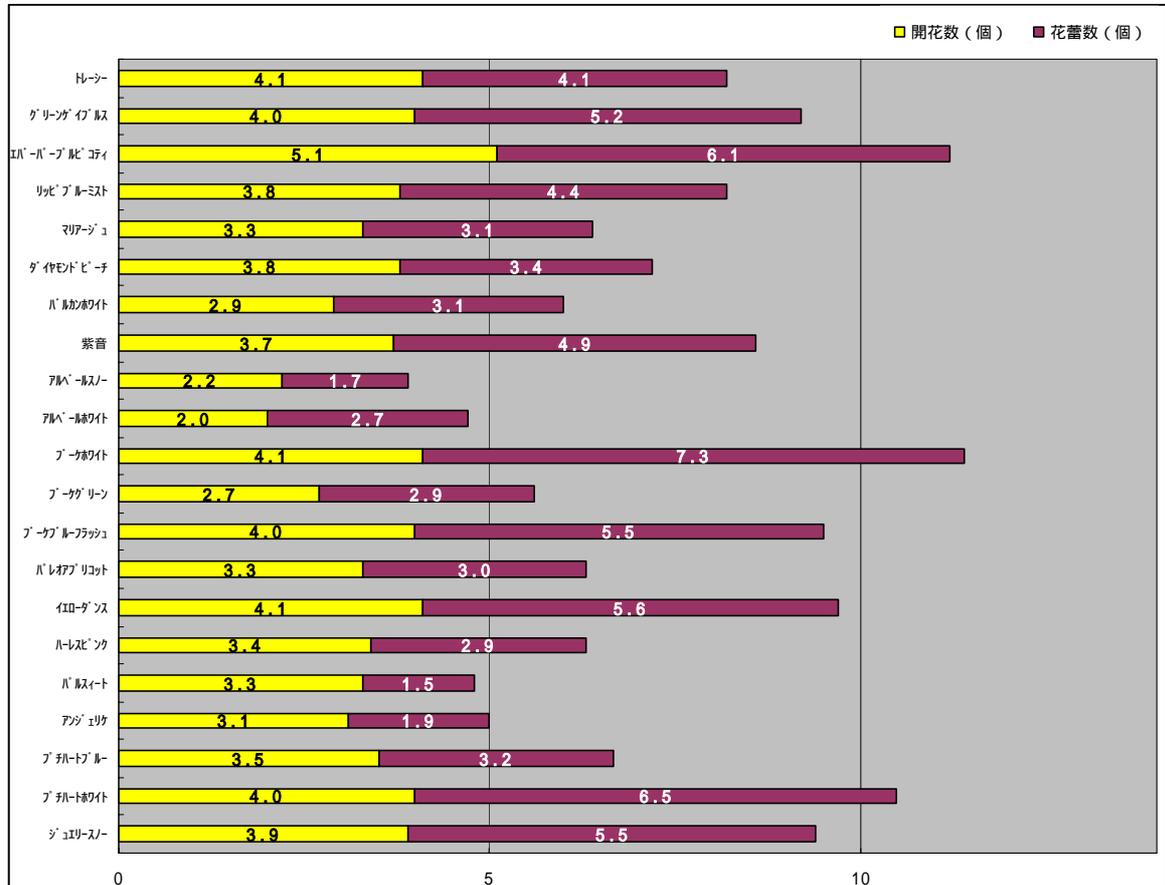


図2 開花数+花蕾数の比較



2 5 土壌分析

1 目的

農業者及び農業団体から依頼された土壌を分析し、土壌改良の資料とする。
また、本市において、産地形成されている地域のモデルとなる地点を定点観測地点に設定し、土壌分析を行ない、土壌改良の資料とする。

2 分析実績

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
依頼数(人)	42	55	39	28	17	12	10	20	68	17	34	63	411
カプル数(件)	61	93	71	90	105	30	27	36	166	37	83	209	1,017
分析数	423	291	394	796	938	270	229	324	1,480	319	614	1475	7,592

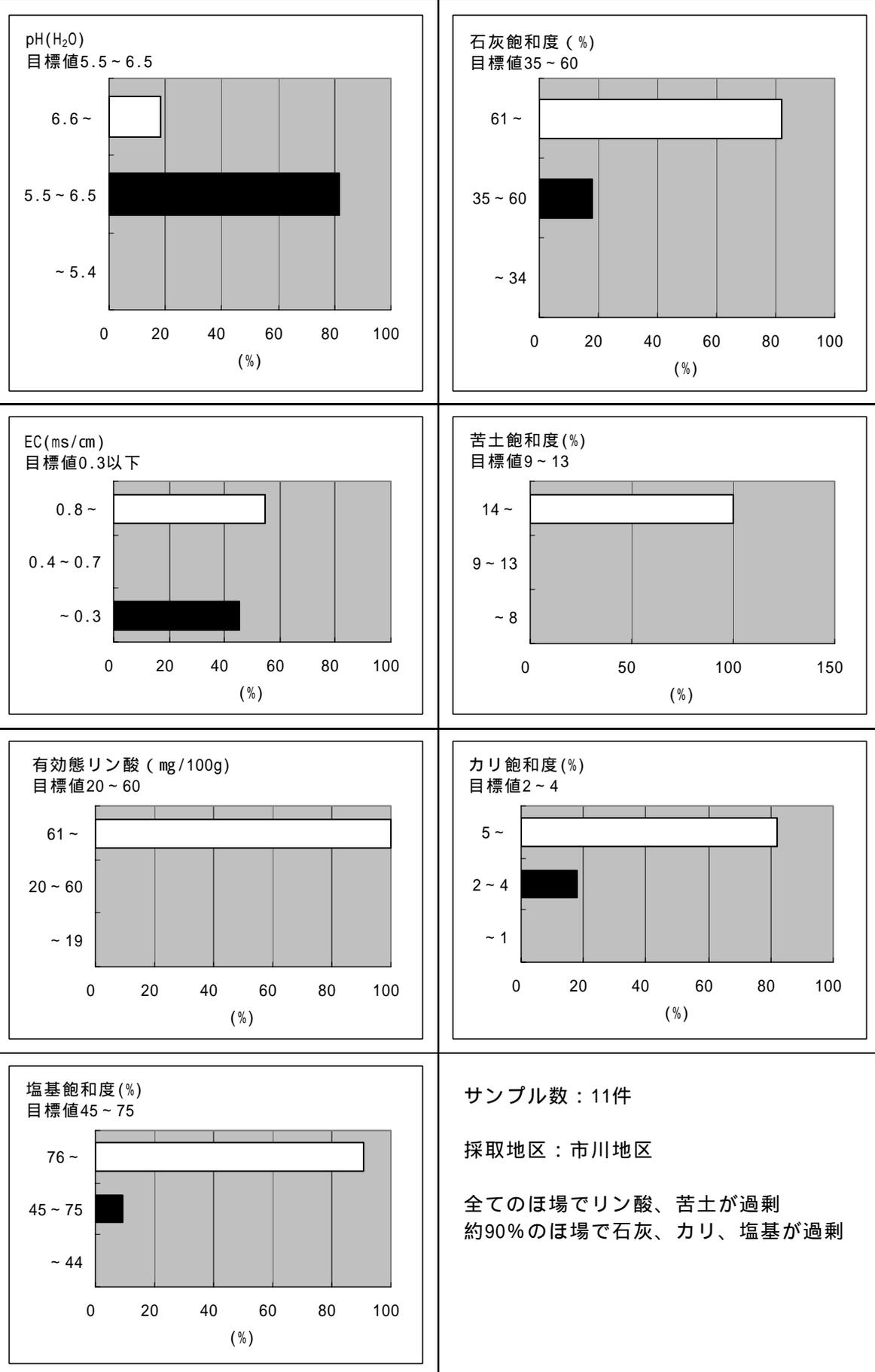
3 定点観測地点の概要

地区名	地点数		対象作物	
市川地区	1 1		いちご	施設
下長地区	3		花き	施設
上長地区	2	1 1	ながいも 食用菊	露地 露地
豊崎地区	3	1 1 1	にんにく ピーマン ながいも	露地 露地 露地
館地区	7		ミニトマト	施設
是川地区	7	2 1 4	ねぎ ながいも きゅうり	露地 露地 施設
南郷地区	6	2 2 2	トマト きゅうり そば	施設 施設 露地

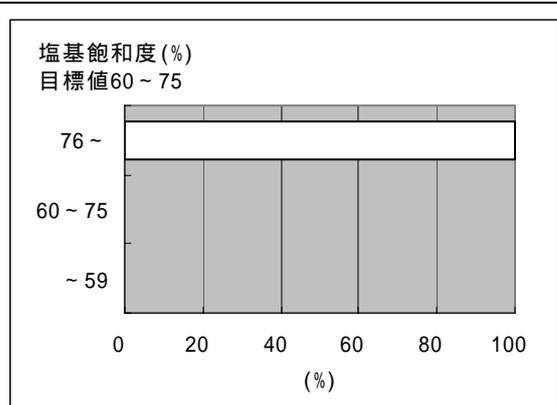
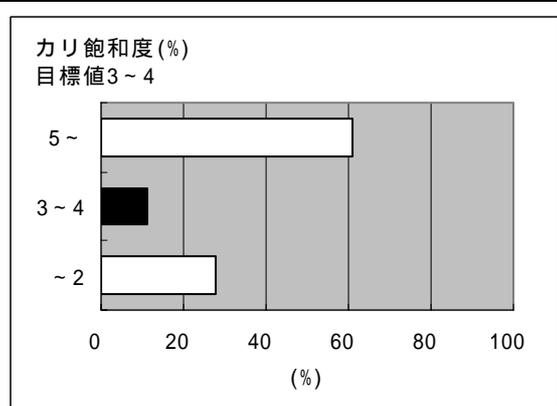
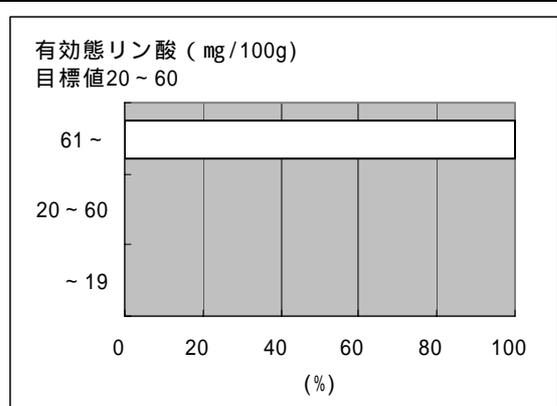
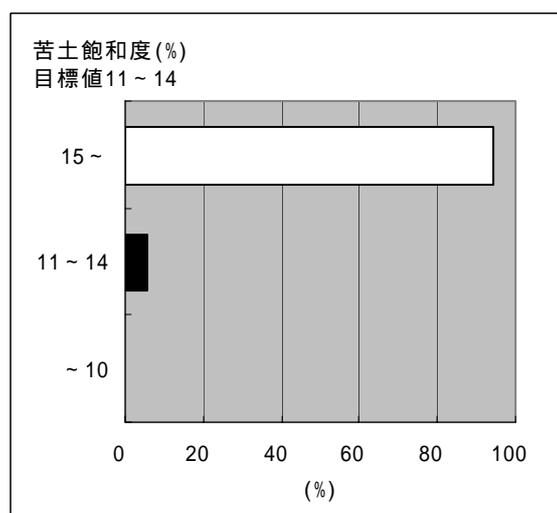
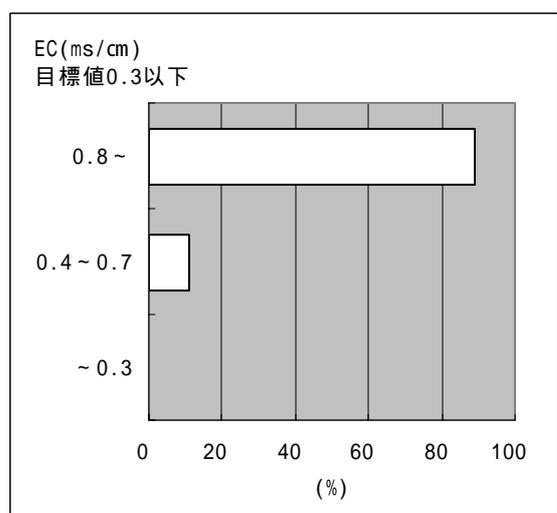
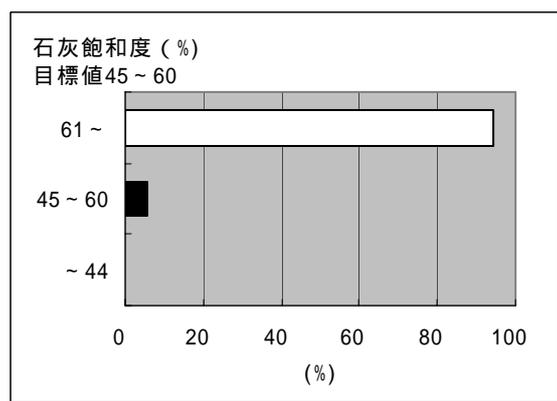
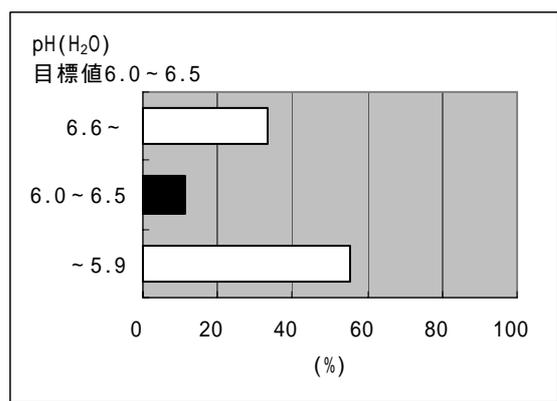
4 分析項目

(1) pH (H₂O・KCl) (2) EC (電気伝導度) (3) 有効態リン酸
(4) リン酸吸収係数 (5) CEC (塩基置換容量) (6) 置換性カルシウム
(7) 置換性マグネシウム (8) 置換性カリウム (9) 水分

5 分析結果（定点観測）
 (1) 施設野菜（いちご）



(2) 施設野菜(トマト・ミニトマト・きゅうり)・花き

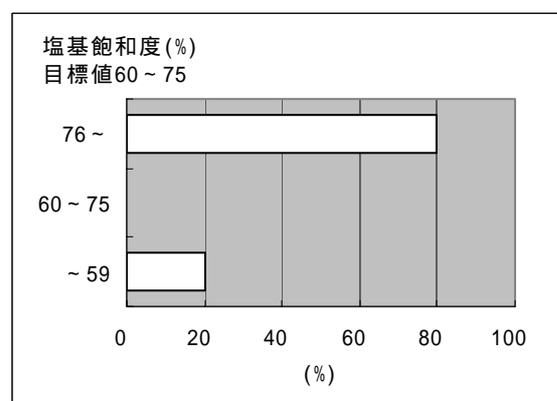
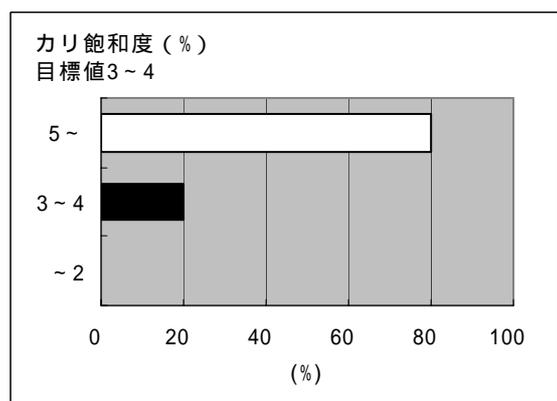
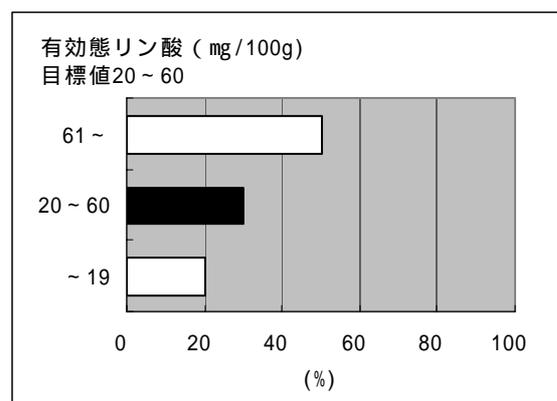
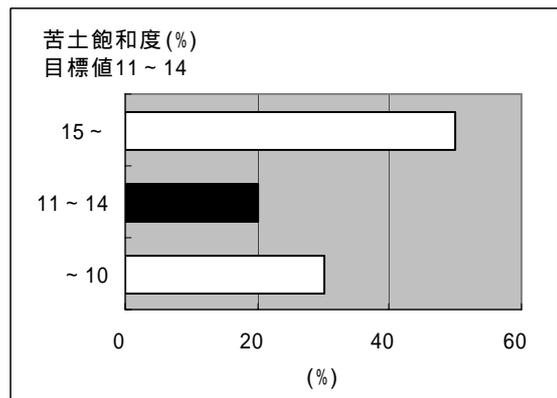
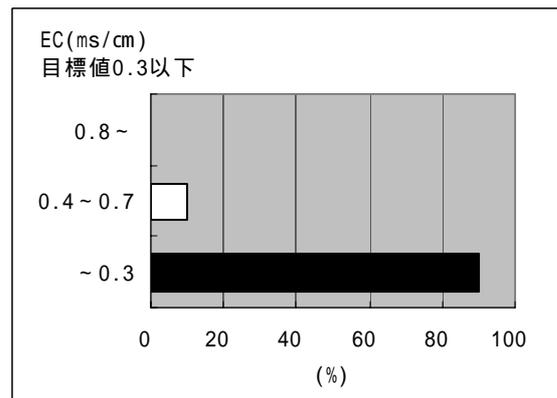
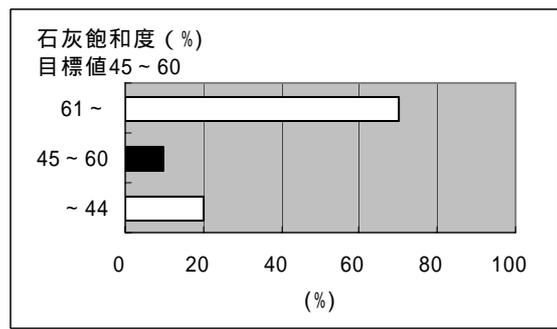
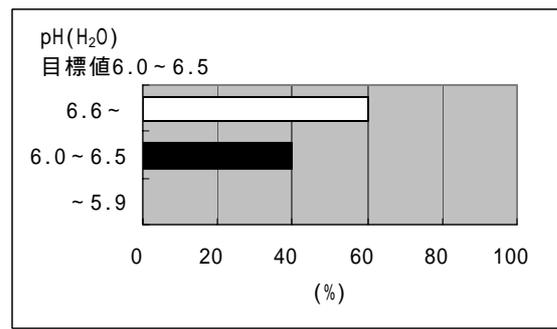


サンプル数：18件

採取地区：館・是川・下長・南郷地区

全てのほ場でリン酸、塩基が過剰
約90%のほ場でEC、石灰、苦土が過剰

(3) 露地野菜(ながいも・にんにく・ねぎ等)



サンプル数：10件

採取地区：是川・上長・豊崎・南郷地区

約60%のほ場でpHが6.6以上
約80%のほ場でカリ、塩基が過剰
約70%のほ場で石灰が過剰

2 6 植物組織培養

1 優良種苗の増殖実績

- (1) にんにく・・・(1品種 培養中)
- (2) いちご・・・(4品種、培養中)
- (3) デルフィニウム・・・(2品種、随時順化中)

2 優良種苗の配布実績

デルフィニウム(品種名 フォルカフリーデン、ボールクラウド)
・・・市内花き生産者、約800株(72穴セル苗)配布済

2 7 市民農園設置事業

目 的	自然環境の中で市民が家族ぐるみによる農業体験を通じて、農業知識の向上ならびに農業に対する理解を深めてもらうために実施した。
期 間	平成22年4月18日から平成22年11月19日まで
面積及び区画	1区画当たり33㎡、276区画
対 象	八戸市民(1世帯1区画)
使 用 料	2,500円(1区画)
主 要 施 設	休憩所(1ヶ所) トイレ(2基) 電話(1台) 農業用水道(6ヶ所) 駐車場(1ヶ所 1,000㎡)

市民農園での主な作付け作物

【春】

じゃがいも、まめ類、にんじん、だいこん、ねぎ

【秋】

だいこん、ねぎ、にんじん、まめ類、はくさい

2 8 農業体験学習

目 的	小学生等の食育教育の一環として、農作物を育て、収穫する喜びを体験し、農業及び食物に対する理解を深めてもらうため、農業体験の場を提供した。			
実 績	団体名	人数	内容	時期
	イメルダ幼稚園	30	さつまいも植付け体験	5月31日
	イメルダ幼稚園	28	さつまいも、大根収穫体験	10月28日
	八戸短期大学附属幼稚園	117	さつまいも植付け体験	6月1日
	八戸短期大学附属幼稚園	116	さつまいも、大根収穫体験	10月29日
	八戸幼稚園	25	さつまいも植付け体験	6月1日
	八戸幼稚園	26	さつまいも、大根収穫体験	10月26日
	根城保育園	31	施設見学及びイチゴ摘み取り体験	6月25日
	白銀台保育園	60	さつまいも植付け体験	6月3日
	白銀台保育園	60	大根は種及び草取り	8月24日
	白銀台保育園	59	さつまいも、大根収穫体験	10月27日
	種差小学校	50	農業体験出前講座	6月3日
	根城小学校ひばり学級	14	さつまいも、大根収穫体験	10月29日
	下長小学校2年生	61	さつまいも植付け体験	6月4日
	下長小学校2年生	60	さつまいも、大根収穫体験	10月22日
	中居林小学校3年生	68	大根収穫及び施設見学	10月22日
	白銀南中学校	120	さつまいも植付け体験	6月2日
	下長町子供会	14	じゃがいも植付け	4月29日
	下長町子供会	20	じゃがいも間引き、追肥、土寄せ	7月3日
	下長町子供会	15	じゃがいも収穫、大根は種	8月21日
	下長町子供会	16	大根収穫	10月17日
	鷗盟大学1学年	27	じゃがいも植付け	4月26日
	鷗盟大学1学年	23	じゃがいも芽かき、追肥、土寄せ	6月11日
	鷗盟大学1学年	23	じゃがいも収穫	8月6日
	鷗盟大学1学年	25	大根収穫	10月29日
	鷗盟大学2学年	19	じゃがいも芽かき、ニンジン種、さつまいも植付け	6月1日
	鷗盟大学2学年	14	じゃがいも収穫	8月10日
	鷗盟大学2学年	17	大根収穫	11月5日
	岩館ファミリー農園	37	野菜栽培指導相談	4月11日
	岩館ファミリー農園	47	野菜栽培指導相談	8月22日
	合計		1222	

2 9 農業講座開催実績

平成 22 年度八戸市農業講座の概要（実績）

月 日	時 間	演 題	講 師	受講者数
1月25日 (火)	13時00分 ～14時30分	トルコギキョウの 新品種紹介	(株)サカタのタネ 東日本支店仙台営業所 久保田維明	67名
	14時45分 ～16時15分	安定生産のための ネギ栽培技術等	(株)サカタのタネ 掛川総合研究センター 育種第一課 小野寺忠宣	113名
1月26日 (水)	13時00分 ～14時30分	猛暑の翌年 気になる八戸の天候	(株)吉田産業 海洋気象事業部 所長 気象予報士 田嶋研逸	64名
1月27日 (水)	13時00分 ～14時30分	肥料コスト低減に向けた 土壌診断の活用法	東京農業大学 生産環境化学研究室 教授 後藤逸男	74名
	14時45分 ～16時15分	課題研究発表 ・高機能性食用菊 ・おからコンニャクの活用 ・ストックの伸長制御技術 ・夏秋いちごの栽培 ～IPM(総合的病害虫管理) の組み立て～ ・健康サラダバー ・ソバを活用した雑草防除 について	青森県立名久井農業高等 学校	33名
合 計				351名

2 10 施設利用実績

農業講座、家庭菜園講習会等の各種研修、並びに農業関係機関による農業振興に係る営農指導会議等の開催による研修室等における施設利用実績である。

施設名	月	計
多目的研修室	135㎡ (100名) 回数	29
小会議室	人数	1,024
調理実習室	56㎡(20名) 回数	2
研修室	35㎡(15名) 人数	80
計	回数	31
	人数	1,104

来場者数 4,300名

施設見学及び指導相談並びに土壌分析
依頼・指導による来場者の集計である。

指導相談件数 260件

小会議室については、多目的研修室と連結しているため含んだ数値。

業務計画

【平成 23 年度】

場主	長幹	上石	村丸	智隆	貞典
(経営支援グループリーダー)					
主	幹	久保	昌	昌	広
(生産振興グループリーダー)					
主	査	島	川	正	範
主	事	佐	藤	靖	代
主	事	下	沢	佳	子
技	師	菊	谷	武	夫
技	師	福	田	悠	紀
技	師	田	茂	竜	児
技	師	幸	田	洋	平
技	師	中	里	一	希
技	師	奥	山	成	美

第3 業務計画

3 1 調査計画（施設野菜）

施設野菜の部 1

調査名：いちごの促成栽培（短日夜冷処理）調査（平成23年度）

1 目的 いちごの促成栽培（短日夜冷処理）について調査し、栽培上の資料とする。

2 調査方法

- | | |
|----------------|---|
| (1) 調査場所 | パイプハウス4号（132 m ² ：約40坪） |
| (2) 耕種概要 | |
| 1) 栽培方法 | 養液土耕栽培 |
| 2) ポット受期 | 平成22年6月24日～ |
| 3) 夜冷処理期間 | 平成22年8月6日～9月16日 |
| 4) 夜冷処理日数 | 42日 |
| 5) 夜冷処理方法 | 短日処理 8時間日長（16時30分～翌8時30分遮光）
低温処理 13～15（16時30分～翌8時30分） |
| 6) 育苗日数 | 85日 |
| 7) 定植月日 | 平成22年9月17日 |
| 8) 栽植距離 | ベッド幅110cm、株間15,18cm、2条植え |
| 9) 定植株数 | 1,060株/棟（株間15cm）、880株/棟（株間18cm） |
| 10) 施肥量（kg/a） | N-P-K=土壌分析結果による |
| 11) 使用資材（kg/a） | バーク堆肥：197kg、ハイフミンデルマ：23kg、
LPコートS100：3kg、珪酸加里：26kg、畑のカルシウム：14kg、
ハイクド40:7kg、大塚養液土耕5号、6号 |
| 12) 収穫期間 | 平成22年11月30日～平成23年6月下旬 |
| 13) 保温・加温 | 保温：内カーテン、加温：平成22年10月25日～（12 設定）
平成23年3月11日～（8 設定） |
| (3) 調査区の構成 | 4区：1区10株 1区制
さちのか、とちおとめ（各品種 株間15cm、18cm） |
| (4) 調査項目 | 生育、収量 |

施設野菜の部 2

調査名：いちごの促成栽培（短日処理）調査（平成 23 年度）

1 目的 いちごの促成栽培（短日処理）について調査し、栽培上の資料とする。

2 調査方法

- (1) 調査場所 パイプハウス 7 号 (99 m²: 約 30 坪)
- (2) 耕種概要
- 1) 栽培方法 養液土耕栽培
 - 2) ポット受期 平成 22 年 6 月 24 日～
 - 3) 短日処理期間 平成 22 年 8 月 3 日～9 月 23 日（さちのか）
30 日（とちおとめ）
 - 4) 短日処理日数 52 日（さちのか） 59 日（とちおとめ）
 - 5) 短日処理方法 短日処理 8 時間日長（16 時 30 分～翌 8 時 30 分遮光）
 - 6) 育苗日数 92 日（さちのか） 99 日（とちおとめ）
 - 7) 定植月日 平成 22 年 9 月 24 日（さちのか） 10 月 1 日（とちおとめ）
 - 8) 栽植距離 ベッド幅 110 cm、株間 15, 18 cm、2 条植え
 - 9) 定植株数 848 株/棟(株間 15 cm)、704 株/棟（株間 18 cm）
 - 10) 施肥量 (kg/a) N-P-K=土壌分析結果による
 - 11) 使用資材 (kg/a) バーク堆肥：200kg、ハイフミンデルマ：30kg、
LP コート S100：3.8kg、珪酸加里：26kg、畑のカルシウム：14kg、大塚養液土耕 5 号、6 号
- 12) 収穫期間 平成 23 年 1 月 4 日～平成 23 年 6 月下旬
- 13) 保温・加温 保温：内カーテン、加温：平成 22 年 11 月 15 日（12 設定）
- (3) 調査区の構成 4 区：1 区 10 株 1 区制
さちのか、とちおとめ（各品種 株間 15 cm、18 cm）
- (4) 調査項目 生育、収量

施設野菜の部 3

調査名：いちごの半促成栽培における品種比較調査（平成 23 年度～平成 24 年度）

1 目的 近年、当地域で栽培されている「麗紅」の収量・品質が低下し、それに替わる半促成栽培に適した品種が望まれていることから、品種比較し、栽培上の資料とする。

2 調査方法

- (1) 調査場所 パイプハウス 14 号 (99 m²: 約 30 坪)
- (2) 耕種概要
- 1) 栽培方法 養液土耕栽培
 - 2) ポット受期 平成 22 年 6 月 24 日～
 - 3) 育苗日数 64 日
 - 4) 定植月日 平成 22 年 8 月 27 日
 - 5) 栽植距離 ベッド幅 110 cm、株間 18 cm、2 条植え
 - 6) 定植株数 704 株/棟（株間 18 cm）
 - 7) 施肥量 (kg/a) N-P-K=土壌分析結果による
 - 8) 使用資材 (kg/a) バーク堆肥：200kg、ハイフミンデルマ：30kg、
LP コート S100：2kg、有機アグレット 666 特号：5kg、珪酸加里：30kg、畑のカルシウム：14kg、大塚養液土耕 5 号、6 号
 - 9) 収穫期間 平成 23 年 2 月 28 日～平成 23 年 6 月下旬
 - 10) 保温 保温：内カーテン、トンネル
- (3) 調査区の構成 4 区（品種）：1 区 10 株 1 区制
さちのか、栃の峰、紅ほっぺ、麗紅
- (4) 調査項目 生育、収量

施設野菜の部 4

調査名：夏秋どりいちごの品種比較調査（平成 22 年度～平成 24 年度）

1 目的 夏秋いちご生産の主体である四季成り性いちごについて品種比較し、栽培上の資料とする。

2 調査方法

- (1) 調査場所 パイプハウス 15 号 (99 m² : 約 30 坪)
- (2) 耕種概要
- 1) 栽培方法 養液土耕栽培
 - 2) 定植月日 平成 23 年 4 月 15 日 (新白鳥 1 号)、4 月 19 日 (すずあかね)
 - 3) 栽植距離 4 月 21 日 (サマールビー)、5 月 9 日 (ペチカサンタ、新大交配 8-9)
 - 4) 定植株数
 - 5) 施肥量 (kg/a) ベッド幅 110 cm、株間 25 cm、2 条植え
512 株/棟
 - 6) 使用資材 土壌分析結果による
 - 7) 収穫期間 土壌溶液 EC 濃度 0.5 ~ 1.0 (生育ステージによる)
大塚養液土耕 6 号
平成 23 年 6 月下旬 ~ 12 月上旬
- (3) 調査区の構成 5 区 : 1 区 10 株 1 区制
サマールビー、すずあかね、ペチカサンタ、新白鳥 1 号
信大交配 8-9
- (4) 調査項目 生育、収量、果実品質

施設野菜の部 5

調査名：夏秋どりいちごの栽培管理別比較調査（平成 22 年度～平成 24 年度）

1 目的 夏秋いちご生産の主体である四季成り性品種の、摘葉、摘花・摘果の違いによる収量や品質等への影響を把握し、栽培上の資料とする。

2 調査方法

- (1) 調査場所 パイプハウス 15 号 (99 m² : 約 30 坪)
- (2) 耕種概要
- 1) 栽培方法 養液土耕栽培
 - 2) 定植月日 平成 23 年 4 月 21 日
 - 3) 栽植距離 うね幅 110 cm、株間 25 cm、2 条植え
 - 4) 施肥量 (kg/a) 土壌分析結果による
土壌溶液 EC 濃度 0.5 ~ 1.0 (生育ステージによる)
 - 5) 使用資材 大塚養液土耕 6 号
 - 6) 収穫期間 平成 23 年 6 月上旬 ~ 12 月上旬
- (3) 調査区の構成 3 区 (栽培管理別) 1 区 10 株 1 区制
(供試品種：サマールビー)
- | 区 | <芽数> | <摘葉> | <摘花(果)> |
|---|-------|-----------------------------|-----------------------|
| 1 | 1 芽 | 1~2 枚/週 | 頂花房 5~6 果
以降 8~9 果 |
| 2 | 2~3 芽 | 1~2 枚/週 | 頂花房 5~6 果
以降 8~9 果 |
| 3 | 放任 | 8 月中旬に一度に 5~6 枚。
以降古葉のみ。 | 頂花房 5~6 果
以降放任 |
- (4) 調査項目 生育、収量

施設野菜の部 6

調査名：きゅうりの半促成栽培における品種比較調査（平成 22 年度～平成 24 年度）

1 目的 当地域におけるきゅうりの半促成栽培について比較調査し、栽培上の資料とする。

2 調査方法

- (1) 調査場所 パイプハウス 6 号 (99 m²: 約 30 坪)
- (2) 耕種概要
- 1) 栽培方法 養液土耕栽培
 - 2) は種月日(穂木) 平成 23 年 2 月 22 日
 - 3) は種月日(台木) 平成 23 年 2 月 24 日
 - 4) 接木・移植月日 平成 23 年 3 月 8 日 (15 cmポット)
 - 5) 定植月日 平成 23 年 3 月 28 日
 - 6) 栽植距離 ベッド幅 150 cm、株間 45 cm、2 条植え 144 株/棟
 - 7) 施肥量 (kg/a) N-P-K=土壌分析結果による
 - 8) 使用資材 (kg/a) パーク堆肥: 300kg
大塚養液土耕 5 号 (～収穫前) 2 号 (収穫開始～)
 - 9) 収穫期間 平成 23 年 5 月上旬～7 月下旬
 - 10) 保温・加温 保温: 内カーテン、加温: 定植後～10 設定
- (3) 調査区の構成 6 区 (品種): 1 区 5 株 1 区制
- (5) エクセレント節成 2 号 (埼) × ゆうゆう一輝黒 (埼) (埼): ㈱埼玉原種育成会
 - (6) エクセレント節成 353 (埼) × ゆうゆう一輝黒 (埼) (と): ㈱ときわ研究所
 - (7) プロジェクト X (と) × ときわパワー Z2 (と) (久): ㈱久留米原種育成会
 - (8) スバリ 163 (と) × ときわパワー Z2 (と) (サ): ㈱サカタのタネ
 - (9) シルフィーパワー 2 号 (久) × 昇竜 (久)
 - (10) フリーダムハウス 3 号 (サ) × つやか EX (サ)
- (4) 調査項目 生育、収量

施設野菜の部 7

調査名：きゅうりの抑制栽培における品種比較調査（平成 22 年度～平成 24 年度）

1 目的 当地域におけるきゅうりの抑制栽培について品種比較し、栽培上の資料とする。

2 調査方法

- (1) 調査場所 パイプハウス 7 号 (99 m²: 約 30 坪)
- (2) 耕種概要
- 1) 栽培方法 養液土耕栽培
 - 2) は種月日(穂木) 平成 23 年 7 月中旬
 - 3) は種月日(台木) 平成 23 年 7 月中旬
 - 4) 接木・移植月日 平成 23 年 7 月下旬 (9 cmポット)
 - 5) 定植月日 平成 23 年 8 月上旬
 - 6) 栽植距離 ベッド幅 150 cm、株間 45 cm、2 条植え 144 株/棟
 - 7) 施肥量 (kg/a) N-P-K=土壌分析結果による
 - 8) 使用資材 (kg/a) パーク堆肥: 300kg
大塚養液土耕 5 号 (～収穫前) 2 号 (収穫開始～)
 - 9) 収穫期間 平成 23 年 9 月上旬～11 月上旬
- (3) 調査区の構成 4 区 (品種): 1 区 5 株 1 区制
- (4) 調査項目 生育、収量

施設野菜の部 8

調査名：冬期間の施設利用によるこまつなの品種比較調査（平成 22 年度～平成 24 年度）

1 目的 冬期間の施設利用によるこまつなの品種等について調査し、栽培上の資料とする。

2 調査方法

- (1) 調査場所 パイプハウス 7 号（30 坪：約 99 m²）
- (2) 耕種概要
- 1) 栽培方法 土耕栽培、無加温（不織布べたがけ 発芽後トンネル）
 - 2) は種月日 平成 23 年 11 月下旬
 - 3) 栽植距離 ベッド幅 120 cm、株間 5 cm、条間 20 cm
 - 4) 施肥量 (kg/a) N-P-K=無施肥（きゅうり後作）
 - 5) 収穫期間 平成 24 年 2 月上旬～3 月上旬
- (3) 調査区の構成 6 区（6 品種）：1 区 1m（20 株） 2 区制
- (4) 調査項目 生育、収量、糖度

施設野菜の部 9

調査名：トマトの促成栽培における品種比較調査（平成 22 年度～平成 24 年度）

1 目的 当地域におけるトマト促成栽培について、有望品種の選定のため、品種比較し、栽培上の資料とする。

2 調査方法

- (1) 調査場所 ガラス温室 8 号（165 m²：約 50 坪）
- (2) 耕種概要
- 1) 栽培方法 養液土耕栽培
 - 2) は種月日 平成 22 年 12 月 20 日
 - 3) 移植月日 平成 23 年 1 月 14 日（15 cmポット）
 - 4) 定植月日 平成 23 年 2 月 22 日
 - 5) 育苗日数 64 日
 - 6) 栽植距離 ベッド幅 120 cm、株間 40 cm、2 条植え 320 株/棟
 - 7) 施肥量 (kg/a) N-P-K=土壌分析結果による
 - 8) 使用資材 (kg/a) バーク堆肥：200kg、ハイプロ N：37.6 L、大塚養液土耕 5 号（～収穫前）、2 号（収穫開始～）
 - 9) 収穫期間 平成 23 年 5 月 6 日～7 月下旬
 - 10) 保温・加温 内カーテン、温風暖房機（12℃設定）定植後～
- (3) 調査区の構成 6 区（品種） 1 区 10 株 1 区制
- (1)CF 桃太郎はるか（タキイ種苗株）
 - (2)CF 桃太郎ファイト（タキイ種苗株）
 - (3)ハウス桃太郎（タキイ種苗株）
 - (4)麗夏（株）サカタのタネ
 - (5)朝日和 10（朝日工業株）
 - (6)みそら 64（みかど協和株）
- (4) 調査項目 生育、収量、糖度

施設野菜の部 10

調査名：トマトの夏秋栽培における品種比較調査（平成 22 年度～平成 24 年度）

1 目的 当地域におけるトマト夏秋栽培について、有望品種の選定のため、品種比較し、栽培上の資料とする。

2 調査方法

- (1) 調査場所 ガラス温室 5 号（165 m²：約 50 坪）
- (2) 耕種概要
- 1) 栽培方法 養液土耕栽培
 - 2) は種月日 平成 23 年 2 月 28 日
 - 3) 移植月日 平成 23 年 3 月 18 日（12 cmポット）
 - 4) 定植月日 平成 23 年 4 月 21 日
 - 5) 栽植距離 ベッド幅 120 cm、株間 40 cm、2 条植え 320 株/棟
 - 6) 施肥量 (kg/a) N-P-K=土壌分析結果による
 - 7) 使用資材 (kg/a) バーク堆肥：200kg、ハイプロN：37.6 L、大塚養液土耕 5 号（～収穫前）、2 号（収穫開始～）
 - 8) 収穫期間 平成 23 年 6 月上旬～10 月下旬
- (3) 調査区の構成 8 区 1 区 10 株 1 区制
- | | |
|---------------------|--------------------|
| (1) 朝日和もえか（朝日工業株） | (5) 桃太郎サニー（タキイ種苗株） |
| (2) みそら 64（みかど協和株） | (6) 桃太郎 8（タキイ種苗株） |
| (3) 桃太郎ギフト（タキイ種苗株） | (7) 麗夏（株サカタのタネ） |
| (4) 桃太郎グランデ（タキイ種苗株） | (8) AMS-007（朝日工業株） |
- (4) 調査項目 生育、収量、糖度

施設野菜の部 11

調査名：トマトの抑制栽培における品種比較調査（平成 22 年度～平成 24 年度）

1 目的 当地域におけるトマトの抑制栽培について、有望品種の選定のため、品種比較し、栽培上の資料とする。

2 調査方法

- (1) 調査場所 ガラス温室 8 号（165 m²：約 50 坪）
- (2) 耕種概要
- 1) 栽培方法 養液土耕栽培
 - 2) は種月日 平成 23 年 6 月上旬
 - 3) 定植月日 平成 23 年 7 月上旬
（前作の栽培中にその株間に定植）
 - 4) 栽植距離 ベッド幅 120 cm、株間 40 cm、2 条植え 320 株/棟
 - 5) 施肥量 (kg/a) N-P-K=土壌分析結果による
 - 6) 使用資材 (kg/a) 大塚養液土耕 5 号（～収穫前）、2 号（収穫開始～）
 - 7) 収穫期間 平成 23 年 9 月上旬～11 月下旬
 - 8) 保温・加温 内カーテン、温風暖房機による
- (3) 調査区の構成 8 区（品種） 1 区 10 株 1 区制
- | | |
|-----------------------|----------------------|
| (1) 朝日和もえか（朝日工業株） | (5) 桃太郎サニー（タキイ種苗株） |
| (2) みそら 64（みかど協和株） | (6) 桃太郎はるか（タキイ種苗株） |
| (3) CF 桃太郎はるか（タキイ種苗株） | (7) りんか 409（株サカタのタネ） |
| (4) 桃太郎ギフト（タキイ種苗株） | (8) 麗夏（株サカタのタネ） |
- (4) 調査項目 生育、収量、糖度

施設野菜の部 12

調査名：ミニトマトの促成栽培における品種比較調査（平成 22 年度～平成 24 年度）

1 目的 当地域におけるミニトマトの促成栽培について、有望品種の選定のため、品種比較し、栽培上の資料とする。

2 調査方法

- (1) 調査場所 ガラス温室 6 号（165 m²：約 50 坪）
- (2) 耕種概要
- 1) 栽培方法 養液土耕栽培
 - 2) は種月日 平成 22 年 12 月 20 日
 - 3) 移植月日 平成 23 年 1 月 14 日（15 cmポット）
 - 4) 定植月日 平成 23 年 2 月 18 日
 - 5) 育苗日数 60 日
 - 6) 栽植距離 ベッド幅 120 cm、株間 40 cm、2 条植え 320 株/棟
 - 7) 施肥量 (kg/a) N-P-K=土壌分析結果による
 - 8) 使用資材 (kg/a) バーク堆肥：200kg、ハイプロN：37.6 L、大塚養液土耕 5 号（～収穫前）、2 号（収穫開始～）
 - 9) 収穫期間 平成 23 年 5 月 6 日～7 月下旬
 - 10) 加温・保温 内カーテン、温風暖房機（12 設定）定植後～
- (3) 調査区の構成 6 区（品種）1 区 10 株 1 区制
- | | |
|-----------------------|-------------------------|
| (1) キャロル 10(株サカタのタネ) | (4) サンチェリーピュア(トキタ種苗(株)) |
| (2) SC7-040 (株サカタのタネ) | (5) ラブリー藍(みかど協和(株)) |
| (3) キャロルクイーン(株サカタのタネ) | (6) CF 千果(タキイ種苗(株)) |
- (4) 調査項目 生育、収量、糖度

施設野菜の部 13

調査名：ミニトマトの夏秋栽培における品種比較調査（平成 19 年度～平成 24 年度）

1 目的 当地域におけるミニトマトの夏秋栽培について、有望品種の選定のため、品種比較し、栽培上の資料とする。

2 調査方法

- (1) 調査場所 ガラス温室 5 号（165 m²：約 50 坪）
- (2) 耕種概要
- 1) 栽培方法 養液土耕栽培
 - 2) は種月日 平成 23 年 2 月 28 日
 - 3) 移植月日 平成 23 年 3 月 18 日（12 cmポット）
 - 4) 定植月日 平成 23 年 4 月 21 日
 - 5) 栽植距離 ベッド幅 120 cm、株間 40 cm、2 条植え 320 株/棟
 - 6) 施肥量 (kg/a) N-P-K=土壌分析結果による
 - 7) 使用資材 (kg/a) バーク堆肥：200kg、ハイプロN：37.6 L、大塚養液土耕 5 号（～収穫前）、2 号（収穫開始～）
 - 8) 収穫期間 平成 23 年 6 月上旬～10 月下旬
- (3) 調査区の構成 7 区（品種）1 区 10 株 1 区制
- | | |
|-----------------------|-------------------------|
| (1) キャロル 10(株サカタのタネ) | (4) Mr.浅野のけっさく(株渡辺採種場) |
| (2) SC7-040 (株サカタのタネ) | (5) サンチェリーピュア(トキタ種苗(株)) |
| (3) ラブリー藍(みかど協和(株)) | (6) CF 千果(タキイ種苗(株)) |
| | (7) N-30(尙吉田種苗) |
- (4) 調査項目 生育、収量、糖度

施設野菜の部 14

調査名：ミニトマトの抑制栽培における品種比較調査（平成 22 年度～平成 24 年度）

1 目的 当地域におけるミニトマトの抑制栽培について、有望品種の選定のため、品種比較し、栽培上の資料とする。

2 調査方法

- (1) 調査場所 ガラス温室 6 号（165 m²：約 50 坪）
- (2) 耕種概要
- 1) 栽培方法 養液土耕栽培
 - 2) は種月日 平成 23 年 6 月上旬
 - 3) 定植月日 平成 23 年 7 月上旬
（前作の栽培中にその株間に定植）
 - 4) 栽植距離 ベッド幅 120 cm、株間 40 cm、2 条植え 320 株/棟
 - 5) 施肥量 (kg/a) N-P-K=土壌分析結果による
 - 6) 使用資材 (kg/a) 大塚養液土耕 5 号（～収穫前） 2 号（収穫開始～）
 - 7) 収穫期間 平成 23 年 9 月上旬～11 月下旬
 - 8) 保温・加温 内カーテン、温風暖房機による
- (3) 調査区の構成 5 区（品種） 1 区 10 株 1 区制
- (1) キャロル 10(株サカタのタネ)
 - (2) SC7-040(株サカタのタネ)
 - (3) ラブリー藍(みかど協和株)
 - (4) サンチェリーピュア(トキタ種苗株)
 - (5) キャロルクイーン(株サカタのタネ)
- (4) 調査項目 生育、収量、糖度

施設野菜の部 15

調査名：きゅうりのつる下げ栽培に関する調査（平成 23 年度～平成 25 年度）

1 目的 仕立て方の違いによるきゅうりの収量、品質について調査し、栽培上の資料とする。

2 調査方法

- (1) 調査場所 パイプハウス 6（抑制）、7 号（促成）(30 坪：約 99 m²)
- (2) 耕種概要
- 1) 栽培方法 (抑制) 養液土耕栽培
 - 2) は種月日(穂木) 平成 23 年 7 月中旬
 - 3) は種月日(台木) 平成 23 年 7 月中旬
 - 4) 接木・移植月日 平成 23 年 7 月下旬（9 cmポット）
 - 5) 定植月日 平成 23 年 8 月上旬
 - 6) 栽植距離 慣行区：ベッド幅 150 cm、株間 45 cm、2 条植え 144 株/棟
つる下げ区：ベッド幅 150 cm、株間 45 cm、2 条植え(4 本仕立) 144 株/棟
 - 7) 施肥量 (kg/a) N-P-K=土壌分析結果による
 - 8) 使用資材 (kg/a) バーク堆肥：200kg
大塚養液土耕 5 号（～収穫前） 2 号（収穫開始～）
 - 9) 収穫期間 平成 23 年 8 月下旬～11 月上旬（抑制）
- (3) 調査区の構成 2 区
- (1) 慣行区：1 本仕立て（株間 45 cm 2 条植え）
 - (2) つる下げ区：4 本仕立て（株間 90 cm 1 条植え）
- 品種：エクセレント節成 2 号(埼) × ゆうゆう一輝黒(埼)
(埼):(株)埼玉原種育成会
- (4) 調査項目 生育、収量

調査名：ミニトマトの作型比較調査（平成 23 年度～平成 25 年度）

- 1 目的 当地域におけるミニトマトの主な作型（夏秋：5月中旬定植、半促成+抑制）について、比較調査し、栽培上の資料とする。

2 調査方法

- (1) 調査場所 パイプハウス 3号（約 132 m²：約 40 坪）
- (2) 耕種概要
- 1) 栽培方法 養液土耕栽培
（半促成） （夏秋） （抑制）
- 2) は種月日 平成 23 年 2 月 1 日、4 月中旬、6 月中旬
- 3) 定植月日 平成 23 年 3 月 25 日、5 月中旬、7 月中旬
- 4) 栽植距離 ベッド幅 120 cm、株間 40 cm、2 条植え 320 株/棟
- 5) 施肥量 (kg/a) 土壌分析結果による
- 6) 使用資材 (kg/a) バーク堆肥：200kg、ハイプロ N：37.6 L、
大塚養液土耕 5 号（～収穫前）、2 号（収穫開始～）
- 7) 収穫期間 平成 23 年 4 月中旬～11 月
- (3) 調査区の構成 2 区（品種：キャロル 10（株サカタのタネ）
(1) 夏秋型
(2) 半促成+抑制型
- (4) 調査項目 生育、収量、糖度

3 2 調査計画（露地野菜）

露地野菜の部 1

調査名：ねぎの品種比較調査（平成 22 年度～平成 24 年度）

- 1 目的 ねぎの周年栽培を実施し、当地域における周年出荷の可能性及びねぎの適応品種について調査し、栽培上の資料とする。

2 調査方法

- (1) 調査場所 露地ほ場（新規ほ場）
- (2) 耕種概要
1) 育苗方法 チェーンポット CP-303（264 穴）2 粒播き
2) は種及び定植月日
は種 定植
平成 22 年 12 月 2 日 平成 23 年 3 月 30 日
平成 23 年 4 月 6 日 平成 23 年 5 月 20 日
平成 23 年 5 月 9 日 平成 23 年 6 月中旬
- 3) 栽植距離 うね幅 100 cm、株間 5 cm
4) 定植株数 40,000 本/10a
5) 施肥量 N-P-K=18-18-18 kg/10a
6) 使用資材 堆肥：2t/10a
(基肥) ハイパーCDU555：40 kg/10a
(追肥) ハイパーCDU555：80 kg/10a/2 回
- 7) 収穫月日 平成 23 年 7 月下旬
平成 23 年 9 月中旬
平成 23 年 10 月下旬
- (3) 調査区の構成 調査区 1 区制・1 区 2.5m
供試品種 K-904、K-924、夏扇ハ[®]ワ、みちのく 701、
夏扇 2 号、夏扇 4 号、Y0-810、夏秋白扇 5 号、
おいらせ 111
- (4) 調査項目 生育、収量、品質

地野菜の部 2

調査名：ピーマンの品種比較調査（新規：平成 23 年度～平成 24 年度）

- 1 目的 ピーマンの露地栽培において、品種比較調査をし、栽培上の資料とする。

2 調査方法

- (1) 調査場所 露地ほ場（新規ほ場）
- (2) 耕種概要
1) 栽培方法 土耕栽培
2) は種及び定植月日
は種 定植
平成 23 年 2 月 17 日 平成 23 年 5 月 2 日
平成 23 年 3 月 8 日 平成 23 年 5 月 17 日
- 3) 栽植距離 うね幅 150 cm、株間 50 cm
4) 定植株数 1,300 株/10a
5) 施肥量 N-P-K=44.4-33.6-44.4 kg/10a
6) 使用資材 堆肥：2t/10a
(基肥) 野菜エコブレンド：300 kg/10a(10-10-10)
(追肥) くみあい燐硝安加里 S646：90 kg/3 回/10a(16-4-16)
- (3) 調査区の構成 調査区 1 区制・1 区 5 株
供試品種 かがやき (株)南国育種研究農場)
かがやき K (株)南国育種研究農場)
スーパーかがやき (株)南国育種研究農場)
武蔵(TP×園大) (株)南国育種研究農場)
さらら (財)日本園芸生産研究所)
- (4) 調査項目 生育、収量、品質

露地野菜の部 3

調査名：ピーマンの肥効調整型肥料における施肥効果の調査（新規：平成23年度～平成24年度）

1 目的 基肥用肥料の違いが収量・品質に及ぼす影響について調査し、栽培上の資料とする。

2 調査方法

- | | |
|------------|---|
| (1) 調査場所 | 露地ほ場（新規ほ場） |
| (2) 耕種概要 | |
| 1) 栽培方法 | 土耕栽培 |
| 2) は種月日 | 平成23年3月8日 |
| 3) 定植月日 | 平成23年5月17日 |
| 4) 栽植距離 | うね幅150cm、株間50cm |
| 5) 定植株数 | 1,300株/10a |
| 6) 施肥量 | 堆肥：2t/10a
野菜エコブレンド
(基肥)野菜エコブレンド：300kg/10a(10-10-10)
(追肥)くみあい燐硝安加里 S646：90kg/3回/10a(16-4-16)
【合計】44.4-33.6-44.4kg/10a
豊作太郎
(基肥)豊作太郎：250kg/10a(12-12-10)
(追肥)くみあい燐硝安加里 S646：90kg/3回/10a(16-4-16)
【合計】44.4-33.6-39.4kg/10a
新野菜エコブレンド
(基肥)新野菜エコブレンド：230kg/10a(13-5-8)
(追肥)くみあい燐硝安加里 S646：90kg/3回/10a(16-4-16)
【合計】44.3-15.1-32.8kg/10a
豊作太郎3号
(基肥)豊作太郎3号：250kg/10a(12-10-10)
(追肥)くみあい燐硝安加里 S646：90kg/3回/10a(16-4-16)
【合計】44.4-28.6-39.4kg/10a |
| (3) 調査区の構成 | 調査区 1区制・1区5株
供試品種 かがやき(株南国育種研究農場) |
| (4) 調査項目 | 生育、収量、品質 |

露地野菜の部 4

調査名：ながいもの追肥省略型肥料における施肥効果の調査（平成 22 年度～平成 24 年度）

- 1 目的 追肥時期の遅れによる秀品率低下の解消、追肥作業の省力化を図るため、追肥省略型肥料における品質・収量について調査し、栽培上の資料とする。

2 調査方法

- (1) 調査場所 露地ほ場（新規ほ場）
- (2) 耕種概要
- 1) 植付月日 平成 23 年 5 月 18 日
- 2) 栽植距離 うね幅 120 cm、株間 21 cm
- 3) 植付本数 3,968 本/10a
- 4) 施肥量 堆肥：2t/10a
- 慣行区
- （基肥）太平複合新長いも：80 kg/10a（12-18-12）
- （追肥）くみあい燐硝安加里 S440：90 kg/3 回/10a（14-4-20）
- 【合計】22.6-18.0-27.6 kg/10a
- 秋のごたえ 7
- （基肥）秋のごたえ 7：260 kg/10a（10-12-7）
- 【合計】26-31.2-18.2 kg/10a
- ハイパーCDU555 中期
- （基肥）ハイパーCDU555 中期：120 kg/10a（15-15-15）
- （追肥）くみあい燐硝安加里 S440：30 kg/1 回/10a（14-4-20）
- 【合計】22.2-19.2-24 kg/10a
- スーパーロング 424-S70
- （基肥）スーパーロング 424-S70：130 kg/10a（14-12-14）
- （追肥）くみあい燐硝安加里 S440：30 kg/1 回/10a（14-4-20）
- 【合計】22.4-16.8-24.2 kg/10a
- ハイパーCDU555 長期
- （基肥）ハイパーCDU555 長期：150 kg/10a（15-15-15）
- 【合計】22.5-22.5-22.5 kg/10a
- 5) 収穫月日 平成 23 年 11 月下旬
- (3) 調査区の構成 調査区 1 区制・1 区 20m
供試品種 園試系 6（1 年子 91g～120g）
- (4) 調査項目 生育、収量、品質

露地野菜の部 5

調査名：ながいもの品種比較調査（新規：平成23年度～平成24年度）

- 1 目的 当地域で栽培されているながいもの品種・系統について比較調査をし、栽培上の資料とする。

2 調査方法

- (1) 調査場所 露地ほ場（新規ほ場）
- (2) 耕種概要
1) 植付月日 平成23年5月18日
2) 栽植距離 うね幅120cm、株間15cm（5,555本/10a）
うね幅120cm、株間21cm（3,968本/10a）
うね幅120cm、株間24cm（3,472本/10a）
- 3) 施肥量 堆肥：2t/10a
（基肥）太平複合新長いも：80kg/10a（12-18-12）
（追肥）くみあい燐硝安加里 S440：90kg/3回/10a（14-4-20）
【合計】22.6-18.0-27.6kg/10a
- 4) 収穫月日 平成23年11月下旬
- (3) 調査区の構成 調査区 1区制・1区7.5～12m
供試品種 遠藤系
庄司系
園試系6
あおもり短八
種いもの種類 切いも（100g）
- (4) 調査項目 生育、収量、品質

露地野菜の部 6

調査名：にんにくの栽植距離別収量調査（新規：平成23年度～平成24年度）

- 1 目的 当地域におけるにんにく栽培において株間及び種子重量別収量について調査し、栽培上の資料とする。

2 調査方法

- (1) 調査場所 露地ほ場（新規ほ場）
- (2) 耕種概要
1) 栽培方法 マルチ栽培（コーターコンピ・グリーン）
2) 定植年月日 平成22年10月13日
3) 栽植距離 うね幅150cm、株間13cm、条間25cm、4条植え
うね幅150cm、株間15cm、条間25cm、4条植え
うね幅150cm、株間17cm、条間25cm、4条植え
- 4) 植付本数 20,512片/10a
17,777片/10a
15,686片/10a
- 5) 施肥量 N-P-K=25-25-18
- 6) 使用資材 堆肥：2t、サイトニンエースZ：90kg/10a
（基肥）熟畑大玉にんにく：180kg/10a（14-14-10）
（追肥）葉面散布（4回）
- 7) 収穫月日 平成23年6月下旬
- (3) 調査区の構成 調査区 1区制・1区3.25～4.25m
供試品種 エム・ジー・エス（パイオ由来）
種子重量 小(8.0g～12.0g) 中(12.1g～16.0g) 大(16.1g～)
- (4) 調査項目 生育、収量、品質

3 3 調査計画（花き）

花きの部 1

調査名：エラータム系デルフィニウムの周年栽培調査（平成 22 年度～平成 23 年度）

1 目的 当地域におけるエラータム系品種の特性を把握するため、据え置き栽培について調査し、栽培上の資料とする。

2 調査方法

(1) 調査場所 パイプハウス 9 号（99 m²）

(2) 耕種概要

1) 栽培方法 土耕栽培

2) 播種月日 平成 22 年 2 月 22 日

3) 定植月日 平成 22 年 4 月 19 日

4) 栽植距離 うね幅 80 cm、株間 20 cm、条間 20cm、4 条植え

5) 定植株数 1,080 株/棟

6) 施肥量 (kg/a) N-P-K=1.0-0.4-7.6(平成 22 年定植時)

7) 使用資材 (kg/a) バーク堆肥：100、トリオ有機 S048：10、珪酸加里：34、ハイ
クド 40：8(平成 22 年定植時)

20cm×4 目フラワーネット、カビ取りマッセ、ケイントップ(有
機質資材)：20、メガクール(遮光フィルム)

8) 遮光期間 平成 23 年 7 月上旬～ 9 月上旬 メガクール

9) 収穫期間 平成 23 年 5 月下旬～ 10 月下旬

(3) 調査区の構成

1) 調査区 5 区（1 品種 1 区制 10 株）

2) 供試品種 5 品種

No.	品種名	花色	会社名
1	ブルースピアー	青	青森県
2	マジックフォンテンブルーインプ	青	(株)ミヨシ
3	パシフィックジャイアントブルーバード	青	福花園種苗(株)
4	オーロラブルーインプ	青	タキイ種苗(株)
5	なつぞらスピアー（旧名:青フラDel交4号）	青	青森県

(4) 調査項目 生育、開花、切花

花きの部 2

調査名：秋菊の栽培調査(11月出荷)(平成20年度～平成23年度)

1 目的 当地域における白輪菊の特性を把握するため、開花時期及び切花品質について調査し、栽培上の資料とする。

2 調査方法

- (1) 調査場所 パイプハウス11号(99 m²)
- (2) 耕種概要
- 1) 栽培方法 土耕栽培
 - 2) 採穂月日 平成23年8月上旬
 - 3) 定植月日 平成23年8月中旬
 - 4) 栽植距離 うね幅45cm、株間15cm、条間15cm、1マス3本の2条植え
 - 5) 定植株数 3,600本/棟
 - 6) 仕立て法 無摘心
 - 7) 電照期間 22~2時：深夜暗期中断 4時間
平成23年8月中旬(定植時)～草丈65cm
消灯8日後から3日間
消灯4日後から3日間
 - 8) 加温期間 平成23年10月上旬～(最低温度13℃)
 - 9) 施肥量(kg/a) N-P-K=1.0-0.4-0.8
 - 10) 使用資材(kg/a) バーク堆肥：200、トリオ有機S048：10
15cm×3目フラワーネット、ケイントップ(有機質資材)：60
 - 11) 収穫期間 平成23年11月下旬
- (3) 調査区の構成
- 1) 調査区 3区(1品種1区制30株)
 - 2) 供試品種 3品種
- | No. | 品種・系統名 | 備考 |
|-----|----------|---------|
| 1 | 神馬2号・長崎2 | 長崎県農試選抜 |
| 2 | 新神2 | 鹿児島県育成 |
| 3 | 神馬 | |
- (4) 調査項目 生育、開花、切花

花きの部 3

調査名：ラークスパーの栽培調査(6月出荷) (新規：平成23年度～平成25年度)

1 目的 当地域におけるラークスパーの6月出荷栽培の特性を把握するため、開花時期及び切花品質について調査し、栽培上の資料とする。

2 調査方法

(1) 調査場所 パイプハウス8号(99 m²)

(2) 耕種概要

- 1) 栽培方法 土耕栽培
- 2) 播種年月日 平成23年2月22日
- 3) 定植年月日 平成23年3月28日
- 4) 栽植距離 うね幅80cm、株間20cm、条間20cm、4条植え
- 5) 定植株数 1,080本/棟
- 6) 仕立て法 草丈15cmで摘心
- 7) 施肥量(kg/a) N-P-K=1.0-0.4-0.8
- 8) 使用資材(kg/a) バーク堆肥：200、トリオ S048：10
200穴セルトレイ、黒マルチ、10cm×4目フラワーネット
- 9) 収穫期間 平成23年6月下旬

(3) 調査区の構成

1) 調査区 5区(1品種1区制10株)

2) 供試品種 5品種

No.	品種名	早晚性	花色	会社名
1	シドニーライトブルー	早生	淡藤	(株)ミヨシ
2	ミヨシのピンク	中早生	桃	(株)ミヨシ
3	ミヨシのライラック	中生	藤	(株)ミヨシ
4	カンヌローズストライプ	早生	濃桃・桃絞	タキイ種苗(株)
5	カンヌクリスタルピンク	早生	桃	タキイ種苗(株)

(4) 調査項目 生育、開花、切花

花きの部 4

調査名：トルコギキョウの品種比較調査(8月出荷) (平成7年度～平成26年度)

1 目的 8月出荷栽培におけるトルコギキョウの品種について比較調査し、栽培上の資料とする。

2 調査方法

(1) 調査場所 パイプハウス5号(132 m²)

(2) 耕種概要

- 1) 栽培方法 養液土耕栽培
- 2) 播種年月日 平成23年2月15日
- 3) 定植年月日 平成23年4月4日
- 4) 栽植距離 うね幅110cm、株間10cm、条間10cm、8条植え(中3条抜き)
- 5) 定植株数 4,300本/棟
- 6) 施肥量(kg/a) N-P-K=0.9-0.7-1.7
- 7) 使用資材(kg/a) バーク堆肥：200、大塚化学(株)製養液土耕5号：1.3、同2号：4.5
288穴セルトレイ、白黒ダブルマルチ、10cm×11目フラワーネット、ネニソイル(微生物資材)：15
- 8) 収穫期間 平成23年8月上旬

(3) 調査区の構成

- 1) 調査区 21区(1品種1区制10株)
- 2) 供試品種 21品種

No.	品種名	早晩性	色	花形	花径	メーカー
1	シャルル ライトアブリコット	早生	淡杏	一重・刈ッ	中大	(株)ミヨシ
2	シャルルダークブルー	早生	紫	一重・刈ッ	中大	(株)ミヨシ
3	プレシア	中早生	白	八重	中大	カネコ種苗(株)
4	アンリ	中早生	淡杏	八重	中大	カネコ種苗(株)
5	シルビア	中早生	濃桃	八重	中	カネコ種苗(株)
6	エグゼホワイト	中早生	白	八重	大	カネコ種苗(株)
7	マエストロ	中早生	白	八重	中	住化農業資材(株)
8	エンゲージホワイト	中早～中生	白	八重	中大	住化農業資材(株)
9	ファルダマンゴー	中生	淡杏	一重・刈ッ	大	タキイ種苗(株)
10	ファルダチェリー	中生	濃サーモン	一重・刈ッ	大	タキイ種苗(株)
11	天てまり	中生	白	八重	大	タキイ種苗(株)
12	バルカンホワイト	中生	白	一重	中小	タキイ種苗(株)
13	ピオッジア	中生	覆輪・紫緋	八重	大	福花園種苗(株)
14	トレーシー	中生	紫	一重	中	福花園種苗(株)
15	ロマンスグリーンネオ	中生	緑	八重	中大	(株)ミヨシ
16	サフィナピンク2	中生	桃	八重	大	カネコ種苗(株)
17	サフィナブルー	中生	紫	八重	大	カネコ種苗(株)
18	モナーク ブルーフラッシュ	中生	紫緋	八重	大	(株)ムラカミシード
19	ルシーダパープル	中生	紫	一重	中	(株)ムラカミシード
20	海ほのか	中生	覆輪・紫	八重	中大	住化農業資材(株)
21	パティオホワイト	中生	白	八重	中	住化農業資材(株)

(4) 調査項目 生育、開花、切花

花きの部 5

調査名：トルコギキョウの品種比較調査(9月出荷) (平成12年度～平成26年度)

1 目的 9月出荷栽培におけるトルコギキョウの品種について比較調査し、栽培上の資料とする。

2 調査方法

- (1) 調査場所 パイプハウス2号(132 m²)
- (2) 耕種概要
- 1) 栽培方法 養液土耕栽培
 - 2) 播種年月日 平成23年3月14日
 - 3) 育苗方法 セルトレイに播種、吸水後、6 暗黒条件下にて35日間冷蔵処理、その後普通育苗
 - 4) 定植年月日 平成23年5月下旬
 - 5) 栽植距離 うね幅110cm、株間10cm、条間10cm、8条植え(中3条抜き)
 - 6) 定植株数 4,300本/棟
 - 7) 短日処理 定植10日後から25日間(17時～8時)
 - 8) 施肥量(kg/a) N-P-K=0.9-0.7-1.7
 - 9) 使用資材(kg/a) バーク堆肥：200、大塚化学(株)製養液土耕5号：1.3、同2号：4.5、288穴エクセルソイル(育苗培土)、白黒ダブルマルチ、10cm×11目フラワーネット、ネニソイル(微生物資材)：15、短日処理用遮光カーテン、メガクール(遮光フィルム)
- 10) 遮光期間 平成23年7月下旬～8月下旬 メガクール
- 11) 収穫期間 平成23年9月中旬～

(3) 調査区の構成

- 1) 調査区 20区(1品種1区制10株)
- 2) 供試品種 20品種

No.品種名	早晩性	色	花形	花径	メーカー
1 ファルダチェリー	中生	濃サーモン	一重・刈ッ	大	タキイ種苗(株)
2 天てまり	中生	白	八重	大	タキイ種苗(株)
3 チャーミングチャーミー	中生	ローズ	八重	小	福花園種苗(株)
4 トレーシー	中生	紫	一重	中	福花園種苗(株)
5 ロペライエロー	中生	黄	八重	中大	(株)サカタのタネ
6 ロペラライトピンク	中生	桃	八重	中大	(株)サカタのタネ
7 サフィナピンク	中生	桃	八重	大	カネコ種苗(株)
8 キュアブルー	中生	濃紫	八重	中	カネコ種苗(株)
9 爽涼	中生	紫緋	八重	中大	カネコ種苗(株)
10 モナークローズ	中生	赤紫	八重	大	(株)ムラカミシード
11 海ほのか	中生	覆輪・紫	八重	中大	住化農業資材(株)
12 エンゲージホワイト	中早～中生	白	八重	中大	住化農業資材(株)
13 凜	中～中晩生	白	八重	中大	(株)ミヨシ
14 マーブルピンク	中晩生	覆輪・桃	八重	中	(株)ミヨシ
15 アメリア	中晩生	白	八重	小	福花園種苗(株)
16 パティオブルー	中晩生	紫	八重	中	住化農業資材(株)
17 MEX8075	中晩生	覆輪・紫	八重	大	(株)ムラカミシード
18 MEX8076	中晩生	覆輪・桃	八重	大	(株)ムラカミシード
19 MEX8077	晩生	濃桃	八重	大	(株)ムラカミシード
20 MEX8082	晩生	桃	八重	大	(株)ムラカミシード

- (4) 調査項目 生育、開花、切花

3 4 土壌分析

目的	<p>農業者及び農業団体から依頼された土壌を分析し、土壌改良の資料とする。</p> <p>また、当市において、産地形成されている地域のモデルとなる地点を定点観測地点に設定し、土壌分析を行ない、土壌改良の資料とする。</p>																																																		
分析項目	<p>(1) pH (H₂O・KCl)</p> <p>(2) EC (電気伝導度)</p> <p>(3) 有効態リン酸</p> <p>(4) リン酸吸収係数</p> <p>(5) CEC (塩基置換容量)</p> <p>(6) 置換性カルシウム</p> <p>(7) 置換性マグネシウム</p> <p>(8) 置換性カリウム</p> <p>(9) 水分</p>																																																		
定点観測地点の概要	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th style="width: 20%;">地区名</th> <th style="width: 15%;">地点数</th> <th colspan="2" style="width: 65%;">対象作物</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>市川地区</td> <td>11</td> <td>いちご</td> <td>施設</td> </tr> <tr> <td>下長地区</td> <td>3</td> <td>花き</td> <td>施設</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">上長地区</td> <td rowspan="2">2</td> <td>ながいも</td> <td>露地</td> </tr> <tr> <td>食用菊</td> <td>露地</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">豊崎地区</td> <td rowspan="3">3</td> <td>にんにく</td> <td>露地</td> </tr> <tr> <td>ピーマン</td> <td>露地</td> </tr> <tr> <td>ながいも</td> <td>露地</td> </tr> <tr> <td>館地区</td> <td>6</td> <td>ミニトマト</td> <td>施設</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">是川地区</td> <td rowspan="3">7</td> <td>ねぎ</td> <td>露地</td> </tr> <tr> <td>ながいも</td> <td>露地</td> </tr> <tr> <td>きゅうり</td> <td>施設</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">南郷地区</td> <td rowspan="4">6</td> <td>トマト</td> <td>施設</td> </tr> <tr> <td>きゅうり</td> <td>施設</td> </tr> <tr> <td>そば</td> <td>露地</td> </tr> <tr> <td>農園</td> <td>露地</td> </tr> </tbody> </table>			地区名	地点数	対象作物		市川地区	11	いちご	施設	下長地区	3	花き	施設	上長地区	2	ながいも	露地	食用菊	露地	豊崎地区	3	にんにく	露地	ピーマン	露地	ながいも	露地	館地区	6	ミニトマト	施設	是川地区	7	ねぎ	露地	ながいも	露地	きゅうり	施設	南郷地区	6	トマト	施設	きゅうり	施設	そば	露地	農園	露地
地区名	地点数	対象作物																																																	
市川地区	11	いちご	施設																																																
下長地区	3	花き	施設																																																
上長地区	2	ながいも	露地																																																
		食用菊	露地																																																
豊崎地区	3	にんにく	露地																																																
		ピーマン	露地																																																
		ながいも	露地																																																
館地区	6	ミニトマト	施設																																																
是川地区	7	ねぎ	露地																																																
		ながいも	露地																																																
		きゅうり	施設																																																
南郷地区	6	トマト	施設																																																
		きゅうり	施設																																																
		そば	露地																																																
		農園	露地																																																

3 5 植物組織培養

1 優良種苗の増殖実績

- (1) にんにく・・・(1品種 培養中)
- (2) いちご・・・(4品種、培養中)
- (3) デルフィニウム・・・(2品種、随時順化中)

2 優良種苗の配布実績

デルフィニウムの苗については、市内の花き生産農家からの要望に応じて随時順化後、配布予定。

3 6 市民農園設置事業

目 的	自然環境の中で市民が家族ぐるみによる農業体験を通じて、農業知識の向上並びに農業に対する理解を深めてもらうために実施する。
場 所	八戸市農業経営振興センター内
期 間	平成23年4月17日～平成23年11月20日まで
面積及び募集区画数	1区画当たり33㎡：280区画、99㎡：5区画
対 象	八戸市民(1世帯1区画)
使 用 料	2,500円(33㎡)、7,500円(99㎡)
主要施設	休憩所(1ヶ所) トイレ(2基) 電話(1台) 農業用水道(6ヶ所) 駐車場(1ヶ所 1,000㎡)

3 7 農業体験学習

目 的	小学生等の食育の一環として、農作物を育て、収穫する喜びを体験し、農業及び食物に対する理解を深めてもらうため、農業体験の場を提供する。
計 画	1 鷗盟大学(園芸科1学年、2学年) 平成23年4月下旬から11月下旬 じゃがいも等の栽培指導 (畝作り、植付、管理、収穫) 2 小学校等への出張指導 作物の植付けから収穫までの指導 3 幼稚園、小学校等を対象に体験学習 作物の植付け(種まき) 管理、収穫の体験 八戸の農業についての勉強

発行：八戸市農業経営振興センター（平成 23 年 5 月）

〒番号	039-1101
住 所	青森県八戸市大字尻内町字毛合清水 29
電 話	0178-27-9163
F A X	0178-27-9166
E-mail	nokei@city.hachinohe.aomori.jp